

北海道大学 新渡戸カレッジ
特別教育プログラム

ボランティア

2016 年度 報告書

Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ～世界に開かれた世界と協働～
(平成 26 年度文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」)

北海道大学新渡戸カレッジ
2017 年 4 月

北海道大学 新渡戸カレッジ
特別教育プログラム

ボランティア

2016年度 報告書

Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ～世界に開かれた世界と協働～
(平成26年度文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」)

北海道大学新渡戸カレッジ

2017年4月

編集

川畑 智子(北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部高等教育研究部門新渡戸カレッジ担当特任准教授)

協力 北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部
北海道大学新渡戸カレッジオフィス
北海道大学学生ボランティア活動相談室
国際連携機構国際連携課・国際交流課・国際教務課
北海道大学附属図書館北図書館

目次

目次

ごあいさつ.....	1
はじめに.....	2
1. 授業概要.....	7
2. 年間行事.....	8
3. 履修状況.....	9
4. 集計結果.....	10
(1)全体の集計結果.....	10
(2) 取得単位ごとの集計結果.....	11
1. 2単位取得者の特徴.....	11
2. 1単位取得者の特徴.....	13
考察.....	15
5. 学生が参加したボランティアの種類.....	20
6. 活動内容.....	22
6-1. 具体的な活動内容.....	24
7. 学んだこと、気がついたこと.....	26
8. ボランティア参加の動機や理由.....	32
9. 教員への要望.....	37
10. 参加先からのコメント.....	38
学生たちによるボランティア体験報告.....	41
教えるつもりだったのに…2.....	43
ボランティア活動報告.....	45
ボランティアを通して学んだコミュニケーション.....	47
大学生学習サポーター事業.....	49

Ten To Ten でのボランティア活動報告書.....	51
ボランティア活動の社会的な位置づけと意味について.....	53
ボランティアカフェの可能性.....	56
ベトナムの Sa Dec でのボランティア活動報告書.....	58
ボランティア活動を通して学んだこと.....	60
札幌市円山動物園での活動を通じて.....	61
R S Rでのボランティア活動についての活動報告書.....	63
渡日時留学生サポーター活動報告書.....	65
RISING SUN ROCK FESTIVAL での環境対策ボランティア.....	67
東札幌病院ボランティア.....	69
YOSAKOI ソーラン祭り・渡日時留学生サポーター活動報告書.....	71
一日体験実習のふりかえり.....	73
一日体験実習週間について.....	75
一日体験実習週間の意見・感想.....	76
一日体験実習週間 ボランティアのみなさんへ.....	81
新渡戸カレッジ生自主企画「七夕まつり」の主な活動内容.....	86
「七夕まつり」企画の動機と目標.....	87
「七夕まつり」企画から学んだこと、気がついたこと.....	88
教員への要望.....	89
ボランティア活動を企画運営して.....	90
資料.....	93
1. 体験報告会の模様.....	95
2. 新渡戸カレッジボランティア紹介の展示コーナー.....	98
3. オリエンテーションの模様.....	99
4. 講義5 海外ボランティアと安全対策.....	106

5. ふりかえり会の模様.....	111
第1回 ふりかえり会.....	111
第2回 ふりかえり会.....	112
第3回 ふりかえり会.....	113
第4回 ふりかえり会.....	114
6. まとめの講義.....	115
謝辞.....	117
編集後記.....	118

ごあいさつ

北海道大学新渡戸カレッジ副校長
山口淳二



北海道大学新渡戸カレッジは、「我、太平洋の架け橋たらん」という名言を残した新渡戸稲造にちなんで名づけられました。本カレッジは、2013年に創設され、今年で5年目を迎えました。カレッジは、本学の4つの基本理念(フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視)に基づいて、高い精神性と異文化理解、コミュニケーション能力を身につけたグローバル人材を育成することを教育目標としています。

新渡戸カレッジは、国際社会で活躍するリーダーに必要な能力を座学と実技の両面で育成する教育プログラムです。座学では、専門知識、外国語運用能力、情報リテラシー、プレゼンテーション力、ディベート力など、リーダーとしての基本的な知識とスキルを育成し、実技では、責任感、情熱、リーダーシップ、困難に立ち向かう勇気、謙虚さなど、リーダーとしての資質や人格形成を育成します。カレッジでは、前者を「基本的知識とスキルセット」、後者を「マインドセット」と呼び、両者を育成することに力を入れています。

新渡戸カレッジボランティアは、特に後者の育成を目的とする科目の一つとして2014年に開講されました。本科目は、特にリーダーに必要なマインドセットを育成する目的で開設され、リーダーに求められる資質、すなわちリーダーとしての人格形成に力を入れて参りました。本科目において、学生たちは、ボランティア活動に参加し、地域社会でボランティアを必要としている人々や生き物のニーズに応えることで、社会を構成する一市民としての役割と責任を自覚し、地域社会で自発的、主体的に活躍するボランティア組織や個人との交流を通じて、彼らから社会貢献の作法を謙虚に学び、彼らとともに社会貢献することで、その情熱と勇気を学びます。このようなボランティア体験学習を通じて、学生たちは、学生ボランティアとしての可能性と限界を自覚し、現実の社会と向き合う将来のリーダーとしての第一歩を踏み出します。

今年度より、新渡戸カレッジ教育プログラムが新しくなりました。新渡戸カレッジのマインドセットの育成は、新しい教育プログラムに形を変えて引き継がれています。3年間、本科目を支えていただいた学生、教職員および地域の皆さまに心よりお礼申し上げます。そして引き続き、新渡戸カレッジのマインドセットの育成にご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成29年4月吉日

はじめに

2016年度新渡戸カレッジ教育プログラム「ボランティア」を終えて

北海道大学名誉教授 木村 純

1. この授業がとくに大切にしたこと

新渡戸カレッジ特別教育プログラムの一環として実施された、ボランティア活動体験を含む「ボランティア」の授業は開始してから3年目の取組を終えました。この授業でとくに強調して学生に伝えようとしたことは、ボランティアの自発性、主体性ということです。

自発性、主体性をわかりやすく説明している表現として「いわれなくてもする、いわれなくてもしない」（草地賢一「市民とボランティア」酒井道雄編『神戸発阪神大震災以後』岩波書店、1995年）というものがあります。この場合「いわれなくてもやる」ということが「自発性」を示し、「いわれなくてもしない」ということが「主体性」を示すものです。

しかし、「自発性」について、内海成治は、「自らが率先して行動する」「そして自分の意思で行う」ということであるとしながら、「もうすこし丁寧に自発性や自分の意思（自由意思）を考えると、答えは意外に難しい。なぜならば、まったく自分の自由意思で行う行動というのは、厳密に考えると人間にはほとんどないと思われる」からであると述べています。私たちが何かを行うときまったく自由にさまざまな条件を認識し判断するということは現実にはありえないのです（内海成治「ボランティアとは何か—教育の視点から—」、内海・中村泰秀編『新ボランティア学のすすめ—支援する/されるフィールドで何を学ぶか』昭和堂、2014年）。

したがって、学生にはなぜその活動をしたと思うのか、その活動を選択した自分自身と誠実に向き合うこと、また、活動を始めるに当たっては、出来るだけ多くの活動先を挙げ、学生自身の希望と意志によって活動先を決めることをとくに重視してきました。また、活動を終えて、報告書を作成し、報告会で発表するまでに、教員との対話を通じて、ボランティア活動を体験した学生ひとりひとりが自らの活動をふりかえることにより、自分自身の気づきを明らかにすることや体験を通じて何を学んだかを確認することを大切にしてきました。

一方、ボランティアの「自発性」について、ボランティアが市場や行政に取り込まれ、社会を変えるどころか、矛盾に満ちた社会システムに包摂されてしまう危険性が指摘されることがあります。中野敏男は、「ボランティア活動というのは、国家システムを超える

というよりは、むしろ国家システムにとって、コストも安上がりで実効性も高いまことに
巧妙なひとつの動員のかたちでありうる」のであり、ボランティアの自発性を讃えるだけ
では、「進行するシステム動員の重大な隠蔽に寄与しかねない」と述べています（中野敏男
「ボランティア動員型市民社会の陥穽」『現代思想』vol.27-5、1999年）。ボランティア
活動が果たすその社会的役割についても客観的に考えなければならないことも伝えました。

2. 学生はボランティア活動を通じて何を学び、成長したか

このボランティア活動を通じて、学生たちは、ボランティア活動は、自発性・主体性を
重視する活動ではあっても「利用者が楽しめるように気を配ったり、利用者の方のしてほ
しいことに自分から気づいてゆくことが大切だ」ということに体感的に気づいたり（ディ
サービスセンターでの体験）、「自らの周りへの気配り」が足りないことを自覚したり（ディ
サービスセンターでの体験）、子どもの集中力の低さに驚くとともに自然に対する知識の
豊かさや田舎の子どもの人懐っこさを発見した（「学校サポーター派遣事業」での体験）。「受
験学力」には自信を持っていても、複雑な問題を抱えて学力不足に苦しんでいる子どもた
ちへの学習支援の難しさをあらためて実感したり（「まなとぴあ」での体験）、同じボラン
ティア活動を一緒に取り組んだ他大学の学生との交流（「こども領事」の活動）や高齢者と
一緒に活動して、自分自身の体験の幅を広げることの大切さに気づいたり（「開拓の村」で
の体験）、ボランティアの先輩たちが見学者ひとりひとりの状況に対応してどのようにガイ
ド活動をするかということに心を砕く一方、自分自身その活動をたいへん楽しんでいる
姿に出会ったり（「円山動物園」での体験）してきました。

また、北図書館の協力を得て開催された体験報告会の際には、その都度、学生を受入れ、
活動の先輩として温かい指導をしてくださったボランティアの方たちが参加してくださり、
適切なアドバイスや貴重な感想をいただくことができました。学生がボランティア活動を
体験するということは、それぞれの活動先の先輩・同僚のボランティアや職員の方に育て
ていただいているということを経験することができました。また、それは、本学高等
教育推進機構の生涯学習計画研究部門が続けてきた地域連携の成果であることも付記して
おかなければなりません。地域との連携は、地域で真剣に生活し、活動している人びとと
協働し、学生を育てる深く豊かな土壌を耕していくことでもあるのです。学生を快く受け
入れ、ご指導いただいた施設・団体の皆様とはより連携も深まったと感じています。この
間のご協力に心から感謝申し上げます。また、学内では渡日時ボランティアとしての受入

れや海外ボランティアの紹介など多大なご支援をいただいた本学国際連携機構の皆様のご協力に対して御礼を述べたいと思います。

3. 「ボランティア」を学ぶことと「グローバル人材」になること

「グローバル人材」という言葉は、トヨタ自動車が最初に用いた言葉とされています。トヨタ自動車は全世界 11 万人の従業員を「グローバル人材」と「ローカル人材」に分け、管理職ポストのうち約 200 を「グローバルポスト」と名づけ、「世界のどこでも経営幹部として活躍できるよう教育する」（『日本経済新聞』1999 年 12 月 8 日付け）ようになったことを契機に、2000 年初頭には、同様の名称や制度を複数の大企業が取り入れるようになったといいます（『日経産業新聞』2010 年 3 月 12 日付け）。このように「グローバル人材」とは、2000 年代前半に各企業が独自の創意工夫で「開発・育成」を試みてきたものであり、ここでは、大企業で海外勤務をする正規の男性社員が想定されているとみられるものです。このような考え方が、政策的にも採用された背景には、近年の学生があまり海外に出たがらない「内向きな思考」を持つとする認識が前提となっていました（加藤恵津子/久木元真吾『グローバル人材とは誰かー若者の海外経験の意味を問う』（青弓社、2016 年）。

英語教育学の専門家の鳥飼玖美子は『朝日新聞』の取材に対し、「そもそも海外ではグローバル人材という概念がないし、グローバル化は否定的にとらえられることもある。グローバル人材という発想が、グローバルでない」（『朝日新聞』2016 年 4 月 26H 朝刊）と述べています。

「グローバル人材」にはどのような能力が必要なのかについては多様な表現がありますが、知的能力、社会・対人関係力、自己制御の 3 つの要素から成る「人間力」の低下に対処する必要が「経済活性化戦略」の一環として提示されたものとみることができます（「人間力」：内閣府「人間力戦略研究会報告書」2003 年、「社会人基礎力」：経済産業省「社会人基礎力に関する研究会・中間とりまとめ」2006 年、「学士力」：中教審「学士課程教育の構築に向けて」2008 年）。中西新太郎はこれらについて「提唱された能力概念の特質やそれぞれの異同を大まじめに（教育学等々の学問分野で検討しうるカテゴリーであるように）論じることには、あまり意味がない。問題とすべきは、これらの能力像がどのような社会・経済的要素とかかわって提出されているのかであり、これらの能力の陶冶・開発が追及され具体化されることでどのような『効果』（現実的影響）が現れるかである」（中西新太郎「グローバル競争時代の能力論・人材養成論と内面統治の国家主義」、『現代思想』2014 年 4 月号）と述べています。「人間力」は、「経済のグローバル化、就業形態の多様化に伴い、健全に競争力が発揮できる人材」で、「職業能力のミスマッチ」をなくし、「雇用流動化に耐えうる労働者たれ」という企業の要求を示しているものです。

前掲の鳥飼玖美子は、グローバル社会に求められる能力は「コミュニケーション能力」

と「異文化能力」であろうと述べ、コミュニケーション能力の前提としての「コミュニケーション」について、人間同士の関係構築であり、相互行為であるとし、それは、言葉を発したら相手から決まった言葉が返ってくるというような一方的かつ単純な事象ではなく、ある文化やその場の状況のもとに生起する人間と人間との間の「相互行為」であり、だからこそ、言語は「読む、聞く、書く、話す」の通常の4機能だけではなく、「相互行為、やりとり」が大切なのだと述べています。さらに、「異文化能力」については、文化的他者との相互行為を可能にするような「異質な文化と人に対して開かれた心」「異なる世界観を尊重する寛容性」を意味すると言っています。まさに、ボランティア活動はそのような能力の必要性に気づく機会を提供するものであり、海外におけるそれはなおさらであると考えられます（鳥飼玖美子『英語教育論争から考える』みすず書房、2014年）。

岩川直樹は、PISA リテラシーについて論ずる論文で、今求められているグローバル能力の両義性について次のように述べています。グローバル能力が必要であると捉えられるようになったのは、「グローバルな競争システムのなかで、人的資本の量と質への関心が増大し、労働市場がこれまで以上に柔軟で広範な社会的スキルをそなえた労働力を要求するようになったことに対応する」ことが要請される一方、「多様な民族的・文化的な背景が交錯するグローバルな状況のなかで、個人が自分の人生をつくり、市民として政治的・社会的に参加する力量を示す」（岩川直樹「教育における『力』の脱構築」、久富善之・田中孝彦編著『希望をつむぐ学力』明石書店、2005年）という意味を合わせもっているのです。このような両義性をもつことを理解しながら、今日のグローバリゼーションのあり方や企業活動のあり方をも問い直すことが求められているのだと思います。そのためにも今一体どのような能力が求められているのか、大学では何を学ぶべきかをともに考えることが重要です。今回のボランティア体験や授業がそのために開かれていたら幸いです。この授業に参加して学生の皆さんが、自らの「ボランティア活動」の体験について共に向き合い、そこで直面した問題の背景や解決方法を熟考し、今後の本学での勉学や留学体験を充実させることを期待しています。

1. 授業概要

新渡戸カレッジ特別教育プログラムにおける科目の位置づけ

授業科目	目標	単位	備考
留学支援英語	グローバルなコミュニケーションとしての英語力の育成	2	4単位以上
フィールド型演習	チームワーク力、リーダーシップの育成	2	2単位以上
多文化交流科目等、異文化理解促進科目	多文化状況の中での問題解決力の育成	2	2単位以上
国際交流科目		2	
英語による学部専門科目	グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力の育成	1又は2	4単位以上
日本文化・社会に関する理解増進科目		2	
新渡戸学 ボランティア インターンシップ	世界の中での日本人としての自覚の涵養とキャリア形成	1又は2	2単位以上 (新渡戸学1単位は必須)
海外留学	グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力の育成	1又は2	1単位以上
合計			15単位

ボランティアは新渡戸カレッジ独自の科目である。

科目責任者	木村純 (北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部名誉教授) 川畑智子 (北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部特任准教授)
学期・定員	通年・15～20人
ボランティア	ボランティアは、地域社会で自己の追及すべき課題を明確にするとともに、責任をもって活動することの重要性を認識することを目的とする。単位数は、実習時間数により異なる。実習30時間以上で1単位、実習60時間以上で2単位とする。

(『新渡戸カレッジ 履修の手引き』より抜粋)

履修概要

事前研修

- ・オリエンテーションと講義
- ・一日体験実習(集団実習)
- ・個別面談

個別実習

- ・30時間以上 1単位
- ・60時間以上 2単位

事後研修

- ・体験報告会とふりかえり会
- ・まとめの講義

2. 年間行事

2016年1学期

月	日	講義・事前事後研修 スケジュール
4	13 (水)	オリエンテーション 1回目 先輩からの体験報告 学生ボランティア活動相談室の紹介
	20 (水)	オリエンテーション 2回目 先輩からの体験報告 国際連携機構におけるボランティア活動の紹介
	27 (水)	講義1
5	11 (水)	講義2
	18 (水)	講義3
6	1 (水)	講義4
	8 (水)	個別面談
	15 (水)	個別面談
	29 (水)	個別面談、夏季の参加先の決定・通知開始 一日ボランティア体験実習打合せ
7	6 (水)	一日ボランティア体験実習準備
	7 (水)～12 (火)	一日ボランティア体験実習週間
	13 (水)	ふりかえり会1
	20 (水)	講義5
8	3 (水)	補講・体験報告会 (臨時開催)

2016年2学期

月	日	講義・事前事後研修 スケジュール
9	28 (水)	体験報告会の事前打合せ
10	5 (水)	体験報告会1
	12 (水)	ふりかえり会2
	19 (水)	個別相談
	26 (水)	個別相談
11	2 (水)	体験報告会の事前打合せ
	9 (水)	体験報告会2
	30 (水)	ふりかえり会3
12	7 (水)	個別相談、冬季の参加先の決定・通知開始
	14 (水)	個別相談
	21 (水)	個別相談
1	11 (水)	体験報告会の事前打合せ
	18 (水)	体験報告会3
	25 (水)	ふりかえり会4
2	1 (水)	体験報告会4 (臨時開催) 講義6 (まとめの講義)

3. 履修状況

履修完了者数

年度	事前研修修了者	実習修了者	事後研修修了者	履修完了者数
2016年度	19人	16人	15人	15人

※19人中、「欠席・連絡不能」1人、「自己都合」により履修キャンセル2人、聴講1人。

表1. 学生の基本情報（履修完了者15人）

カレッジ入学年	女性	男性	合計
2016-2	1	0	1
2016-1	7	0	7
2015-2	1	0	1
2015-1	3	1	4
2014-2	1	0	1
2013-1	1	0	1
合計	14	1	15

表2. 性別と学年

学年	女子	男子	合計
1年生	7	0	7
2年生	4	1	5
3年生	1	0	1
4年生	2	0	2
合計	14	1	15

表3. 学部別

学部	人数
総合文系	0
総合理系	2
文学部	4
教育学部	1
法学部	0
経済学部	0
医学部	0
歯学部	1
獣医学部	1
水産学部	1
理学部	0
薬学部	0
農学部	3
工学部	2
合計	15

表4. 取得単位数

取得単位数	人数
1単位	10
2単位	5
合計	15

表5. 取得単位数(学年ごとの人数)

学年	1単位	2単位	合計
1年生	4	3	7
2年生	3	2	5
3年生	1	0	1
4年生	2	0	2
合計	10	5	15

表 6. 活動内容別（「実習修了者」15人中）

活動内容(重複あり)	延べ人数
子どもの学習支援	4
高齢者福祉	2
博物館ボランティア	4
病院ボランティア、災害復興支援	2
留学支援	4
まちづくりや関連イベント	5
環境保護	4
動物愛護	2

4. 集計結果

以下は、履修完了者15人のボランティア参加状況に関する集計結果である。学生たちが参加した参加先は合計25カ所だった。参加先の数ごとにみた人数をみると、1カ所が6人、2カ所が4人、3カ所が4人、4カ所が1人で、15人中9人が2カ所以上の参加先でボランティア活動を行っていた(表7)。主な活動時期は、夏休み中が延べ12人で最も集中していた。次いで、1学期中が9人、2学期中4人、冬休み中が3人だった(表8)。活動期間の長さをみると、1ヵ月未満が5人、1ヵ月以上3ヵ月未満が5人、3ヵ月以上6ヵ月未満が4人、6ヵ月以上が1人だった。3ヵ月以内に活動を終えた人は合計10人で、全体の3分の2の人が短期間で所定の実習時間を終了していた。(表9)。活動日数は、7日間以上14日間未満が9人と最も多く、次いで7日間未満が5人、14日間以上21日間未満が1人だった(表10)。活動時間数は、30時間以上が10人、60時間以上が5人だった(表11)。主な活動地域は、札幌市内が10人と最も多く、北海道内4人、海外1人だった。

(1)全体の集計結果

表 7. ボランティア参加先の数

参加先の数	人数
1カ所	6
2カ所	4
3カ所	4
4カ所	1
合計	15

表 8. 主な活動期間

活動時期(重複あり)	延べ人数
1学期中 4～7月	9
夏休み中 8～9月	12
2学期中 10～11月	4
冬休み中 12～1月	3

表 9. 活動期間の長さ

活動期間の長さ	人数
1 ヶ月未満	5
1 ヶ月～2 ヶ月未満	2
2 ヶ月～3 ヶ月未満	3
3 ヶ月～4 ヶ月未満	3
4 ヶ月～5 ヶ月未満	1
5 ヶ月～6 ヶ月未満	0
6 ヶ月以上	1
合計	15

※「活動期間」とは、個別実習の開始日から終了日までの期間である。

表 10. 活動した日数

活動日数	人数
7 日間未満	5
7 日間以上～14 日間未満	9
14 日間以上～21 日間未満	1
合計	15

表 11. 活動時間

活動時間	人数
30 時間以上	10
60 時間以上	5
合計	15

表 12. 主な活動地域

地域	人数
札幌市内	10
北海道内	4
道外	0
海外	1
合計	15

(2) 取得単位ごとの集計結果

1. 2 単位取得者の特徴

2 単位取得者は、履修完了者 10 人中 5 人で、いずれも女子だった。学年は、いずれも 1、2 年生で、このうち 3 人が 1 年生、2 人が 2 年生だった(表 13)。活動内容は、5 人中延べ 3 人が環境保護ボランティア、延べ 2 人がまちづくりボランティア、次いで博物館ボランティア、病院ボランティア、災害復興支援ボランティアがそれぞれ 1 人だった(表 16)。参加した地域は 4 人が国内、1 人が海外(ベトナム)でボランティア活動に参加した。実習の総時間数は、5 人全員が 60 時間前後で、総日数は 3 日間～13 日

間だった。活動開始から終了までにかかった月数をみると、5人中3人が1カ月以内に実習を終え、2人が3カ月以上かけて実習を終了していた(表 15)。5人中4人が1学期中に実習を開始し、1学期中に実習を終了していた(表 17、表 18)。活動が集中した時期は7月～9月で、夏季休業中に集中していた(表 19)。

表 13. 性別と学年

性別	1年	2年	3年	4年	合計
男子	0	0	0	0	0
女子	3	2	0	0	5
合計	3	2	0	0	5

表 14. 性別とカレッジ学年

性別	2013-1	2014-1	2014-2	2015-1	2015-2	2016-1	2016-2	合計
男子	0	0	0	0	0	0	0	0
女子	0	0	0	2	0	3	0	5
合計	0	0	0	2	0	3	0	5

表 15. 学生別

性別	学年	入校年度-入校年次	所属	時間	日数	期間*	単位
女	1	2016-1	総合理系	60	3	1	2
女	2	2015-1	農学部	64	8	1	2
女	1	2016-1	獣医学部	63	13	5	2
女	1	2016-1	水産学部	60	3	1	2
女	2	2015-1	工学部	63	9	3	2

*「期間」とは、実習開始から終了までにかかった月数である。

表 16. 活動内容別（5人中）

活動内容(重複あり)	延べ人数
子どもの学習支援	0
高齢者福祉	0
博物館ボランティア	1
病院ボランティア、災害復興支援	2
留学支援	0
まちづくりや関連イベント	2
環境保護	3
動物愛護	0

表 17. 実習の開始時期(学期ごと)

開始時期	人数
1学期中(4月～9月)	5
2学期中(10月～2月)	0
合計	5

表 18. 実習の終了時期

終了時期	人数
1学期中	4
2学期中	1
合計	5

表 19. 活動が集中した時期(5人中)

時期(重複あり)	延べ人数
4月～6月	1
7月～9月	5
10月～12月	1
1月～3月	0

2. 1単位取得者の特徴

1単位取得者は、15人中10人だった。10人中4人が1年生、3人が2年生、1人が3年生、2人が4年生だった。10人中9人が女子、1人が男子だった(表20)。分野別にみると、文系理系それぞれ5人だった。学部別にみると、文学部が4人と最も多く、農学部2人、教育学部、総合理系、歯学部、工学部がそれぞれ1人だった(表22)。活動内容は、10人中子どもの学習支援と留学支援がそれぞれ延べ4人、博物館ボランティアとまちづくりや関連イベントがそれぞれ延べ3人、高齢者福祉と動物愛護がそれぞれ延べ2人、環境保護が1人だった(表23)。活動が開始された時期を学期ごとにみると、1学期7人、2学期3人(表24)で、7人が1学期中に開始し、5人が1学期中に実習活動を終えていた(表25)。実習期間の長さは、9人中7人が3カ月以内に終了していた(表22)。活動が集中した月は、特になく、4～7月、8月～9月、10月～11月がそれぞれ4人で、12月～1月が3人だったことから、時期に関わらず活動していた(表26)。実習時間は、10人中、30時間以上40時間未満が8人、40時間以上が2人いた(表22)。学生たちは各々都合の良い時期を見計らって短期間で実習を行い、効率よく計画的に実習をこなしていた。

表 20. 性別と学年

性別	1年	2年	3年	4年	合計
男子	0	1	0	0	1
女子	4	2	1	2	9
合計	4	3	1	2	10

表 21. 性別とカレッジ学年

性別	2013-1	2014-1	2014-2	2015-1	2015-2	2016-1	2016-2	合計
男子	0	0	0	1	0	0	0	1
女子	1	0	1	1	1	4	1	9
合計	1	0	1	1	1	4	1	10

表 22. 学生別

性別	学年	入校年度-入校年次	所属	時間	日数	期間※ (月数)	単位
女	1	2016-1	総合理系	35.5	12	4	1
女	1	2016-1	文学部	54	9	2	1
男	2	2015-1	農学部	38	10	3	1
女	2	2015-1	教育学部	46	11	3	1
女	4	2013-1	文学部	30.5	8	2	1
女	1	2016-1	工学部	31	5	2	1
女	4	2014-2	歯学部	33	11	9	1
女	2	2016-2	農学部	30	15	5	1
女	1	2016-1	文学部	30.5	4	2	1
女	3	2015-2	文学部	38.5	6	1	1

※「期間」とは、実習開始から終了までにかかった期間である。

表 23. 活動内容別 (10人中)

活動内容(重複あり)	延べ人数
子どもの学習支援	4
高齢者福祉	2
博物館ボランティア	3
病院ボランティア、災害復興支援	0
留学支援	4
まちづくりや関連イベント	3
環境保護	1
動物愛護	2

表 24. 実習の開始時期(学期ごと)

開始時期	人数
1学期中(4月～9月)	7
2学期中(10月～2月)	3
合計	10

表 25. 実習の終了時期

終了時期	人数
1学期中	5
2学期中	5
合計	10

表 26. 活動が集中した時期(10人中)

時期(重複あり)	延べ人数
4月～7月	4
8月～9月	4
10月～11月	4
12月～1月	3

考察

今年度の特徴として、過去3年間に比べ、異なる点がいくつかある。その特徴とは以下のとおりである。

<今年度の履修状況の特徴>

1. 海外で活動した学生が最も少なかった。
2. 男子学生が最も少なかった。
3. 3カ所以上で活動した人が全体の3割だった。
4. 自分でボランティアを探した人の割合が最も多かった。
5. 全員が個別実習を開始するまでにかかった時間が、最も短かった。
6. まちづくりや環境保護に関するボランティアをした人が多かった。
7. 実習時間数が、所定の実習時間数を大幅に超える人が少なかった。
8. 1単位取得者は、活動期間が夏休みに集中していなかった。
9. 動物に関わるボランティアをした人が多かった。

上記1については、海外でボランティア活動をした人は過去最低の1人だった。一方、海外ではなく、国内で留学支援ボランティアに参加した人は4人と過去に比べその割合は最も大きく、留学に対する関心の高さがうかがえた。海外でボランティア活動に参加する場合は、留学とは異なり、渡航費や滞在費の経済的支援がない。過去の受講生たちの声を聴くと、留学に比べ、ボランティアは「試験がないので、気楽である」「英語に自信がなく

でも行ける」「留学に比べて、入口のハードルが低い」「同じ目的をもつ多様な国の人々と交流できる」という理由から、留学よりも海外ボランティアを希望していた。しかし、経済的支援がなければ自費で行くしか方法はない。したがって比較的経済的に余裕のある学生に限られた選択肢となっている。これは、意欲はあっても機会がないという、学生にとって決して好ましいとは言えない現状を示している。

上記2については、男子学生が1人と最も少なく、女子学生が9割を占めた。女子学生の中には、3日間連続で野外合宿を必要とする大規模なボランティアや、店舗の改装や災害復興支援など体力と気力を必要とするまちづくりボランティアに参加する人が多かった。一般に、ボランティアを希望する人は、女性のほうが多いと言われている。これは、「ボランティア=子ども、高齢者、ホームレス、患者、被災者などの弱者支援」という固定的なイメージや固定的な性別役割分業観に基づく「ケア役割=女性」というイメージが社会の中に未だ存在するからである。

本科目では、このような「世話する・世話される」という非対称な関係性が少なからず入り込む弱者支援型ボランティア活動のみでなく、環境保護、まちづくりボランティア（まちづくりイベントやカフェボランティアも含む）や博物館ボランティア（博物館、図書館、美術館、動物園におけるボランティア）のような市民参加型のボランティアを紹介している。これは、ボランティアをする人が、一市民として他の市民と対等な関係を保ちつつ互いのニーズに応えるという役割を果たす。女子学生にとっては、これまで社会的に期待されてきたケア役割とは異なる役割で社会参加する良い機会となったと考えられる。

木村・川畑（2016）が実施した19人の大学生を対象としたボランティア体験学習に関する調査報告書（「ボランティア体験学習一日体験実習調査報告書」）によれば、市民参加型ボランティアは、複数の多様なボランティアと出会って話を聞いたり、多様なボランティア活動を観察したりするだけで、学生たちの「人とのつながりを大切にする」ことに対する共感性が高まることを指摘した。木村・川畑（2016）は、学生たちは、ボランティア活動に対して自らが設定した学習目標が達成されると「とにかく一度やってみる」ことに対する共感性が高まることも指摘している。

一般に、学生たちは、弱者支援型ボランティアに対して二の足を踏む傾向にある。それは、彼らのこれまでの限られた実体験において世話される側になったことが、子どもの頃に親に世話される体験以外にあまりなく、また、世話する側になったことも、家族やペットや植物などの生き物を対象とする以外にあまりなく、「世話される人」と「世話する人」のどちらにも共感を持ちづらいからである。したがって、個別実習の前に、市民参加型ボランティアを体験することで、弱者支援型ボランティアへのステップを踏むという二段階式のボランティア体験プログラムがあると良いのではないかと思われる。学生たちは、市民参加型と弱者支援型のボランティアの両方を体験することで、両者の違いにも気づく。そうすることで、両者の長所短所がわかり、学生たちが将来どのような働き方が自分たち

にとって合っているのかを体験的に感じとることができ、今後のキャリア形成の指針の一つとなると考えられる。

上記3については、過去3年間と比較して、高学年層に比べ時間的余裕があると思われてきた低学年層が8割以上を占めたが、部活やサークル活動、バイトに活発に参加している学生が多く、時間的制約が多かったことから、複数のボランティアを効率よく組み合わせることで数カ月間で所定の実習時間を満たせるように計画的に活動していたことがわかった。これは、今年度は個別実習の認定期間が1カ月間短縮されたことも影響したと考えられる。過去2年間は、認定期間が3月上旬までだったため、学生は春休みを最後の实習機会としてボランティア活動を行うことができた。しかし今年度は、認定期間を学期終了日の2月1日としたことで、春休みに期待することができなくなった。その結果、学生の実習計画に効率性が求められたのではないかと考えられる。

上記4については、自分でボランティアを探してボランティア活動に参加した人は15人中12人で、過去3年間でその割合が最も多かった。その理由は、今年度はこれまでとは異なり、過去の受講生のボランティア情報や、キャンパス内にある社会資源や情報資源を有効活用したことにある。以下に、具体的な理由を示す。

<自分でボランティアを探した人が多かった理由>

- ① 過去の先輩たちの事例紹介を増やした。前年度のオリエンテーションで、2人の先輩による体験報告をした結果、これに感銘を受けてボランティアに参加したという学生がいた。そこで、今年度は4人に増やした。
- ② 過去の年次報告書を配付し、過去の参加先一覧や活動内容を紹介した。これは昨年度も行っているが、参加先とボランティアの種類が増加し、選択肢が増えたことで学生の参加意欲が高まった。例 動物園や動物愛護のボランティア
- ③ 学生ボランティア相談室に講演を依頼し、活動内容や使い方について紹介した。既存の社会資源を有効活用することで参加先を探す方法が増え、科目責任者に頼らずに、学生個人が主体的に参加先を探すことができるようになった。
- ④ 国際連携機構におけるボランティア情報の提供、海外ボランティア説明会の情報提供など学内で入手可能なボランティア募集情報の提供をした。留学に高い関心を寄せるカレッジ生にとって、キャンパスという一つのコミュニティで、国際的な活動に参加することは最も身近な、そして費用の心配をしなくてもいい国際交流となる。将来の留学への意欲を高めるきっかけ作りとして参加する学生が増えた。
- ⑤ 上記①～③についての情報提供を2回のオリエンテーション時に行ったことにより、ボランティアの種類や探し方の選択肢に関する知識を早い時期に身につけた。
- ⑥ 個別実習の前に、一日体験実習週間を設けて、一歩踏み出す勇気をもってもらうことを目的として、全員が同じボランティア活動に参加した。

このような工夫をした結果、上記5のとおり、実習開始時期が各段に早くなった。今年度の受講生15人のうち12人が1学期中に実習を開始していた。例年になく早い時期から心の準備ができたことにより、自ら選び、自ら計画することが容易にできたと考えられる。

上記6については、今年度、まちづくりや環境保護に関するボランティアをした人は、15人中9人と最も多かった。その活動の特徴として、音楽と環境保護を組み合わせたロックフェスティバル（RSR）、建築ボランティア（居住支援）、農業と環境保護を組み合わせたベトナムの花木栽培農家でのボランティアや本学農学部主催の北大マルシェ、自治体主催のYOSAKOIソーラン祭りの実行委員会、SAPPOROフラワーカーペット、モエレ沼公園の花火大会、NPO法人主催のカフェボランティアなど、大規模なものから小規模なイベント運営や、農作業や販売、出店にかかわるボランティアが多かった。これらのボランティア活動は、個人、行政、NPO法人など主催者の形態は多様だが、人との交流が必要とされるコミュニティづくりボランティアであるという点で共通している。

この種のボランティアに参加した学生が多かった理由は2つあると考えられる。一つは、一日体験実習週間で、人が集まりやすい場所で全員が同じボランティアを観察したり、参加したりした経験をしたこと。もう一つは、効率よく実習時間を満たすことができたことである。前者では、学生たちは、全員で同じボランティアに参加することで、人とのつながりを大切にすることを学んでいたことから、人が集まる、人とのつながりが実感できるまちづくりボランティアに関心が高まったのではないかと思われる。後者では、まちづくりボランティアは、1日～7日間という短い日程で長時間の参加が求められることから、学生たちは、まちづくりのボランティアを複数組み合わせたり、まちづくりのボランティアと他のボランティアを組み合わせたりすることによって効率よく所定の実習時間数を満たしていた。今年度は、1・2年生が8割と時間には余裕があるように思われたが、初回の個別面談で話を聞いてみると、そのほとんどが部活やサークル活動、アルバイトをしており、参加先と本人のスケジュールが合わないという状況だった。学生たちは、学生ボランティア活動相談室で自分のスケジュールに合ったボランティアを自力で探したり、合間を縫って計画的にボランティア活動に参加したりしなければならなかった。その結果、上記7のとおり、実習時間数が、所定の実習時間数を大幅に超える人が少なかった。また、上記8のとおり、まちづくりボランティアは、夏に限定されたイベントだけでなく、秋の収穫期に行われるイベントも多いことから、夏休みと秋に活動時期が分散し、計画的に所定の実習時間を満たすことができた。

ボランティア実習先が見つからなかった学生の特徴として、去年は、自らの専門分野やキャリア形成に適したボランティア活動を希望する学生や、動物を扱うボランティア活動を希望するなど、活動内容にこだわりがある学生が散見された。その結果、個別学習の開始時期が遅くなり、所定の実習時間を満たすことができない学生が多かった。そこで、上

述したとおり、今年度は、一日体験実習週間を設けて、まず全員で同じボランティアに参加し、「とにかく一度やってみる」ことで選り好みせずにより踏み出す勇気をもってもらい、その後で個別に実習に参加するステップアップ方式を取り入れた。また、動物を扱うボランティアを希望する学生に対応するため、札幌円山動物園に協力を依頼し、ボランティアコーディネーターと連絡調整をはかり、参加先を新規開拓した。

その結果、今年度は昨年度の課題を克服することができた。とはいえ、履修参加登録をした19人全員が履修完了をしたわけではない。今年度は、19人中4人の学生が自己都合により、履修完了に至らなかった。しかし、履修完了者の割合は全体の8割で過去最高だった。4人のうち、当初より単位取得を目的としていなかった学生が1人、海外で所定の実習時間を終えたにもかかわらず、2学期に履修しなければならない学科の科目と日時が重なり、やむを得ず後者を優先した学生が1人、部活の大会の頻度が多く、事前研修の途中から連絡不可能になった学生が1人、個別実習を開始したものの、部活やサークルなどの時間の都合で、実習途中でとり取りやめた学生が1人だった。上記のうち、2学期に履修しなければならない学科の科目と日時が重なったケースについては、ボランティア科目が通年であり、課外で30時間以上の実習に取り組むことが履修要件になっているためである。これは一般にこのような通年で所定の実習時間を履修要件とする科目にはつきものの理由であると考えられる。その他のケースについても、実習を主な評価対象とする科目につきものの課題であり、ボランティア特有の課題とは言えない。このようなデメリットを除けば、今年度は学生のボランティア活動に大きな影響をもたらしたものは全く見当たらなかった。一方、試みとして実施した一日体験実習の導入により、学生たちは例年より早く個別実習を開始することができた。このことから、一日体験実習の効果がみてとれる。

上記9について、動物に接触するボランティアは、札幌円山動物園の他に、昨年度、動物愛護団体が運営するネコカフェでのボランティア活動をした先輩受講生の協力を得て、ネコカフェでのボランティアを参加先に加えた。動物に接触するボランティアは、生き物を扱うことから、生き物に対する知識や慎重な取り扱いが求められることがあるため、訓練が必要となる。したがって、動物を扱うボランティアは、数が限られている。新規開拓の結果、今年度は、3人の学生が参加し、このうち2人は、動物を扱うボランティアに対するこだわりを貫き、このボランティアのみで所定の実習時間を終了していた。動物を扱うボランティアの1日の参加時間数は1日30分から1、2時間であることから、これらの学生たちは根気よく続けて所定の実習時間数を満たしていた。

参考文献

木村純・川畑智子 2016『北海道大学新渡戸カレッジボランティア ボランティア体験学習 一日体験実習週間 2016年7月6日～7月13日調査報告書』北海道大学新渡戸カレッジ。

5. 学生が参加したボランティアの種類

表 27. 学生が参加したボランティア活動の種類（履修未完了者含む）

ボランティアの種類(重複あり)	延べ人数
高齢者福祉	2
子どもの学習支援、子ども福祉	5
博物館（動物園、開拓の村含む）・図書館	4
まちづくりや関連するイベント	7
病院ボランティア、ホームレス支援、障がい者支援、災害復興支援	3
留学支援	4
動物愛護	2
その他（環境保護など）	4

表 28. 学生が参加したボランティア先 一覧（学生の体験報告票から転記）（履修未完了者も含む）

参加先		ボランティアの種類
青春いきいきデイサービス	札幌市北区北 23 条西 3 丁目 1-30	高齢者福祉施設での支援
社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	札幌市北区新琴似 12 条 7 丁目 1-45	
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポータ派遣事業」 恵庭市	恵庭市公民館 恵庭市新町 10 番地 「夏休み学習サポート事業」	子どもの学習支援
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポータ派遣事業」 愛別町	愛別町総合センター上川郡愛別町字本町 1 区 「『天神クラブ 2016 夏』学力向上支援事業」	
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポータ派遣事業」 千歳市	千歳市桜木小学校 千歳市自由ヶ丘 7 丁目 1-1 「千歳市立桜木小学校夏季休業補充学習事業」	
さっぽろ・まなトピア	東白石児童会館 札幌市白石区本通 13 丁目南 10-1	
札幌国際プラザ SAPPORO こども領事 2017	札幌市北区北 1 条西 3 丁目札幌 MN ビル 3 階	
16 青少年のための科学の祭典 札幌南大会	真駒内セキスイハイムアイスアリーナ 札幌市南区真駒内公園 1 条 1 丁目	子ども福祉
Hope Children's Home Orphanage	PANTI ASUHAN WISMA ANAK-ANAK HARAPAN Jalan Anom No. 2, Dusun Untal-Untal Dalung, Kuta Utara 80361 Bali-Indonesia	
北海道開拓の村	札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	
札幌市円山動物園	札幌市中央区宮ヶ丘 3 番地 1	博物館（動物園、開拓の村を含む）・図書館

参加先		ボランティアの種類
SAPPORO フラワーカーペット 実行委員会	札幌市中央区北3条西3丁目1番地 札幌駅前藤井ビル8階	まちづくりや関連するイベント
第25回YOSAKOIソーランまつり 市民ボランティア (YOSAKOIソーラン祭り実行委員会事務局)	札幌市中央区北1条西丁目北海道経済センター4階	
モエレ沼芸術花火2016	札幌市東区モエレ沼公園1-1	
北海道大学農学部 北大マルシェ	札幌市北区9条西9丁目	
Y's Café (ワイズカフェ)	札幌市北区北7条西6丁目北海道クリスチャンセンター1階	
ゲストハウス Ten To Ten	札幌市中央区南8条西5丁目288-5	
東札幌病院	札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35	病院ボランティア、ホームレス支援
ビッグイシュー札幌	札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園305号室	ホームレス支援
南富良野町災害ボランティアセンター	空知郡南富良野町幾寅南富良野町民体育館	災害復興支援
北海道大学国際連携機構	北海道大学 札幌市北区北15条西8丁目	留学支援・日本文化交流イベント(七夕)
ツキネコカフェ (NPO法人ツキネコ北海道)	札幌市中央区北6条西25丁目1-6	動物愛護
NPO法人 ezorock	石狩湾新港樽川ふ頭横野外特設ステージ 小樽市銭函5丁目	その他(環境保護)
SJ Vietnam	Dong Thap University Pham Huu Lau street Cao Lanh city Dong Thap province(国名:ベトナム、市町村名:ホーチミン)	その他(環境保護・海外ボランティア)
札幌ユネスコ協会	札幌市中央区北2条西3丁目 朝日生命ビル2F	その他(環境保護)

6. 活動内容

主な活動内容 (実習計画書より抜粋)		ボランティアの種類
青春いきいきデイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・麻雀、花札、トランプ、将棋などの遊び相手 ・利用者の方が帰る際に、上靴やジャンパーを渡す。 	高齢者福祉施設での支援
社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	利用者とお話し、お茶出し。	
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポータ派遣事業」(恵庭市、愛別町、千歳市)	夏休み中、小学生を対象とした体験学習支援活動。(活動内容:①川下り、②魚類観察、③植物観察、④振返り)	子どもの学習支援
さっぽろ・まなトピア	ひとり親家庭の児童、生徒の学習支援	
札幌国際プラザ SAPPORO 子ども領事2017	小学生の外国についての調べ学習の手助け	
16 青少年のための科学の祭典 札幌南大会	会場運営補助(受付、イベント準備・後片付け等)。	
北海道開拓の村	村内の歴史的建造物の解説と案内(旧来正旅館:駄菓子販売、接客、旧田村家北誠館蚕種製造所:蚕の世話、桑の葉取り、旧青山家漁家住宅:接客、旧小樽新聞社:活字拾いなど)。	博物館(動物園、開拓の村を含む)・図書館 動物愛護
札幌市円山動物園	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニツアーガイドへの同行、見学 ・来園者に対して、担当エリアにおけるポイントガイドや園内全体のガイド、さらに、ボランティア主催のイベント運営補助。 ・チリモン観察会(チリメンジャコに混入している様々な生き物(モンスター)の観察会)の手伝い(ボランティアの方の手伝い) ・ポイントガイドに同行 	
SAPPORO フラワーカーペット実行委員会	フラワーカーペットの制作(花を茎から取り花びらをばらす「花ばらし」、花を飾りつける「花ならべ」を担当)。	
第25回 YOSAKOI ソーラン祭り実行委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント会場運営、警備補助。 ・ゴミの分別ナビゲートなど。 	まちづくりや関連するイベント
モエレ沼芸術花火2016	モエレ沼花火大会の運営(会場警備、エリア内の誘導など)。	
北海道大学農学部 北大マルシェ	マルシェ(生産者との交流及び、農産物、加工品の販売等を行うイベント)会場設営と店舗での販売補助。	
Y's Café (ワイズカフェ)	カフェ業務(調理、接客、包装等)	

主な活動内容 (実習計画書より抜粋)		ボランティアの種類
ゲストハウス Ten To Ten	北海道大学のサークル「けんちくん」の活動の一環として、ゲストハウス Ten To Ten の開店準備補助。	まちづくり (居住支援)
北海道大学国際連携機構国際交流課	外国人留学生へのサポート (市役所での手続き、郵便局・銀行での手続き、生活情報案内等)。	留学支援
北海道大学国際連携機構国際交流課	七夕まつり企画運営委員会の運営。国際連携機構の担当者との連絡調整、参加申請、委員会の運営・連絡調整・打合せ・企画プレゼンなど。	
北海道大学国際連携機構国際教務課	カセサート大学で日本語を学ぶ学生6人の短期留学プログラム中のお迎え、生活サポート、アクティビティの提供。	
ツキネコカフェ (NPO 法人ツキネコ北海道)	<ul style="list-style-type: none"> ・開店前の10時～12時の間のカフェ店内の掃除。 ・ネコのトイレ掃除、フロアの掃除 	動物愛護
東札幌病院	<ul style="list-style-type: none"> ・病院内で入院患者の手伝い。 ・わんわんパーク (セラピードックとのふれあい) のお手伝、サンデーカフェの運営。 	病院ボランティア、ホームレス支援、動物愛護
南富良野町災害ボランティアセンター	家からの泥出しなど。	災害復興支援
NPO 法人 ezorock	<ul style="list-style-type: none"> ・RISING SUN ROCK FESTIVAL 2016 特設会場にて、ごみの分別ナビゲート、エコアクションキャンペーンブースの運営、特製ごみ袋の配布、オーガニックじゃがいもの配布等の活動。 ・薪割りブース「いつでも薪割り」 	その他 (環境対策)
SJ Vietnam	<ul style="list-style-type: none"> ・Organize workshop/small event with local students about: global citizen, youth responsibility, social issues... (2 days) ・Take care of The revered Nguyen Sinh Sac historical site and Hoa An village: collect herbs and making herbal medicine, support at charity-kitchen of Traditional medicine hospital, clean up the historic site <p>Vietnam, Sa Dec floating flower village において、現地の農家に居住し地元産業 (花栽培出荷、蛙の養殖出荷) の補助活動。</p>	その他 (環境保護・海外ボランティア)

6-1. 具体的な活動内容

参加先	具体的な内容（体験報告票より抜粋）
青春いきいきデイサービス	リクリエーション運営補助（麻雀、民謡）、生活補助（昼食の配膳等）。
社会福祉法人溪仁会 新琴似 溪仁会デイサービス	リクリエーション運営補助（体操、小学生との交流、フルーツ演奏会）。
北海道教育庁学校教育局義務 教育課子ども地域支援グルー プ「学校サポーター派遣事業」 恵庭市、愛別町、千歳市	<ul style="list-style-type: none"> ・恵庭市教育委員会主催。川下り、魚類観察、植物観察など。 ・愛別町学力向上支援事業「天神クラブ 2016 夏」にて、プリント学習、体験学習において子どもたちのサポートをする。 ・千歳市立桜木小学校にて、子どもたちへの個別指導。
さっぽろ・まなトピア	昨年度は小学生を担当していましたが、今年度は初回を除き、中学生の宿題や受験勉強の指導を中心に行いました。1回の活動では、2時間生徒に勉強を教え、1時間教師どうして活動内容の共有や反省を目的としたミーティングを行いました。また、12月18日の後半はまなトピア全体でクリスマス会を行い、ボランティア、保護者、児童、生徒みんなで楽しくゲームをしたり、おやつを食べたりクリスマスをお祝いしました。
札幌国際プラザ SAPPORO こ ども領事 2017	小学生6人に対して大学生3人で調べ学習をサポートした。私の所属したグループは、ドイツについて調べた。小学生はドイツの名誉領事館への訪問やパソコンを用いた調査を通して、それぞれ異なるテーマについて調べた。最終的には、6人で調べた内容をまとめた壁新聞づくりと札幌コンベンションセンターでの発表を行った。これらの活動を小学生が行うなかで、大学生サポーターは、資料や情報を提示しテーマを決定しやすくなるように支援したり、発表のしかたについてアドバイスしたりした。
北海道開拓の村	開拓の村のボランティアの方々のサポート。
札幌市円山動物園	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週日曜日に行われているミニツアーガイドに同行させていただき、どのようなガイドをされているのかを学んだ。また、当初は存在を知らなかった森のガイドボランティアの研修会にも参加させていただいた。 ・動物園にやってくる子ども会の子どものガイドツアーに同行した。
SAPPORO フラワーカーペット 実行委員会	花を茎から切り取って花びらだけにする「花ばらし」と花を実際に飾り付ける「花ならべ」を行った。
第25回 YOSAKOI ソーランまつり 市民ボランティア (YOSAKOI ソーラン祭り実行 委員会事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・観客誘導、トイレ警備、イベント運営の補助、パンフレットの配付。 ・栈敷席のチケット切り、観客誘導、和踊り会場でのパンフレットとうちわの配付、警備補助。
北海道大学国際連携機構国際 交流課	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生サポーターとして渡日する留学生の支援をした。 ・留学生と寮で待ち合わせして、区役所での手続き、銀行口座開設の手続き、大学の入学手続きのサポートをする。 国際連携機構で、入学手続きの案内をする。
北海道大学国際連携機構国際 教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・カセサート大学短期留学生受け入れ支援。日本語を学ぶ学生6人の短期留学プログラム中のお迎え、生活サポート、アクティビティの提供。

参加先	具体的な内容（体験報告票より抜粋）
北海道大学国際連携機構国際交流課	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連携機構で行われるイベントの七夕まつりの企画・運営をする。国際連携機構の担当者からイベントについての情報を聞き、それについて各グループ同士のリーダーで話し合いをする。 ・担当者にイベントについての情報収集を行う。七夕祭りの内容について運営委員会を開き、話し合う。プレゼンテーションを準備する。
モエレ沼芸術花火 2016	モエレ沼芸術花火大会の運営。
北海道大学農学部 北大マルシェ	<ul style="list-style-type: none"> ・19日は、マルシェの準備の手伝い、テント設営、机、椅子の運び出し、仕分け ・21日は、店の手伝い、および片付け、出店者（団体）の中から1つ割り当てられ、販売を手伝う、マルシェ終了後のテントの解体、机、椅子の搬入・整列
ツキネコカフェ (NPO 法人ツキネコ北海道)	<ul style="list-style-type: none"> ・開店前の10時から12時までの間カフェ内の清掃、店舗での手伝い（掃除等）、店内の掃除、猫の世話等 ・ネコ部屋の清掃（掃除機、モップ）、ネコのトイレ掃除、キャリーバッグの清掃、事務
東札幌病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ちぎり絵作成体験、緩和ケア病棟でのティータイム、サンデーカフェ運営、笑いヨガの会場設営・参加、フリーマーケット運営 ・サンデーカフェではまず会場の設営をする。その後院内放送をかけ、カフェの時間になると患者さんのところへ飲み物・食べ物の注文を取りに行き、運んでいく。カフェが終わった後は使った食器や会場の片付けをする。 ・わんわんパークではボランティアルームに大小様々なたくさんのセラピードッグがいて患者さんが希望する犬に触れあえるよう誘導する。ボランティアルームまで来られない患者さんの病室から要請があればセラピードッグとその飼い主さんとともに病室へ行く。
NPO 法人 ezorock	<ul style="list-style-type: none"> ・RISING SUN ROCK FESTIVAL ・オリジナルごみ袋の配布、ごみの分別ナビゲート ・エコアクションキャンペーンブース ・オーガニックじゃがいもの配布 ・薪割りブース「いつでも薪割り」
ゲストハウス Ten To Ten	北大サークル“けんちくん”（自立型住宅支援ボランティア）の活動として、ゲストハウス開店の手伝いを行う。
16 青少年のための科学の祭典 札幌南大会	科学の祭典というイベントにやってくる方の受付。 イベントの準備（名簿確認、各ブースへ物品の配付、後片付け） ボランティア活動室の紹介
SJ Vietnam	<ul style="list-style-type: none"> -Experience Mekong delta lifestyle at Sa Dec floating flower village -Live with a host family, clean up the main site with local people -Gardening, cooking with locals
Y's Café（ワイズカフェ）	料理、皿洗い、伝票整理、接客、ラッピング等

参加先	具体的な内容（体験報告票より抜粋）
南富良野町災害ボランティアセンター	主に行った内容は、写真の修復・保存作業、家電製品の仕分け、家への家具の運び入れである。写真の保存作業では泥をかぶったアルバムに入っていた写真を撮影し、取り出して張り付いている写真は可能なものはがし、裏面をきれいに拭いた。家電製品は洪水で使えなくなったものをリサイクルに回すため、メーカー名や大きさを確認し、書類の作成をした。家具の運び入れでは洪水被害の泥出しなどの作業が終わった家へ家具を戻すのをお手伝いした。

7. 学んだこと、気がついたこと

活動内容	学んだこと気がついたこと（すべての実習者を含む）
青春いきいきデイサービス	好きなことでボランティアをするのはやっぱり取りかかるといいし、楽しいと思いました。ですが、ボランティアはお客様ではないので、利用者が楽しめるように気を配ったり、利用者のしてほしいことに自分から気づいたりしてゆくことが大切だと思いました。あくまで周りを見ながらの自発性が大切だと思いました。
社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	最初は話題を見つけることが難しかったが、だんだんと利用者それぞれの好きなこともわかるようになり、話が弾むようになった。やはりお互いを理解することは、コミュニケーションをする上で不可欠なのだと感じた。また、職員の方や長年ボランティアをされている方は、何事も笑いに変えていらっしゃるように思った。一緒に声を出して笑うことも円滑なコミュニケーションに必要なことなのかもしれない。加えて、自らの周りへの気配り、気づきが足りないということを改めて感じた。
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポーター派遣事業」 恵庭市	参加者は子どもだけでなくその保護者の方もいた。自然に触れさせる機会をつくってあげている方、夏休みの宿題を手伝っている方など、きちんと子どもと関わる時間をつくっている方が多かった。魚や植物の名前を図鑑をみずに写真だけ見て言い当てられる子どもがいて、その知識量に驚いた。
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポーター派遣事業」 愛別町	・千歳や札幌の子どもたちと比較して、元気で活発な子どもが多かった。その分、集中力が低いように感じた。また、田舎の子どもたちが全員知り合いで、職員の方々ともフレンドリーに接している様子は、ずっと札幌で過ごしてきたような環境になかった私にとって驚きだったが、少し憧れた。
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポーター派遣事業」 千歳市	・小学生が90分間机に向かうのは難しいことだった。飽きてしまった子どもには雑談したりして気分転換を少ししてから再び勉強に戻ってもらった。 ・集中力が続かなく、子の声かけが難しかった。少しでも進めていたらほめて、自分の学習に戻るといってはげましをした。 ・発達障がいをもつ子どもも、他の子どもたちと同じ教室で、低学年向けの宿題を行っていた。他の子どもたちも特に気にすることなく、インクルーシブな環境だと思った。

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
さっぽろ・まなトピア	<p>昨年度は、小学生を相手に、勉強の仕方や接し方について苦戦しながらも、勉強を教えていましたが、今回はあることがきっかけで中学生に配置換えとなり、ここでも苦戦しました。私自身が旧課程を履修していたため、新課程を教えることがうまくできず、ボランティアとして子どもたちの学習支援に十分貢献できたか自信がありませんでした。しかし、子どもたちが今何を求めているのかを常に考えることができるようになり、私なりに考えた、子どもたちに“今ふさわしいこと”を子どもたちにしてあげられたと思います。ボランティアリーダーや他のボランティアと自分の意見を話しあうことをしなかったために、さらなる向上や他の人の意見を聞く機会を減らしてしまったことが反省点です。今後は価値観の異なる人とどのように協力していけばよいかについて深く考えます。</p>
札幌国際プラザ SAPPORO 子ども領事 2017	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段小学生と関わる機会がないので、初めは名前の呼び方すら戸惑ってしまった。 ・ 自分が思っていたより小学生の子達はみんなしっかりしていて、コミュニケーションがとりづらいつ感じることが無かった。 ・ 子どもたちと接することもでき、それだけでなく、サポーターとして参加している他大の学生や各国の領事の方など多くの方々と交流ができた。
北海道開拓の村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像していたよりも、ボランティアをされている方の年齢が高かったことに驚いた。しかし、私が実際に体験すると、9時30分から16時30分と長い時間立ったままの作業が多かったり、人と常に話していたり、歩き回ったり、高齢者には大変な活動だろうなど感じた。もっと若い人が増えるといいなと思ったが、ほぼ一日中拘束される活動になってしまうことから、退職された方が中心になってしまうのはしかたないのかなと思った。私は、このボランティアをするまで開拓の村についてはよく知らなかったが、先生から説明をいただいて北海道の歴史的な建物に興味があるし、好きなのでこのボランティアをしようと思った。私のような学生は他にもいると思うので、もっと開拓の村でボランティアをしていることを広めて、若い人を増やしたらいいと思った。私は、ボランティアに教えてもらってばかりいたので、今回のボランティアで、ボランティアの方たちのためになれたとは思いません。それでもいつもと違った年齢層の方たちとお話しができた、北海道の歴史について詳しくなれたり、古民家をたくさん観察できたり、自分のためにはすごく良かったと思った。また、「また来てね！」や「楽しかった！」と言ってくださるボランティアがいてくれたことがとてもうれしかった。
札幌市円山動物園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は前回と違うガイドを見学したが、話の内容、動物による説明の時間配分などは違っていたため、各々自分の説明の得意な範囲をやりたいうように説明して良いのだろうと思った。そのぐらいの気軽さも必要だろうと感じた。来園者とコミュニケーションを楽しんでいるようで、「ガイドする」という気負がなかった。レッサーパンダの方では、若干レギュラーな仕事ではあった。有名な人も見に来ていたみたいで、ボランティアの人たちはそういう人との出会いを楽しんでいた。ボランティアの人たちはもっと展示をこうしたらいいのに、ということや、なんでこんな建物の形

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
	<p>にしたのか、というような意見をいくつももっているようだ。そうゆう意見交換の場も動物園には必要ではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが思っていた以上にまとまりがあつて、ガイドの話にもちゃんと耳を傾けていた。そのため後ろからはぐれそうな子どもがいないか見る必要はあまりなく、ガイド側も話すことに集中できていたように感じた。こういうまとまりのある子どもたちなのか、そうではなく団体行動に慣れていない子どもたちなのかによってもガイドの方法や注意すべき点は異なってくると思った。 ・前回同様、今回他のボランティアの方々が様子を見ていて、ボランティア活動がそのままボランティア参加者の市民としての勉強の場、交流の場にもなっていることがわかった。これは生涯学習の一環としての役割もあると感じた。ガイドツアーにやってくる参加者以上にガイドをしているボランティアが楽しそうにしていた。モチベーションが高いのは、やはり活動そのものが好きだからなのだろうと思った。森のボランティアは、担当円山動物園のスタッフが少ないことや、ボランティアそのものの人数が不足しており、ツアーも定期的に行われていないなど課題を抱えているようであった。組織として抱える問題が垣間見えた。単純に動物や植物のことを学べた。研修交流会でボランティアの人たちの発言を聞く限り、やはりスタッフの人たちも試行錯誤しているようで、見学者が子どもなのか、大人なのか、家族連れなのか、詳しいひとなのか全くの素人なのかという点にも注意しながらガイドをしているということで、毎回反省していることも分かった。やはり、簡単にできるものではないと思った。また、ガイドには知識が必須であることを改めて実感できた。加えて、その知識をどう伝えるかという点にもボランティアの方たちは気を配っており、フクロウの模型などを作成することで効果的に説明できる工夫もしていた。 ・図鑑で調べたらわかるような情報だけでなく、それぞれの個体に関する情報（例えば、名前の由来、家族構成、年齢、性格など）もガイドに盛り込むことで、お客様をより楽しませることが出来る。ガイドといってもこちらから一方的に話すのではなく、「どちらからきましたか」と尋ねたりすることでリラックスした雰囲気をつくる。日本語の文章をじっとみている外国人の方がいらっしやったら、声をかけ英語で説明したり、落し物やごみを拾ったりすることも積極的に行っている。
SAPPORO フラワーカーペット実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・2日目に作業する人が多く、あまり作業できませんでしたが、やりたい方が多い場合、自発性を出しすぎてもいけないと思いました。個人的にはそこで譲るほうがボランティアらしいのではないかと思います。自発性と謙虚のバランスが案外難しいと思いました。 ・このボランティアについては一人で参加する人も多かったので最初に試してみるボランティアとしてすごく適しているのではないかと思います。履修者に強く勧めたいです。ただし花を並べる際は、作業ができる時間が全く無いので、そのへんは期待をしないほうがいいかもしれません。

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
<p>第25回 YOSAKOI ソーランまつり市民ボランティア (YOSAKOI ソーラン祭り実行委員会事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が会場に足を運び、YOSAKOI ソーラン祭りは、多くの方に愛されていると感じました。市民ボランティアの方の中には毎年参加していらっしゃる方もいて、たくさんの方に支えられて1つの大きなイベントが行われていると感じました。また、1日目は市民の方やイベント運営の企業の方と、2日目は学生の実行委員の方と活動することができ、様々な組織がそれぞれの役割をうまく果たしていると思いました。 ・私は以前、ボランティアでイベントの運営補助に携わっていたことがありますが、地元の小々な行事ばかりで今回のような大きな催しものに関わるのは初めてでした。イベントの規模が大きくなればなるほど、イベント実行委員の方や他のボランティアの方との連携が大切になっていくことを学びました。
<p>北海道大学国際連携機構 国際交流課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生の中には、日本語が上手な人から、まだうまく話せない人まで様々な人がいるということがわかりました。日本に留学してきた際に、留学生の方がやらなければならない手続きがたくさんあることがわかり、この留学生サポーターは留学生にとってとても大切なものだということがわかりました。留学生と交流することは、新しい文化や習慣についてきづくことがたくさんありわたしにとってもとても貴重な経験になりました。 ・日本はタイよりも物価が高く、金銭的に負担が大きい。経済的に余裕のある人とそうでない人で休日の活動内容が異なっていた。 ・日本が伝わりにくいときがあった。しかし、できるだけわかりやすい日本語を使ったり、「～ということ?と聞いたりして、その壁は簡単に超えることができた。 ・北海道や札幌には、日本語がわかる彼女たちでさえも外国人に対して観光しにくい場所だと感じた。 ・英語がペラペラじゃなくてもできる。色々な国から留学生が来るので、日本語がある程度話せる人、逆に英語が話せない人もいる。語学力も必要だけれど、一番大事なものは留学生の不安を和らげようとする事。 ・北・東・中央の三つの区役所に行ったが、それぞれの対応が少しずつ違った。東区役所が一番親切だった。 ・アニメや漫画が好きな留学生が多かった。 ・区役所の職員は英語が話せなかったが、札幌には外国人が多いから、英語が話せる職員が何人かいたほうがいいのではないかと思った。 ・一緒にサポートした人も外国人で、私だけが日本人だったので海外に来た気分になった。
<p>モエレ沼芸術花火 2016</p>	<p>即席で集まったメンバーであったが、学生部という各班のリーダーがいて、全体をまとめることができていた。今年で5年目となるモエレ沼芸術花火は順序よく終わることができた。当日、初めて話し、知り合ったメンバーではあったが、産後には仲良くなれて、楽しむことができた。みんなで同じ作業をすることで一体感が得られた。またこういったボランティアがあれば参加したいと思った。</p>

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
北海道大学農学部 北大マルシェ	<ul style="list-style-type: none"> ・農学部の学生に限らず、非常に多くの分野の学生がボランティアに参加しており(工学部や理学部、他大学の学生なども)、農業に関心を持つ人たちが多くことに気付いた。 ・地元(本州からの人も)からわざわざ出店会社を追いかけて来るような熱心な人もいた。
ツキネコカフェ (NPO 法人ツキネコ北海道)	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんネコが好きだということ ・ネコを救うだけでなく、自分をいやされることができるという相互関係でこのボランティアが成り立っているということ。 ・ボランティアとスタッフの分け隔てのようがないこと ・今からでも動物保護が出来るということ ・もっと多くの人にツキネコカフェを知ってもらいたいということ ・誰でもできる仕事が多く、性別や年齢の様々なボランティアがいっぱいいること
東札幌病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア初日には、ちぎり絵の作成を体験させていただいたのですが、患者さんたちとの直接的なかわりではなく、これで本当にボランティアになるのか心配でした。しかし、病院内をみて周るとボランティアの方がつくった季節ごとの飾りや、きれいにいけられた花が病院の雰囲気を柔らかくあたかくしてこのような貢献の仕方もあるのだと気が付きました。患者さんの病院は人それぞれで本当に話しかけて良かったのだろうかと思慮することもありますが、入院して外に出る機会が少ない患者さんたちにとって、ボランティアで行っているカフェなど、様々なイベントがリフレッシュや貴重な体験になっているのだと感じました。 ・多くの患者さんがこのボランティア活動を楽しみにしていることがわかった。「病院ボランティア」というと少しとっつきにくいと思う人もいるかもしれないが、実際にやってみると自分にできる小さなことでも喜んでもらえて「とりあえずやってみる」の精神はとても大切だと思う。病気で入院している患者さんにとって、私たちが普段行っている買い物やお茶という行為が病院内で貴重な体験になっていた。特別な資格がない私にできることはとても少ないが、自分のできる範囲で毎月の活動の中で何かできるのかを考えさせられた。
NPO 法人 ezorock	<p>実際にイベント会場で活動した3日間は様々な経験をしたが、一番印象的だった活動はごみの分別のナビゲートだった。私の仕事はごみ箱の前に立ち、分別が間違っていないかを見ることだった。分別をしてからごみ箱に来てくれる人も多かったが、中には燃やせるごみと燃やせないごみが混ざったまま持ってくる人もいた。そうした人たちには分別のお願いをするのだが、みんなゴミ袋に手を入れて、丁寧に分別してくれる。暑い中立つて活動するのは大変だったが、来場者の人たちがきちんと分別をして、お礼の言葉や励ましの言葉をかけていってくれるのがとてもうれしかった。小さな子供も分別を楽しそうにしてくれてうれしかった。また、活動する中で自分でもあいまいだった分別の基準が、人に教えてあげなくてはならなくなって、確認しなおすこともあり、勉強になった。家に帰ってからの分別の意識も高まり、来場者の人たちの意識も変わってくれたらいいなと思う。</p>

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
ゲストハウス Ten To Ten	<p>今回の作業は、自分のやりたかったことだったので、楽しみながらできた。だから、お手伝いできたというよりは、自己満足な部分が多かった。それでも「ありがとう」と言われたのがうれしかった。また、自分たちが作ったプレートや雑貨が、実際にお店がオープンしてから使われるというのはとてもうれしい。</p>
札幌ユネスコ協会	<p>植林活動に参加してまずはっきり感じたのは森林の再生の難しさである。木は生長するのに時間がかかることは知識として知ってはいたが、5年前に植えられた木が自分の身長にも達しないのを見て、これらが森になるまで何世代もかかることを実感した。また、過去の失敗例から学んだ植林のメソッド（苗の種類に多様性を持たせるなど）も教えていただき、森林の育成が多くの苦労を経て今の姿になっていることも学んだ。植林活動は結果が出るまで何十年もの歳月を要するため、それまで世代を超えて責任ある森林の保全・管理を続けていかねばならないと思った。</p>
16 青少年のための科学の祭典 札幌南大会	<p>科学の知識。 ・私と同じく受付をしていた北大の大学院生と知り合いになり、人間関係が広がった。 ・他のボランティア情報が得ることができる。（面白いボランティアとかお得なボランティアとか） ・ボランティアといえば慈善事業というイメージだったが、イベントのお手伝いや、その他いろいろなことができるんだなと思った。 ・セキスイハイムアリーナには初めていったので、自分の行動範囲が増える！</p>
SJ Vietnam	<p>ベトナムの地元の人々の暮らしや仕事を学ぶことができた。この地域一帯では花と蛙を育てて、出荷することで生計を立てていた。家族ごとに営んでいる小さな農家ながら、花をきれいな状態で売るために様々な工夫をしていて、プロ意識を感じられた。微力ながら農家の手伝いをして、少しでも役に立ったと感じてもらえていたらいいと思う。事前に知らされていた活動内容とは異なる部分も多かった。しかし短い期間だったが旅行では感じることはできない現地の人たちの実際の生活を体験することができ、とても良い経験になった。</p>
Y's Café (ワイズカフェ)	<p>ボランティア活動を行って、体験報告でも言いましたが業務そのものに何か特別なことは感じませんでした。カフェで働いたことはありませんが、恐らく同じようなことをしていると思います。その中で、利益を追求していない分、内面的なところに重きを置いており、通常の飲食店とは経営や雰囲気が大きく変わっていました。元々地域住民の交流の場として立ち上げたということで、地域の人が集まって話す他に、常連客とボランティアの距離も近く、お土産を渡したりしていました。勿論ボランティア同士でも話をしたりして、ひとつのコミュニティのようになっていました。このような現代では珍しい地域のコミュニケーションの場を提供しているのは大きな特徴であると感じました。また、食材ロスやフェアトレード等、今の世界に対する課題も問いかけており、他の飲食店とは一線を画していました。このようなカフェ運営は非常に興味深かったです。</p>

活動内容	学んだこと気がついたこと (すべての実習者を含む)
南富良野町災害ボランティアセンター	今回のような洪水の災害ボランティアというと土砂やがれきなど運びだしなど力仕事のイメージがありましたが、実際は写真修復作業など体力に自信のない女性でもできるような作業もありました。南富良野の方はみんなとても親切で体育館の周辺のお店でもボランティア割引を行うなど、私たちをあたたく受け入れてくれました。

8. ボランティア参加の動機や理由

ボランティア参加の動機や理由 (実習計画書より抜粋) *実習計画書には実習修了者以外のものも含まれる。

種類	実習の動機	実習目標 (学びたいこと)
青春いきいきデイサービス	麻雀を習い始めた時期で、ちょうど麻雀のボランティアを見つけたので興味を持ったから。	高齢者施設ではどのようなことが行われているのか。高齢者とどのようにコミュニケーションをとるのか、移動などの際にどのように介助をすべきか、どのようにしたら高齢者の方が心地よく遊べるのかという工夫の仕方。
社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	話を聞くのは得意で、それを生かすことができるため。異世代の方たちと交流することはある意味で異文化交流ともいうことができ、今後の留学にもつながる。	リハビリに重きを置いている施設なので本人が自分で出来ることは手を貸さないということが重要になる。相手の状態や気持ちを見て、自分が何をすべきかを考えて行動できるようになりたい。世代が違うことで戸惑うことがあるかもしれないが、誠実にコミュニケーションを取れるようになりたい。働いている施設のスタッフの方に失礼のないよう、社会人としての感覚を持つ。
北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ「学校サポータ派遣事業」 恵庭市、愛別町、千歳市	広い北海道の教育格差に関心があったから。塾の少ないことや親の学歴差など、札幌と地方では教育環境が異なる。子どもたちがどのようなモチベーションで学んでいるのかを実際に見てみたい。また、単純に子どもが好きなので小学生と触れ合いたいと思った。そして中学生とも様々な話をしてみたい。自分自身子どもたちとの関わりから何か学べるのであれば、嬉しいし、私自身が子どもたちに何か与えられたらもっと嬉しいと思う。	社会性を身につける。コミュニケーション力の向上、年少者と対等に平等に接する。相手が自分に何を求めているのかを考えたり、気が付いたりする力を養う。

種類	実習の動機	実習目標（学びたいこと）
さっぽろ・まなトピア	昨年度からこの活動に参加しており、その時に築き上げた子どもたちと関係をさらに深めたいと思い、加えて1年間の活動を通して得た子どもたちへの接し方を今年度も活かしたいと思ったため、参加を希望しました。	去年一年間の活動を通して見つけた課題（私が苦手な分野の教え方、子どもに対しての接し方）を少しでも解決できたらと思っています。また、来年から臨床実習が始まりますが、それまでに病院での小児に対する接し方について私なりに考えをまとめたいです。
北海道開拓の村	北海道のことを知りたかったから。	コミュニケーション力。
札幌市円山動物園	私は動物が好きなので自分の好きなこともでき、かつ人の役に立つこともできる動物系のボランティアに参加したいと思ったからです。	自己利益にとらわれることなく、献身的な心をもって人と接することができるようになりたい。働くことの意義を体験したい。
	現在、学芸員の資格取得を目指した授業を受けており、動物園でどのような活動をしているのかということに興味をわいたから。動物とかかわることをやってみたいと思ったから。 動物園の動物について学びたいから。ガイドを通じて人とのコミュニケーションができるようになりたいと思ったから。	博物館には教育普及活動の役割もあるので、そうした類の活動を体験することで現場の取り組みを学ぶ。（スタッフの姿勢、子どもたちの関心、盛り上がり方等）動物を介した人同士のコミュニケーションに触れる。（動物園に来る動物嫌いの人はいないと思うので、そうした共通項を持つ人たち同士のかかわり方や、スタッフのような子どもに教える側としての立ち位置等）
	・動物ボランティアに関心がありどのような活動をしているのか知りたいと考えた。ガイドツアーの方がどのようなガイドをしているのか見たいと思った。動物のこと、そしてガイドでのコミュニケーションを学ぼうと思った。	・ガイドや説明の仕方について学ぶ。ガイドの見学以外の点でボランティアの方々と話をして、それぞれの考え方を学ぶ。ガイドで見学者に合わせた工夫等があればそれを学ぶ。 ・動物園でのボランティアの活動の様子を知る。動物について、人に教える際のやり方などについて学ぶ。
・今まで動物園のボランティアではツアー形式であったため、一つ一つの動物の説明が比較的簡単に終わってしまう傾向にあったため、今回のようにツアー形式ではなく自由に動物を説明する際の違いを見てみようと思った。前回に引き続きガイドについて、動物園の動物について学ぼうと思った。	・今までのツアーガイド、そして今回のポイントガイドの形式の違いに注目して、どのようにガイドを行うのかを学ぶ。ガイドをする際のやり方、姿勢について考える。	

種類	実習の動機	実習目標（学びたいこと）
札幌市円山動物園	動物が好きだから。また、すでにこのボランティアに取り組みられている方のお話を聞いて興味をもったから。	円山動物園の魅力。ボランティアの姿勢や意義。
SAPPORO フラワーカーペット実行委員会	花をばらして並べるという内容が面白そうだったから。	どのように周りとうまくコミュニケーションを取って効率的に作業を進めるか。
第25回 YOSAKOI ソーランまつり市民ボランティア (YOSAKOI ソーラン祭り実行委員会事務局)	北海道大学に入学し、YOSAKOI ソーランが北海道から広がったものであると知り、興味を持ったからです。	YOSAKOI ソーランを近くで感じ、北海道の文化をより知りたいです。また、ボランティアを通じて、YOSAKOI ソーランまつりのようなイベントがどのように運営されているのか学びたいです。
	よさこいソーラン祭りのボランティアが不足していると聞いたから。イベント運営に興味があったから。	大きなイベントを成功させるための協力。
北海道大学国際連携機構国際交流課	日本の留学生としてやってきた外国人の方々の力に少しでも役に立ちたいと考えたからです。	日本に来た際に、外国人の方がどのような点に不安を感じるのか、何が分からないのかを知り、どうやったら外国人の方々のちからになれるのかを考え、学びたいです。
	留学生と交流をしたかったため。自分が留学するときに役立つ知識が得られると思ったため。	留學生活の不安を取り除くにはどうしたらよいか。英語でのコミュニケーション。
北海道大学国際連携機構国際教務課	2月にカセサート大学へ訪問した際に現地の学生が様々なところに連れて行って観光案内をしてくれ、大変親切にしてくれていた。この夏は反対にカセサート大学から学生がくるので、其の際に以前お世話になった恩返しができるらいいなと思い、このボランティアをしたいと考えた。	異文化コミュニケーションの上達。簡単な日本語を使って話をするの上達、相手のニーズを聞き出す傾聴力の向上、ボランティアの企画力、主体性を持つ。
	外国人と交流できる良い機会だと思ったから。自分が外国人の日本語学習に何か貢献できるのなら、ぜひ協力したいと思ったから。	留学生とのコミュニケーションの取り方（使う単語の工夫の仕方が分からなかった時の対処）
モエレ沼芸術花火 2016	学生限定のボランティアだったので、今しかできないと思って参加した。	即席で作ったボランティアメンバーなのでその中でこのようなボランティアを運営するには何が大切かを考える。

種類	実習の動機	実習目標 (学びたいこと)
北海道大学農学部 北大マルシェ	北海道の食と農(特に農)に関心がある。生産者の話がきいてみたい。農学部での学習に活かそうだから。食と農に関してどういう取り組みがあるのかを知りたい。	食と農の関わり
ツキネコカフェ (NPO 法人ツキネコ北海道)	動物が好きだから。動物保護に関わる仕事に興味があるから。	<ul style="list-style-type: none"> ・利益を目的としない労働を通して、働くということの大切さや楽しさを学ぶ。 ・動物保護の現状を把握する。 ・動物を愛する心を学ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・動物に関わるボランティアに関心があるから。実際に動物の近くで仕事ができそうだと感じたから。 ・動物に関わるボランティアをしたいと思いますから。動物保護にも関心があったから。気軽にできそうだったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物保護に関して、関心をもつ。動物を扱う責任感のようなものを学ぶ。 ・動物を扱う際の責任を身に付ける。猫の問題についてよく知る。
東札幌病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア相談室からのメールでこの活動について知り、入院患者さんと交流することで何か得られるのではないかと思い応募した。また、普段はなかなかボランティアのために定期的に多くの時間を確保するのは難しいが、この活動は夏休み期間中だけでも大丈夫ということだったので参加を決意した。 ・以前夏休みのボランティアで参加させていただいた時に患者さんの役に立つ、やりがいのあるボランティアだと感じたから。セラピードックとの触れ合いは将来自分の進路も考えると何かと役に立つことがあるのではないかと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段交流する機会のない入院患者さんたちとの接し方、また、他のボランティアの方がどのようにこの活動に取り組んでいるのか。 ・体験ボランティアに引き続き、末期がん患者さんたちとどのように接してゆけばよいのか、どのようにすれば患者さんたちに喜んでもらえるのかを考えていきたいです。
NPO 法人 ezorock	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽にも環境保護にも興味があった。 ・元々、自然が好きであり、環境保護に関連する活動に興味があった。 <p>この活動があることを知人が紹介してくれたため知ることができた。ぜひ、このボランティア活動をしようと思った。さらに、日頃から予定が多く、定期的に活動するボランティアをす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを通じた人との関わり ・まずは、初めての本格的なボランティア活動を体験するというのが目的である。初めて会う人(来場者やボランティア活動をする仲間)との関わり方を学び、積極性を身に付けたい。自分が環境保護について再度考える機会としたい。

種類	実習の動機	実習目標（学びたいこと）
	るのが難しかったため、短期間であるこのボランティアが適していた。	
ゲストハウス Ten To Ten	私は「けんちくん」というサークルに属し、そのサークルの活動として、ゲストハウスの改修をお手伝いするというイベントがあり、もともと建築学科に進んでいることから、家の改修には興味があったので、活動に参加しようと思った。	改修作業の大変さ。ボランティアの方たちとのコミュニケーションの仕方。オーナーさんがしてほしいと思ったことを読み取って行動する力。
16 青少年のための科学の祭典 札幌南大会	北大のボラ室の方で、このボランティアをやった方から、楽しかったし、子ども向けの実験だからそれほど難しいことはしなかったという話を聞いて、私にもできるかもしれないと思ったから。	当日の状況にあわせて臨機応変に動く。
SJ Vietnam	外国で様々な国籍の人と一緒に活動してみたかったこと、自分の英語力を向上させたいという気持ちがあったことから、海外ボランティアを希望した。さらに活動内容が自分の興味がある環境や気象についてだったため、このボランティアに決定した。	自分の予想していないことが起こっても、柔軟に臨機応変に対応できるような姿勢を身に付けたい。自分に何を求められているのかを考え、積極的に行動出来るようにしたい。何事に対しても興味や疑問をもって、楽しんで活動したい。
Y's Café（ワイズカフェ）	ボランティアをする上で「継続して行うこと」が大切だと考えてきました。実際に話を聞いてみると、初めて行うボランティアとして業務内容は勿論、バイトやサークルの両立もやりやすいと感じました。また、カフェボランティアの意義を見出したいと考えています。アルバイトやパートタイムを雇って経営しているカフェが多い中、あえてボランティアで運営するメリットやモチベーションを知りたいと思いました。	上記に上げた通り、一番の目標は「アルバイトとボランティアの差」を知ることです。カフェで働くことは、わざわざボランティアでなくともできるのではないかと周りからよく言われました。そこで実際の業務内容やボランティア仲間から話を聞いて、自分なりの「カフェボランティアの意義」を見出したいです。また、以前テレビで「ボランティア、賃金の高いアルバイト、賃金の低いアルバイトで同じ仕事を任せた時、最も業績が高かったのはボランティアだった。」という内容を見ました。ボランティアの可能性や金銭以外のモチベーションも推し量ってみたいです。

種類	実習の動機	実習目標（学びたいこと）
南富良野町災害ボランティアセンター	札幌からボランティアバスが出ていると知り、北海道にいる自分にしかできないかと思ったため。	災害復興のために自分に何ができるのかを考えたい。

9. 教員への要望

教員への要望
日本で携帯電話を使えるようにするにはどうすればいいのかという質問はほとんどの留学生にきかれたので予備知識としてそういった情報をガイダンスなどで教えていただけるとよりスムーズにこたえられたと思いました。
もちろん、集中的に通ったからこそ、お互い顔を覚えることができ良いことはあったが、授業と並行して行うのは難しい時もあった。後期から留学等、夏休みにできない人にもボランティアをしやすい仕組みを整えていただけると嬉しい。
新渡戸カレッジのボランティアを受講していない人にも北海道開拓の村のボランティアがあることを公開したらいいと思います。
昨年度にひきつづき、ボランティアの履修を認めてくださりありがとうございました。私にとってこの活動は、「単位を満たすために活動する」のではなく、「単位は活動をしらついてくる」という感覚のものです。しかし、ボランティアとして認定された単位を見る度にその年度に学んだことや感じたことを思い出すことのできるマイルストーンとして大切に、誇りを持ちたいと思います。
他の学生のボランティアの様子を聞いたり、大人のボランティアの話を伺うことができたりしてボランティア活動以外にも非常に興味深かったです。特に最後の社会人の方を交えた話し合いは、学生からは聞けないような意見や経験をたくさん知ることができました。そのような、社会人等、異なる背景を持った人との交流をもっとたくさんしてみたいと思いました。例えば円山動物園で課題が提示されていましたが、一般ボランティアや職員の方はどのように考えているのか、直接話を聞いてみたかったです。
今回の活動は北大の学生ボランティア活動相談室から紹介されたものだった。単発で気軽に参加できると思い、応募させていただいた。手続きも非常にスムーズで大きなトラブルはなかった。相談室のスタッフの皆さんには今回の活動に関してお礼を申し上げたい。

10. 参加先からのコメント

参加先	参加先からのコメント <small>*履修完了者以外の者も含まれる。</small>
青春いきいきデイサービス	積極的に取り組む姿勢がよかったです。
社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	はじめてのボランティア体験で大変なこともあったと思いますが、明るく笑顔で利用者様とコミュニケーションを取られていて、とても好感がもてました。この機会に学んだことを糧に、今後のご活躍を期待しております。お疲れ様でした。留学、楽しんでくださいね。
北海道教育庁学校教育 局義務教育課子ども地 域支援グループ「学校サ ポータ派遣事業」 恵庭 市	参加者の学びを深める役割をしていただき助かりました。学生がボランティアとして加わることを地域の団体が望んでいますので、こういった機会に学生を参加させていただきありがたいです。どうもありがとうございました。
北海道教育庁学校教育 局義務教育課子ども地 域支援グループ「学校サ ポータ派遣事業」 愛別 町	3日間、児童たちにとってもフレンドリーに接していただきました。都市部から少し離れておりますが、今後ともこういった場所での教育的活動に興味をもっていただければ幸いです。大変ありがとうございました。
北海道教育庁学校教育 局義務教育課子ども地 域支援グループ「学校サ ポータ派遣事業」 千歳 市	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に指導していただきました。 ・次年度以降も可能であればぜひお願いしたいと思います。
北海道開拓の村	初日の午前中は職員の業務を手伝いながら、ボランティア活動のあらましを事前学習してもらいました。Yさんの積極的かつ好奇心旺盛な姿勢を担当職員並びにボランティアさんは感心していました。短い時間でしたが、社会教育施設であり、観光客も多く訪れる開拓の村で、貴重なボランティア体験をしてもらったと思っています。
札幌市円山動物園	ガイドボランティアの活動内容について知っていただいただけでなく、ガイドとしての心得や工夫点についても理解いただいたようで嬉しく思います。今後もボランティア活動に積極的に参加してください。
第25回YOSAKOIソーランまつり市民ボランティア (YOSAKOIソーラン祭り実行委員会事務局)	暑い中、活動に丁寧に楽しく取り組んでくださいました。ボランティアに賛同し、親睦を深めたり、来場者とも触れ合ったり、お祭りを楽しんでくれたのではないのでしょうか。お疲れ様でした。ありがとうございます。
北海道大学国際連携機構 国際交流課	国際連携機構が実施する海外のラーニングサテライト「タイで日本語を教える」第1期生としてカセサート大学に留学経験があり、今回カセサート大学から短期留学生の受け入れにおいては、渡日から帰国までの約2ヵ月間のすべての期間にわたり、様々なサポート活動に積極的かつ献身的に参加してくれたことを高く評価します。

参加先	参加先からのコメント <small>*履修完了者以外の者も含まれる。</small>
	<p>今回サポートしてくれた留学生達は少なくとも半年は北大に在籍するので、今後も交流を続けてください。渡日直後で、不安を持った留学生のサポートをしてくださりありがとうございました。</p>
東札幌病院	<p>真面目に取り組んでいる様子が見られ、今後に期待したいです。患者さんとたくさん触れ合える機会を提供してゆく考えています。</p>
札幌ユネスコ協会	<p>この度は青少年育成と環境教育を目的としたユネスコスクール植林活動に参加いただきました。Oさんには植林作業も積極的に取り組んでいただき、植林後の専門家による森づくりのレクチャーにも質問をされるなど熱心に参加されました。環境教育は机上では得られないことが植林を体験することで実感できることも多いと考えます。これからも多くの学生の参加を希望します。</p>
さっぽろ・まなトピア	<p>積極的に子どもたちとコミュニケーションを取っており、わかりやすく勉強を教えてくれています。H先生を慕っている子どもも多く、頼もしく思っています。</p>
Y's Café (ワイズカフェ)	<p>学業の小休止でも少しの学びとなるとよいと思います。</p>

学生たちによるボランティア体験報告

教えるつもりだったのに…2

歯学部4年 M.H

1. 活動先、活動日時

活動先…さっぽろ・まなトピア

活動日時…2016年5月1日～2017年1月15日 計11回 3時間/回

2. 活動内容

1回につき2時間、小学校3年生から中学校3年生までのひとり親家庭の児童・生徒に対する学習支援(主に学校での学習の解説や宿題のサポート)を行いました。また、学習支援の後、毎回1時間の講師内でのミーティングに参加しました。昨年度は、主として小学生を担当していましたが、今年度は初回を除き、中学生の宿題や受験勉強の指導を中心に行いました。

3. ボランティア活動を体験しての感想

私は、昨年度、小学生の指導を任されており、苦戦しながらも半年間で自分なりに教えるスタイルを確立していったつもりでしたが、子どもたちが甘えすぎてしまうような「優しすぎる」ところがあるとボランティアリーダーに指摘されていました。ある日、識字障害のある小学校4年生の男児と共に1年生レベルの「文のかきかたドリル」を勉強していたところ、犬が2匹いる絵を2文で説明するという問題があり、男児が苦戦していた様子であったので、先生である私に説明するように文を書くように求めました。すると、彼は「いぬが2ひきいる。せくらべしてる。」と書いたのですが、私は苦手なひらがなを一生懸命書いて説明してくれたことを評価して花丸をあげました。しかし、向かい合わせであった私は気づかなかったものの、実は「ぬ」と「ね」を間違えており、私は丸付けでも「優しすぎた」と見なされ、先生が「優しすぎ」でも、それに影響されすぎないような中学生に配置換えとなりました。

私は教えているときに、わからないことがあれば子どもと一緒に考えるスタンスですが、中学生の新課程の勉強は、ゆとり世代の私自身が知らない、学んだことがないことが多く、子どもたちに十分に教えることができず、満足に活動できませんでした。そこで、そもそもなぜ私にそのような「優しすぎる」面があるのかを考えてみました。私は、幼少期から私は母に厳しく育てられ、「大人になったら子どもにもっと優しく接しよう」と幼心に常々刻んでいました。そして、現在も、実習で間違えたことやわからないことについて先生方に怒られると(実際臨床ではそのような失敗は許されませんが)「間違えたことやわからないことを怒るのではなく、何が違うのかまで、を教えて欲しい」という気持ちが根底にあることがわかりました。くわえて、昨年度のボランティアの講義では他区のまなトピアに参加している学生の、まなトピアでは勉強を教えるだけでなく、ひとり親家庭の子どもの交流の場としても大切な機能を果たしているという話を聞き、子どもたちには長期的にみた学力の底上げだけでなく、進路の選択肢を増やすために必要な試験の点数をあげる短期的な勉強も重要であると思い、教えてきました。

今年度の大きな反省点として、改善のために他者と話し合う機会を持たなかったことがあげられます。先に述べた「ひとりくらい優しすぎる先生がいてもいいのではないか」という考えを実践しようとしていることも、子どもたちにはまず高校に進学することが大切だと考えて短期的な勉強を教えていることも、他の講師に話さなかったことで、彼らの目には私が子どもたちを甘やかし、「姑息な=楽をする」勉強法を教えているように見えたかもしれませんし、反論であっても

私の行動に対する他のボランティア講師からのフィードバックを得るせっかくの機会を逃してしまったことを反省しています。もし、自らの教え方が不十分であったとき、あとでこっそりフォローをしてくれるような他のボランティア講師に、勇気を出して自分には何が足りないのか、どうすべきであるかを聞いてみたり、ボランティアリーダーとまなトピアの本来の目的やボランティアに求められることを議論したりするべきでした。今後もこのボランティアを継続する際は、子どもたちへの教え方や接し方の向上を目指し向上を図ることに加え、中学生の指導にどうしても力不足であるときは再配置換えを申し出てみたいと思います。また、現在のまなトピアのミーティングでは、子どもたちへの指導内容の共有を札幌市への報告書やまなトピア内での記録のために共有しているという面が強いので、講師全体でより良い指導をするための反省や意見交換が出来る機会が増えるよう、私から積極的に働きかけていきたいと思っています。

4. 新しい発見、学び、役に立つこと

価値観の違うひとと出逢った際、自分の中の物差しに照らし合わせてひとを評価しがちですが、その物差しとはまさに私自身の価値観によって作り上げられたものであり、その物差しでの評価だけで判断することは性急であるとわかりました。今年度のボランティアを通し、価値観の異なるひとと協力しあうにはどのようにしたら良いのだろうか、ということを考えるきっかけを得ることが出来ました。その答えを見つけるなかで、着地点を明確化し共有することが大切だと思えます。

着地点が明確であれば、アプローチが違えども、互いに適正を評価したり良い点を取り入れたりすることができますが、そもそもの着地点が異なれば、そもそもアプローチ自体を比較することができません。今後臨床の場に出ると、価値観の違うひとと接する機会がさらに増すと思いますが、相手の期待に応えることだけを考えるのではなく、ひとと話し合うことを躊躇わないようになりたいと思います。

ボランティア活動報告

文学部4年 A.S

1. 活動先、活動日時

① フラワーカーペット

6月17日 10:00~12:30 (札幌駅地下歩行空間にて)

6月18日 13:00~15:30 (赤レンガ広場にて)

② 七夕まつり企画運営

6月23日 13:00~14:30 科目責任者と事前打合せ

6月24日 9:00~10:00 (国際連携機構にて担当者と打合せ、情報収集)

6月25日 18:15~20:15 (実行委員会打ち合わせ)

7月6日 19:30~22:00 準備

③ 高齢者施設ボランティア

6月21日、6月28日、7月5日、7月26日 14:00~17:00

8月2日 11:00~17:00

(青春いきいきデイサービス (北23条西3丁目)にて)

2. 活動内容

- ① 花びらや茎を地面に並べて模様を作るフラワーカーペットの作成のボランティアを行った。
1日目には花を茎と花びらに分ける作業を行い、2日目には花を赤レンガ広場に並べて模様を作る作業を行った。
- ② 国際連携機構で7月12日に行われた、留学生に七夕について教えるイベントについて、新渡戸カレッジ生が行う催し物の企画を行った。また午後のグループのリーダーとリーダー全体をまとめる実行委員長も務めた。実行委員・委員長としては、最初に国際連携機構の担当者イベントについて概要をお聞きし、それをもとに各時間帯のグループリーダー全員でどのような催しを行うか、各グループでどのような作業を行うかを話し合った。また、7月6日には、実行委員会で決めた内容を副委員長のMさんとともにプレゼンし、全員に伝達した。その後、他の有志のメンバーと七夕についての模造紙を作成した。
- ③ 14時頃から16時頃まで、麻雀の準備をして、利用者の方の遊び相手をした。その後片付けをし、利用者の方が帰る際に、外靴を利用者の方へ運び、上靴を回収する作業を手伝った。8月2日のみ、昼食の配膳と、その後の民謡の時間の際の手伝いも行った。民謡の時間では、利用者の方の歌詞カードをめくったり指で指したりして、どこの箇所をやっているのか示した。

3. ボランティア活動を体験しての感想

自分が思っている何倍もやりがいがある授業だと思いました。特に七夕まつりでリーダーを担当したことは、今後このようにリーダーシップをとったり、何かを企画運営していったりするにあたって、とても良い経験になりました。12日の七夕まつり本番の際には自分のイメージ不足などでうまく進行ができなかったのがとても残念で、もっと考えていればよかったと思うことは多いですが、今後はこのようなことがないように挽回したいと思っており、次の機会への大きなモチベーションになりました。

麻雀のボランティアは楽しみながら行っていました。もっとできることがあったのではないかと、私はボランティアとして本当に役割を果たしていたのだろうか、と思うところがあります。楽しむことに夢中になっていたのではないかと思います。帰国して余裕があればまた行きたいですが、そのときはもっと利用者の方に気を配るべきであると考えています。好きなことでボランティアをできればそれに越したことはないですが、相手のことも考えるのが大前提ということを考えるべきだったと思いました。

この授業ですが、ボランティアに興味がある人もない人も、「やってみる」機会として、とてもよい授業だと思いました。

4. 新しい発見、学び

ボランティアは文字の通り自発性という側面で見られることが多いですが、その自発性はあくまで相手のことを考えた自発性、まわりを見て考えたうえでの自発性であって、自分が前に出る時とそうすべきではない時を見極めることは難しいと感じました。とにかく何か役に立ちそうなことをすればいいと思っていた自分にとって、このことが一番の発見だと思います。そのためには相手の立場になって考えることが重要であると考えさせられました。

また、リーダーシップについても、メンバーを率先して引っ張っていくということも大切ですが、全体の調整役としての役割も大切であると思いました。七夕まつりの運営を通して、リーダーは表舞台に立つというより、裏でメンバー全員を見る役割の方が大きいということ、自分で何かをするというよりはグループ全体が円滑に動けるように指示を出す役割であるということ学びました。また、メンバー全員に「私はこのメンバーの一員で、グループに参加している」という意識をいかに持たせ、イベントなどを成功させるという熱意を引き出せるかがリーダーとして大切な要素だと思います。

全体を通して、「相手がいるということを前提に自発的に行動するべきである」「リーダーは自分よりグループ全体を考えるべきである」「グループメンバーのグループへの帰属意識を持たせることがリーダーの素質である」と学んだことは、これから役に立つのではないかと感じました。

ボランティアを通して学んだコミュニケーション

文学部3年 K.M

1. 活動先、活動日時

活動先

社会福祉法人 溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス

活動日時

7月4日、6日、11日、13日、18日、20日、25日の7日間(月、水固定)
9:30~15:00(12:30~13:30 休憩)

2. 活動内容

9時半の活動開始より11時頃まで、9時頃から随時いらっしゃる利用者をお迎えし、お茶とお手拭きを出した。利用者はそれぞれ席が決まっていたため、早い時間だと近くにほかの利用者がおらず一人の方もおり、その方が一人にならないようお話も同時に行った。最初の2週間は実習生がおり、また私以外のボランティアもいたので、固まらないよう注意した。

11時頃からは午前の体操を一緒に行った。立位体操・ポップンリズム体操の2つ、またはいきいき体操の午後の体操と隔週交代であった(午後の体操は午前に行っていない体操を行う)。隔週交代で行っているのは、固定ではないが利用者の中には入浴の時間がどちらかの体操の時間とよく被ってしまう方がおり、その方がどちらの体操も行うことができるようにするためである。立位体操は椅子の背もたれにつかまって主に足を運動し、ポップンリズム体操は、曲に合わせて体を動かし有酸素運動を目指している。いきいき体操では椅子に座ったまま、足はもちろん指も動かすなど体全体の体操である。利用者一人ひとりが自分のレベルに合わせて体操しており、無理なく行っていた。

休憩の意味も込めて利用者にテーブルを拭いてもらった後、口腔体操を行った。これは唾液をよく出すための体操であり、昼食前に行った。最後に民謡を歌うが、最後の2回だけフルートで伴奏(曲名「茶摘み」)をした。伴奏があることで音取りやすく、大きな声で歌えるようだ。また、加えてソロで2曲(「浜辺の歌」、「川の流れのように」)演奏させていただいた。

11時半頃からは昼食を配膳した。利用者それぞれに食べられないもの等配慮事項があるため、一人ひとりお名前を確認しながら配膳した。昼食中はむせたりしている方がいないか、確認しながら見て回り、食事を終えた方から順次下膳した。下膳時には体調のバロメーターとなるため食べた量を記録した。食事を終えた方へコーヒーもお出しした。

13時頃から午後の体操(午前の体操でやらなかった体操)を行っており、休憩が終了し次第、参加した。午後の体操が終わるとレクの時間であった。体を使ったゲーム、カラオケ、音読の会(月曜のみ)に利用者の希望でわかる。私は主に体を使ったゲームでボール拾い、点数の記録等お手伝いをした。2人で協力するゲームのときには利用者と一緒にゲームに参加させていただいた。私がボランティア中に2度、近くの小学生が授業の一環として、この時間に訪問した。私は話ができている小学生と利用者の中に入ったり、小学生が使いたいといったお手玉等を渡したりし、交流のお手伝いをした。

14時40分頃からは茶話会で、利用者から飲み物の希望をとり、おやつと共に提供した。時間があるときには、この時間にお話しました。

3. ボランティア活動を体験しての感想

最初はわからないことも多く、うまく話すこともできず、お話の時間は特に時間の流れが遅く感じられた。しかし、職員やボランティアの方を見たり、何度も利用者と話したりするにつれて、コツをつかみ、うまく話せるようになった。そのことを実感できたことで楽しくなっていた。ボランティアの最後の頃には、もう時間が来てしまったと思うことが多かった。

また、フルーツを喜んでいただいたことが本当に嬉しかった。普段はお茶がなくなっていることに気づかない等、ふがいなく思うことが多かったが、これは私にしかできないことで、それで利用者が笑顔になったと思うとやってみてよかったと心から思う。

4. 新しい発見や学び

利用者とのお話を通して、当然のことではあるがコミュニケーションのコツを実感した。まず、少しでもきっかけがあれば話ができるということ。小学生が来たときに、話そうという姿勢が小学生にも利用者にもあるけれど、お互い何を話せばいいのかわからないという状態で黙っているという場面が多く見られた。しかし少し間に入って、きっかけを作ることで話ができるようになっていた。私自身、初対面の人とは黙ってしまうことが多いので、何かしら話をすることを入れた。最初の目標にしたい。また、話すときには好きなことを話すのが一番いきいきとしていると感じた。自分が好きなことは伝えたいという気持ちが強く、ネタ切れの状態になることもない。特に言葉や世代という壁があるときには、好きなことを話すというのは有効な手段だと思う。そして、やはりお互いを知ることが非常に大切である。相手がどんな人かわかれば話の振り方や話題を工夫することができる。何より、相手が自分を覚えているということが嬉しいのだ。名前だけでも、好きなことでも、覚えていてくれると、もっと仲良くなりたい、話したいという気持ちが出てくるのだろう。

また、職員やボランティアの方を見て笑うことの大切さを知った。少し暗い話も上手に笑いに変えて、ともに笑いあう。一緒に声を出して笑うことも、コミュニケーションにとって大切なかもしれない。

大学生学習サポーター事業

教育学部2年 C.K

1. 活動先、活動日時

- ①千歳市立桜木小学校、8月1日～3日、10時～11時30分
- ②愛別町「天神クラブ2016夏」、8月8日～10日、9時～12時
- ③恵庭市「えにわ☆川塾」、8月21日、9時～13時

2. 活動内容

①千歳市立桜木小学校

子どもたちが持参した学習教材を用いて、つまずきやすい箇所に配慮した指導を行った。多くの子どもたちは夏休みの課題を進めていた。

②愛別町「天神クラブ2016夏」

まず子どもたちが来る前に、スタッフミーティングを行いその日の流れや注意事項を確認した。子どもたちが来ると、プリントを使った学習の時間が30分間行われ、大学生ボランティアは子どもたちのわからない問題の指導を行った。学習の時間の後は、体験学習が行われた。日によって内容は異なり、1日目に消しゴムハンコの作成、2日目にプログラミング体験、3日目にうどんづくりを行った。

③恵庭市「えにわ☆川塾」

当初の予定では、川下りをして川で見つけた生物の観察を行い、発表をする、ということだった。しかしあいにく前日の天候が悪く、川下りが危険と判断されたため、内容に変更が生じた。子どもたちは、あらかじめ準備されていた写真を、図鑑を使って種類と名前を調べ、発表用成果物を班ごとに仕上げた。発表の後は、全員で昼食をとった。

3. ボランティア活動を体験しての感想

このボランティア活動では、当然だが、子どもたちとの交流ができる。この、子どもたちとの交流が、私にとって非常に貴重な思い出になった。

はじめはなかなか心を開いてくれなかった高学年の女の子が、ちょっと難しい問題を一緒に解いてあげたら、自分から話しかけてくれるようになってくれたこと、朝私が学校の玄関についたら、「先生おはよう！！」と言って教室まで私の腕を引っ張って行ってくれたこと、体育館で休み時間にみんなで行った鬼ごっこ、など、子どもたちと過ごす中で起こった楽しかったことやうれしかったことを挙げるときりがない。そして子どもたちの頑張っている姿もまた印象的である。さっきまで元気に走り回っていた子どもたちが、ミニカッターを使う工作の時間になると真剣な顔つきで消しゴムはんこを作る。学習の時間になかなか集中できない子に「今日はこのページまで終わらせることを目標にしよう」と声をかけると、その子がきちんとそのページまで終わらせて私に自慢げに見せてくる。こうした子どもたちの一生懸命な姿が思い出される。そしてこれらは、普通の大学生活の中では経験できないことである。

ボランティア活動で一緒に過ごした子どもたちの表情は忘れられない思い出になった。学校サポーターに参加して、本当に良かったと思っている。

4. ボランティア活動を通して得た新しい発見や学び、自分自身にとって役に立ったこと

この講義を履修する前まで、ボランティアは社会のために奉仕する、というポジティブなイメージがある反面、周りからの評価を高めるために社会の中の仕事の一部を「偽善的」に行う、というようなネガティブなイメージも持っていた。しかし、実際にボランティア活動に参加することを通して、そうではないことがわかった。

その理由は、ボランティアに参加することは自分自身にとってのメリットが非常に大きかったように思うからである。普段接することのない職種の方、ほかの地域の子どもたち、地域の方々、といった人との出会いから、田舎の雰囲気やその土地のおいしい食事を知ることなどまで、この事業に参加することで非日常の刺激を得ることができた。

大学やアルバイト先などで行われる日常生活では、似たような属性の人と話すことが多い。高校までの生活に比べ、圧倒的に知り合いの数は増えたが、それでも自分の世界が狭いと感じる。しかしボランティアを通して、違う地域に住む子どもたち、地域の方々、ボランティア活動をされているシニアの方々、教育委員会のみなさん、学校の先生方など、様々な属性の方と接する機会が得られた。

また、私はこれまでほとんど札幌に住んできたので、道内であってもほかの地域のことはよく知らなかった。今回訪問した愛別町は、ボランティアに参加するまで場所すらも知らなかった。だが実際行ってみると、自然が美しく、そして名産物のきのこはおいしかった。このボランティアを通して、今回行った市町村だけではなく、道内の他の市町村にも行ってみたい、という興味がわいた。

このように、ボランティア活動は社会のために何かいいことをする、という奉仕的な意味だけではなく、自分にとってプラスになることがたくさんある、ということがわかった。今後もボランティア活動を通して人生を豊かにしていきたい。

Ten To Ten でのボランティア活動報告書

工学部2年 M. Y

1. 活動先、活動日時

7月8日にTen To Tenというゲストハウスの開店の手伝いをしました。これは、私が所属している「けんちくん」というサークルの活動の一つです。「けんちくん」では、ゲストハウスを建てたり、改装したりすることを手伝っています。「けんちくん」の活動はその名のとおり建築に関するボランティアを中心にしています。そのため、ゲストハウスという家に関するところでボランティアをしています。他にもGVといって発展途上国に行つて、家がなくて貧しい人たちのために家を建てる活動をしています。

次に8月19日、8月20日、8月21日、8月22日、8月23日の5日間、北海道開拓の村でボランティアをしました。

最後に9月4日、9月9日、9月10日にモエレ沼芸術花火大会のボランティアをしました。

2. 活動内容

初めに、Ten To Tenで行ったボランティアの活動内容を説明します。ゲストハウスの部屋の床掃除と装飾品を作りました。装飾品は、部屋のナンバープレートという重要なものまで作らせてもらいました。次に、北海道開拓の村のボランティアで体験したことは、大きく分けて5つです。一つ目が蚕の飼育です。私は蚕が苦手で見たくなかったので遠慮しようと思つていましたが、一年に一度のイベントでしかもちょうど私が行った期間が蚕の繭を作り出すときで、このチャンスを無駄にするのはもったいないと説得されて見に行きました。最初は近づくことも直視するのもきつかったのですが、餌をあげたりお世話をしたり、ボランティアから蚕のことについて教わったりしているうちに平気になりだんだん可愛く見えるようになりました。

二つ目は旧来正旅館です。ここでは駄菓子の販売の手伝いをしました。旧青山家漁家住宅では、来場者にお茶を出しました。ボランティアは、研修を受けて知識のある方が担当していて、建物について説明していました。わら・ぞうりづくりでは簡単な編み方を教わりました。来場者に編み方を披露したり、わら細工の歴史を説明したりしていました。旧青山家漁家住宅では、来場者にお茶を出しました。ボランティアは、研修を受けて知識のある方が担当していて、建物について説明していました。わら・ぞうりづくりでは簡単な編み方を教わりました。来場者に編み方を披露したり、わら細工の歴史を説明したりしていました。私にも藁草履の歴史を詳しく教えてくれました。私が体験した中でもっとも大変だと思ったのが手フート印刷を再現するために活字をひろう作業です。小学生以下の子どもたちにこのような名刺を作つてあげました。名前の漢字や学校の名前などこのようにずっしり詰まった活字の中から一つ一つ探していきます。活字は漢字辞典と同じ順番で並んでいるのですが、私は漢字辞典なんて小学生以来使っていなかったのが大変苦労しました。一緒に作業をしたボランティアから漢字辞典の引き方や面白さをたくさん教わり、得るものがたくさんありました。

最後にモエレ沼芸術花火大会のボランティアの活動については、9月4日に初めてボランティア同士の顔合わせをしました。そこで当日の動きや、班分けなどの説明がありました。9月9日は、モエレ沼公園に実際に行つてスケールを確認しました。9月10日はいよいよ花火大会当日で、会場の設営や、来場者の入退場のチケット拝見と誘導、会場の片づけをしました。

3. ボランティアを体験してみたの感想

どのボランティアをしても、最後には「また来てね」とか「ありがとう」とか嬉しい言葉ももらえ、やってよかったなと思いました。また、ボランティアを一緒にするメンバーや、出会った人は知らない人ばかりで、しかも多様な年齢の方たちでした。ゲストハウスでは、30代から40代の社会人、北海道開拓の村では60代から80代の高齢者、モエレ沼芸術花火では、さまざまな学校から集まった学生でした。特に高齢者とは普段かかわる機会がなかったので、ボランティアをしながら様々な話ができ、知らなかったことをたくさん学べました。こういうようにボランティアをすることだけでなく、多様な人たちと出会えて、色々な話ができることもボランティアの魅力だなと感じました。

4. ボランティア活動をしてあなたはどのような発見や学びがありましたか。また、あなた自身にとって何か役に立つことはありましたか。

ボランティアについての講義でもあったように、他人のためにとことだけを考えて自分の利益を全く考えないでボランティアをする、続けるというのはとても難しいことだと感じました。反対に、自分が好きなことだったり、興味のあることだったり、何らかの利益があることだったりするボランティアであればずっと続けられるし、助けるほうも助けられるほうもいい思いができていい関係になるということをボランティアたちとの話の中から学びました。将来ボランティアをするときの指針にしようと思いました。

ボランティア活動の社会的な位置づけと意味について

農学部2年 K.K

1. はじめに

私は以前からボランティアがどういうものなのかよくわからなかった。言うなれば無償のアルバイトのようなものといった印象しか持っておらず、ボランティアとして働くことが理解できない面もあった。そもそもボランティア活動にはどのようなものがあるのか知らなかったため、自分とは全く関係ないものだとも考えていた。しかし一方で、ボランティアについて知りたいという考えも自分の中にずっとあったし、単にボランティアを通じて社会について知りたいという気持ちもあった。そこで実際にボランティア活動への参加や本授業を通じてボランティアについて考えてみることにした。

2. 当初持っていたボランティアに対する認識について

私がボランティアに関してどのようなことを考えたかについて述べるにあたり、初めはボランティアについてどのようなイメージを持っていたのか明確にしておきたいと思う。ボランティア活動に参加する以前、ボランティアとは、ゴミ拾いや環境保護活動、社会福祉活動のようなものであり、ある意味誰でも、何の説明もなしにその活動の重要性が理解できるもの、というイメージを持っていた。ただし誤解されたくないのはボランティア一般がそれほど重要でないと言っているのではないことだ。例えば円山動物園のガイドボランティアのようなものは確かに必要であって役に立つものではあるが、環境保護活動などのように声高にその重要性が説かれているわけではないものということだ。また、これは実際に活動に参加し始めたころに感じたことであるが、やっている仕事内容だけを見るとアルバイトでもよいのではないかという印象も抱いた。

本授業を通じて私は北大マルシェ・ツキネコカフェ・円山動物園の3か所でボランティア活動またはボランティア活動の手伝いをしたが、活動に参加する中で、ボランティアとは何なのか改めてわからなくなった部分もあれば理解できるようになった部分もあった。しかし少なくとも今までとはまた異なる考え方を持つようになった。本報告書では、ボランティアに参加した中で気づいたことから、ボランティアとはどのような意味のある活動なのかについて考えたことを述べていきたいと思う。

3. 活動先・活動日時・活動場所

- ・北大マルシェ, 2016年8月19日、21日
北海道大学農学部
- ・ツキネコカフェ, 2016年10月～12月不定期
北海道札幌市中央区北6条西27丁目1-30,
- ・円山動物園, 2016年9月～12月不定期
札幌市中央区宮ヶ丘3番地1

4. 活動内容

- ・北大マルシェ
テント設営、机・いすの運び出し、店の手伝い、片づけ等
- ・ツキネコカフェ
床掃除、トイレ掃除、キャットタワーの毛取り、水やり、ストーブの設置の手伝い、

荷物の整理等

・ 円山動物園

ミニツアーガイドに同行、班会議に参加、研修会に参加等

5. 実際にボランティアに携わってみて

3つのボランティアに参加した中で共通して感じたことは、ボランティアには非常にたくさんの人たちが関わっているということだ。ボランティアに参加する形で関わる人がたくさんいるだけでなく、活動を通じて出会う人たちも多種多様だった。例えば、北大マルシェでは北大農学部(農学院)の学生のみならず他学部他大学の学生、さらに社会人も参加していて年齢層も幅広かった。加えて、店舗の販売の手伝いを通じて、参加した農家と関わられたし、来場者との交流もあった。ツキネコカフェや円山動物園にも似たような面があって、毎回色々な来場者と関わることができた。

また多様さの一方で、ボランティア活動に参加する人たちには、その活動内容やそれに関連する分野に関心があるという共通点が確かに存在している。例えばツキネコカフェでは、ボランティアの人でも来場者でも、単純にネコが好きの人やネコの保護活動がしたい人たちが集まれる空間になっているように感じた。

こうしたことから1つ気づいたのは、ボランティアは共通項を中心に色々な人たちが集まってできる場なのかもしれないということだ。そして、ボランティアとは単なる社会貢献の場ではなく、人と人とが出会う場所でもあるのではないかも感じた。それぞれのボランティア活動に参加した中で別々に気づいたこともある。北大マルシェは大学院の授業として行われるものであり、運営はほぼ学生によって行われている。学生中心でサークル的に何かを作り上げることができるのもボランティアならではのだろうと感じたし、高い専門性が求められるわけではないのだろうとも感じた。ツキネコカフェでは、ボランティアではあったが来店客と話す機会や、カフェのスタッフの人たちとの交流もあったため人との関わりが濃かったように思う。またスタッフの方に聞いた話では、もともとカフェは別の場所にあり、移転の際にボランティアの方々の力も大いに借りたそうだ。そういう部分から、人間関係の大切さも感じた。

円山動物園では、ガイドボランティアである以上、人と接することはもちろんあったが、それ以上に動物園の中でのボランティアの立ち位置や存在意義のようなものを考える機会になった。研修会に参加させていただいた際や班会議を見学させていただいた際に、ボランティアと動物園の仲介役になる職員の方の人数が足りていないということや動物園との連携がまだうまく取れていない部分があるということが分かった。こうしたことから、ボランティアは組織としてまだ成長段階にあるのだと感じたと同時に動物園側がボランティアをどのように捉えているのか考えるきっかけとなった。あくまで個人的な意見だが、動物園側はボランティアに対してあまり労力を割けない現状にあるのかもしれないと思った。

6. ボランティアを終えての印象の変化

はじめに述べたような、自分の持っていたボランティアの認識、そして動物園等ではまだボランティアを活用しきれていないかもしれない現状を考えると、社会的にボランティアの役割は曖昧にしか認識されていないのではないかと思った。それこそ、環境保護や社会福祉のような活動をする組織としてしか認識されていないのかもしれない。しかし3つのボランティアを通じて考えたボランティアの役割とは、人々が市民として参加する場の提供であったり、異なる背景を持つ人々が集まる結び目のようなものではないかというものだ。また、北大マルシェで感じたことのように、ボランティアは目的意識さえ持っていれば比較的簡単に始められるという特徴もある

と思う。さらに、ツキネコカフェのように「ネコの殺処分ゼロを目指す」というような目的意識、問題意識が根底にあって生まれる活動だから金銭的な形での報酬が必要ないのだと思う。つまり、アルバイトはある意味金銭的な目的のためにしている場合が多いため報酬はお金であるのだと思うが、ボランティアでは目的がそもそも違っていて、活動の成果そのものがいわば報酬になっているとも言えるのかもしれない。

7. 自分のボランティアに対するイメージがずれてしまっていた原因

これまでの活動を通じて、ボランティアは社会的にあまり浸透しきってない面があると思った。自分も今回のように実際に活動に参加するまでは、無償で働くくらいなのだから「ボランティア＝崇高で献身的な信念に基づく社会貢献活動」というような印象もあって重く捉えるだけであつたし、活動内容そのものもあまりイメージできなかつた。だが、実際に行ってみると、ボランティアには、問題意識を持った人が比較的容易に始めることのできるサークル的な面があるし、そうした活動に色々な人が共感、協力する形で拡大していった結果、「ボランティア」と呼ばれるものになっていくのではないかと思うようになった。そう考えると、ある意味どのような活動でもボランティアになり得るし、だからこそその気楽さがあるように思う。それにも関わらず、異なる印象を抱いてしまうのは、社会貢献というイメージだけが独り歩きしてしまった結果ではないかと思う。

8. ボランティアが抱えている(と思われる)問題

個人的な見解ではあるが、ボランティアが単に仕事の一部を担う部署として扱われるようになってしまうと問題ではないかと感じた。ボランティア一般に言えることだが、ボランティアが労働力としてだけ扱われるのは社会的にあまりメリットがないと考えるからだ。ボランティアは、上述した通り、ある意味誰でも自由に始められる活動であると同時に、市民が社会的に活動できる場や、人同士の関わりが生まれる場を提供するという意味合いも強いと思う。だからアルバイトのようなものとは目的、役割が大きく異なっている。しかし、本来そうであるボランティアが、単に組織の1部署としてみなされてしまうと、そうした機能を発揮できなくなってしまうかもしれない。しかも下手をすると正式な組織の構成員ではないがゆえに、完全に内部とも外部ともつかない立ち位置で、宙ぶらりんになってしまうとも思う。ボランティアはボランティアとして組織内部、社会の中での自らの立ち位置を自覚しつつ、周りの組織もその役割を認識しなければならないだろう。

9. 終わりに

初めに持っていたボランティアの印象は単なる慈善活動のようなものであったが、現在は良い意味でもっと自由な、人が社会を作り上げていく一貫とも言える活動ではないかという考えに至った。もちろんこの考えはあくまで個人的なものであって、人によってボランティアの捉え方は異なるはずだ。しかしこの授業を通してボランティアに関して今までとはかなり異なる見方ができるようになったと思う。そのため今後も何らかの形でボランティアには関わっていきたいと思う。そうした中で、今まで述べてきた考えは変化するだろうと思うが、ボランティアは何なのかということや、それに関わって社会について考える姿勢は持ち続けていきたい。

ボランティアカフェの可能性

農学部2年 N. F

1. カフェボランティアの活動

私はワイズカフェでボランティア活動を10月から続けています。活動内容は、接客、伝票整理、料理、皿洗い、商品のラッピング等でした。どの活動も誰でもできるようにマニュアル化等がされている他、最低でも1人は職員の方がシフトに入っています。

ボランティア活動を行って、発表でも言いましたが業務そのものに何か特別なことは感じませんでした。カフェで働いたことはありませんが、恐らく同じようなことをしていると思います。ある日友人に「アルバイトと何が違うのか。」と聞かれ、ボランティアの環境を見ているとアルバイトでは全く見られない面を多く見ることができました。

2. コミュニケーションの場としての役割

発表内容と重なりますが、やはり利益を追求していない分、内面的なところに重きを置いています。母体のYWCAは国連の諮問機関であり、責任者のNさんもNPO運営の研修を受けていて、通常の飲食店とは経営や雰囲気が大きく変わっていました。元々地域住民の交流の場として立ち上げたということで、地域の人が集まって話す他に、常連客とボランティアの距離も近く、お土産を渡したりしていました。勿論ボランティア同士でも話をしたりして、1つのコミュニティのようになっていました。このような現代では珍しい地域のコミュニケーションの場を提供しているのは大きな特徴であると感じました。

内面的なところを重視しているとはいえ、決して商品販売を軽視しているわけではなく、YWCAの人脈を使って、本格的なメニュー開発、食材も有機栽培やフェアトレードを使用する等していました。またボランティアの人もこれらに関わっている場合があります。

3. 新たな飲食店の型としての可能性

前回発表を行い、ワイズカフェのこのような点を見つめなおすと、あくまでカフェとして金銭的なやり取りをしているところに注目しました。そしてそこから新たな側面と、その可能性を感じることができました。それは、「新たな飲食店の型の提案」です。先ほども述べた通り、ワイズカフェは通常の飲食店とは全く異なる経営を行っています。今まで何となく「人と地球にやさしいカフェ」とは感じていましたが、発表の際の木村先生のお話を聞いて、これはただの自己満足ではないと感じています。例えば食材ロスが減らす試みは、ただもったいないから行っているのではなく、飢餓に苦しむ子どもたちの救済を訴えているのかもしれないと感じました。日本は食材ロスが多い国で有名です。飲食店では出来立てを提供する為に次々と食べ物を捨てています。これは格差が生んだ残酷な仕打ちです。勿論、儲けを出すために品質を高めることは、企業にとって重要なことです。しかし、だからといってこのまま続けていい訳ではないと思います。

またフェアトレードも取り扱うことで貧困から救うことになるはずですが中々進みません。今の先進国の安さや豊かさは不当な賃金で働いた人の上に成り立っています。そのメリットを捨ててまでフェアトレードを店で扱おうと考える人は少ないのかもしれませんが。以前ボランティアカフェでは人件費を抑えることでフェアトレード商品を安く売ることができているのではないかと考えましたが、よく考えるとそもそもフェアトレード商品は安く売ることが目的とし

た商品ではありません。あくまで公平な取引を訴えているのであって、こちらで値段を下げては本末転倒です。もし売れたとしてもボランティアカフェだけで売れるのでは意味が無いと考えなおしました。

このような企業がリスクを恐れてできないことを、目を背けずに行うことができる、利益を求めないからこそ今までの常識を破って思い切ったことができると思いました。このことからボランティアカフェは理想を体現した姿であると考えます。このような試みが少しでも共感され、広めることができれば、食材ロスを減らし、多くの人が正当な配当を得ることができるかもしれません。寄付で社会貢献を行うだけでなく、もっとより根本から世界を変えることができる、ボランティアカフェにはその可能性が秘められていると感じました。そして私達ボランティアはその理想の実行者であるのだと考えました。

ここまで大それたことには至らなくても、人々に「地球と人にやさしいカフェ」という存在を知ってもらっただけで、人々に現状を考える機会を提供することができます。このように間接的ではありますが、一種の意思表示を行うという点でも非常に重要な役割だと思います。他の皆のように、目に見えて誰かを助けるわけではないけれど、これも一つのモチベーションであり、ボランティアの形ではないかと考えます。思えば最初の面接のときに、このカフェは利益を求めていること、フェアトレード等で社会貢献を目指している事等を、かなり念を押して伝えられましたが、このような意志発信型ボランティアではこの辺りの価値観の一致が非常に大事だったのだと感じました。

4. 最後に

私は実際にボランティアに参加することでこのような取り組みが行われていることを知り、現代の日本のいびつさを考え直すきっかけを得ることができました。このような取り組みをもっと大勢の人に知ってもらい、少しでも考えるきっかけになって欲しいと思いました。

ベトナムの Sa Dec でのボランティア活動報告書

農学部2年 M.O

1. 活動先、活動日時

2016年8月22日から9月2日の12日間ベトナムのSa Decというホーチミン市から約150km西に離れた地域で活動した。そこでは多くの家庭が花と食用蛙を育てて生計を立てていた。近くにはメコン川が流れ、夜になるとあたりが真っ暗になるようなのどかな地域だった。

2. 活動内容

事前に知らされていた内容は

- ・メコンデルタの生活を体験する
- ・ホームステイをしながら現地の人々と一緒に清掃作業を行う
- ・現地の人と一緒にガーデニングや料理を行う
- ・外国人にとって魅力的なツアーの構成を提案する
- ・自国の環境にやさしい観光を紹介する
- ・地元の大学生と交流する

であった。しかし、実際に行った活動は上の3つのみであった。活動を行った平日は毎日、ホストファミリーが出荷する花のカットや植え替え、雑草抜きなどを行った。土日は活動がなかったので、参加していたベトナムの友達の実家に連れて行ってもらった。また水上マーケットやパゴダなども訪れることができた。

3. ボランティア活動を体験しての感想

はじめてのボランティアで事前に自分で考えていたことと異なることばかりで、戸惑うことも多くあった。特に自分が興味があった環境に関わるテーマとは内容が全く異なり、毎日ガーデニングばかりだったので、はじめは少し不満に思うこともあった。しかし、このプログラムのリーダーと話をしてプログラム内容を変えざるを得なかった理由を聞き、納得することができた。振り返ってみると、こうしたことも自分にとってとても貴重な経験になったと思える。また、ボランティア中はベトナムの家庭にホームステイをさせてもらった。ホストファミリーは英語を話すことができなかつたため、直接会話をすることはできなかつたが、ジェスチャーを使ったり片言のベトナム語を覚えたりして、仲良くなることができた。彼らは本当に親切で素敵な家族で、Sa Decでの生活を垣間見ることができた。私たちが快適に過ごせるように食事や生活面でとても気を使ってくださり、少しでも彼らの役に立ちたいという気持ちになったのも活動のやる気につながった。

4. ボランティア活動で学んだこと

このボランティアで本当に多くのことを体験し、学ぶことができた。ボランティアの種類によって異なることも多いと思うが、私自身がこの体験を通してボランティアにとって大切だと思うことがいくつかある。まず、主体的であることだと思う。ボランティア全体でテーマが決まっていたとしても、自分自身は何をすべきなのか、何ができるのかを考え、行動に移さなければいけないと思う。ただ労働力になるためだけだったら、地元の人を雇用すればよいと思うし、わざわざボランティアという形にする必要はないと思う。私はこのボランティアでは、地元の生活を体験して、広めることであつたと思う。今回の活動を通して、Sa Decの人々の暮らしを体験して魅力を感じることができた。Sa Decは都会からはかなり離れていて、現在観光地

としてはあまり知られていないようだった。しかし、現地の人はとても温かく、自然もたくさんあり、いつか観光地として知られるようになるのではないかと思う。なので、これから少しでも Sa Dec やベトナムの魅力を伝えることで役に立つことができたらと思う。

次に臨機応変であることだと思う。海外ボランティアでは特に思っていたこととは違うことも多々あると思う。そこで慌ててしまうのではなく、気持ちを切り替えて冷静に自分が求められていることを把握することが必要だと思う。また納得できないことがあれば、はっきり意見を述べることも大切であると思う。活動内容のことでほかの日本人は日本語で文句を言っていることもあったが、いくら日本語で話していても完全には伝わらなくてもマイナスな雰囲気は周りに伝わると思う。別に意見を言うこと＝非難しているという訳ではないのだから、陰でいろいろ言うより伝えなければいけないと思う。そのほうが参加者側も運営側も気持ちよく活動ができる気がする。

最後に、これはボランティアの種類によっては変わって行くかもしれないが、楽しむことも重要であると思う。どのような気持ちでボランティアを行っているのかは態度や行動に現れる。自分たちが楽しんでやる気をもって作業を行い、ボランティアを受ける側もいい気持ちになってもらえる。このような循環になれば、お互いにやってよかったな、やってもらってよかったな、という充実感や感謝にもつながるのではないのかなと感じた。

ボランティア活動を通して学んだこと

文学部1年 M.A

1. 活動先、活動日時

私は、9/7～10/2の日曜日の12:00～16:00頃に札幌市立円山動物園、12/18～1/29の水曜日、日曜日、祭日などの10:00～16:00頃にNPO法人ツキネコカフェでボランティアをさせて頂いた。両ボランティアともに、それに決めた一番大きな理由は動物が好きであるということだ。

2. 活動内容

札幌市立円山動物園では、動物園のツアーガイドボランティアのサポートをさせて頂いた。ボランティアの方々が団体のツアーのガイドをしていらっしゃる横でそれを聴いたり、ツアーの他にも、ボランティア事務所でボランティアの方々が主催のイベント準備などを手伝ったりした。そこで気が付いたのは、年代など団体の特徴によって解説を変えていたこと、ボランティアの方それぞれが独自のガイド方法があること、ボランティアと動物園職員の方々との連絡や関係があまり円滑でなく、方向性に若干の違いが感じられたこと、ご年配の方が大半を占めているということである。次にツキネコカフェでは、清掃ボランティアを行なった。ネコ部屋の掃除やネコの水換え、毛とり、食器洗い、キャリーバッグ消毒、事務をした。ツキネコカフェはNPO法人の保護ネコカフェであり、カフェの売上金だけでは運営金を中々まかなえない所があり、ボランティアや募金、支援物資など、善意での行為が必要となる部分があるらしい。そこで気付いたことは、誰でも出来る仕事であるため、年齢や性別が多様であること、仕事内容やシフト管理方法、目的や動機などにおいてスタッフとボランティアが似ていることなどである。

3. ボランティア活動を通しての感想

この二箇所ボランティアをさせて頂いて、全体的に感じたことは、ボランティアの立場というのは組織によって全然違うということ、自分が好きなことをやっているということである。札幌市立円山動物園では、ボランティアは動物園から独立し、割と影で活動している様な印象を受けたが、ツキネコカフェでは、人数的にボランティアの方が多く、仕事の量、内容に大差が無いと感じたので、スタッフとボランティアの違いが少なく、チームとしてまとまっているような印象を持った。また、私は今までボランティアをするに当たり、その目的の一つとして、「金銭的な利益を求めないといったボランティア精神を育てる」としていた。ボランティアは、自分にとって好きなことが出来るという利益があるために、金銭という利益を求めるに至らないというのが私の考えた結論である。

4. ボランティア活動を通して得たもの

ボランティア担当の先生から様々なボランティアを紹介して頂いたのにも関わらず、それを断り、自分の好きな動物に関わることが出来るボランティアだけを探していた。今考えると、先生にはかなり頑固だと思われていたかもしれない。自分のやりたいことをやるのならば自分の好きなことをやりたいと思った結果だった。しかし、私はその事について少し引っかかる所があった。なぜなら、私は今までボランティア精神とはその受け入れ先やその周りの人の為にしなければいけないものであり、自分のしたい事だけをするのは間違いだと思っていたからである。私自身、ボランティアの授業を受講しているのにこんな事で良いのかと悩んでいた。しかし、最後の授業では「ボランティアとは相互的なものである」という考えがあると知り、そこで自分なりに納得することができ、気持ちが楽になった。ボランティアを続けていきたいと思っている私にとっては、この答えを出せたことはとても貴重なことだと思う。これからのボランティア活動の手助けになれば良いと思う。

札幌市円山動物園での活動を通じて

総合理系1年 Y. A

1. 活動先、活動日時

私は、札幌市円山動物園において、2016年10月2日、9日、10日、16日と11月19日と2017年1月1日に活動した。

2. 活動内容

主に、毎週日曜日に動物園ボランティアによって行われている1時間半のミニツアーガイドへの同行。1度だけ、森のボランティアのガイドツアーと研修会に参加。

3. 感想

ボランティア活動をする前は、ガイドの内容に関して定められたマニュアルがあるものなのかと思っていたが、そのようなものはなくボランティア個人それぞれがガイドをしているということに驚いた。このことは、ボランティアにとって重荷ではないかと思ったが、個人が自由にガイドでき多様性が生まれるという点では意味のあることだ。また、当たり前のことだが、動物園にいる動物に関して正しい知識を持っていなければいけないので、動物を愛する気持ちがあって知識をつけることに苦を感じない人でないといけないボランティアだという印象を持った。

毎週日曜日に行われているガイドツアーは、参加者が1人もいなかったため中止になることもあった。1回の参加人数は多くて5人程度で、思っていたより少なかった。そのため、園内放送で呼びかけるなどより周知を図った方がいいのではないかと思った。しかし、参加者数が増えることでガイドボランティアの負担も増え、少人数のボランティアでは対応しきれない可能性がある。そこで、広報活動をあえて控えているのかもしれない。

少なくとも私が同行させてもらった時はいつも、参加者は全員日本人だった。そもそも園内で頻繁に外国人を見かけるわけではなかったのだが、1度、日本語の文章の前で立ち止まっている外国人を見かけた。おそらくその文章の意味を理解していないようだった。英語のパンフレットなどは用意されているが、園内には日本語以外の表記が少なく感じるので、道順を示す看板や動物の説明文などを多言語表示に切り替えていくべきだと思う。看板を多言語表示に切り替えていくことが難しいなら、外国人向けのガイドツアーを月1回ほどの頻度で行ってもいいのではないだろうか。ただ、それを実現するには、外国語を話せるボランティアを一定数確保する必要があり、時間がかかりそうだ。

4. 新しい発見・学び

私は、円山動物園のガイドには主に2つのよいところがあると感じた。1つ目は、見学者とのやりとりによる雰囲気作りがされているところだ。具体的には、ガイドが一方的なものにならないように、「どちらからいらっしゃったのですか？」や「円山動物園は初めてですか？」などの質問を交えていた。そうすることで、ガイドを双方向的なものにし、参加者がリラックスできる雰囲気を作っている。2つ目は、ガイドに個体の名前、年齢、家族構成といったそれぞれの個体に関する情報を盛り込んでいることだ。参加者の多くは大人であり、動物に関する詳しい知識を勉強しに来ているといった感じではない。そのため、図鑑に書かれているような生息地などの情

報よりは、豆知識的な情報や動物たちの普段の様子に関することが中心のガイドになっている。ガイドの内容はこのように工夫されているが、動物がこちらを向いていないときのために、その動物の顔がよく分かる写真をガイド中に持ち歩き、いつでも見せられるようにしているボランティアもいた。これも、参加者の気持ちを汲んだ工夫だと思う。

また、ガイドボランティアの方々は、カラスが多くとまっている木の下でご飯を食べている来園者にカラスに襲われる危険があることを伝えたり、ゴミや落とし物を拾ったりもしている。どちらも、ガイドとは直接関係の無いことである。しかし、どちらも、動物園内で来園者が楽しい時間を過ごしてほしいという気持ちから生まれているという点はガイドと共通である。このようなガイド以外のことは、誰かから言われてやっている訳では無い。そういったことを自ら進んでやるという姿勢を持っている方がボランティアには多いのだろう。

RSRでのボランティア活動についての活動報告書

水産学部1年 N.N

1. 活動先、活動日時

〈活動先〉

北海道・石狩湾新湾樽川ふ頭横野外特設ステージ

「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2016 in EZO (以下RSRと略す)」での環境対策ボランティア

〈活動日時〉

2016年8月7日18時～20時頃 説明会 場所：豊水会館

2016年8月12日7時集合(17時間)、8月13日(24時間)、8月14日18時解散

この3日間、ボランティア本部近くにある、割り振られたテントが荷物の置き場や仮眠場所となった。8月13日については、朝から夜中までテントに戻るが出来なかったが、別の拠点で食事の配布があった。活動時間中はボランティアである証明として配布されたTシャツと缶バッジを身に着けていた。

2. 活動内容

NPO法人 ezorock のボランティアスタッフとして3日間活動した。1日目の朝から2日の夜中約6人のグループごとで活動した。ボランティア全体の活動内容は、「オリジナルゴミ袋の配布」、「ごみの分別ナビゲート」、「エコアクションキャンペーンブース」、「オーガニックじゃがいもの配布」、「薪割りブース いつでも薪割り」の5つであった。そして最終日には一斉清掃というものがあり、グループによっては夜中から日中を通してごみの回収などの活動をした。グループごとに活動内容の組み合わせや活動時間は異なった。私がした活動は、主に2つである。私が実際に行った活動2つと一斉清掃、会場清掃について記すこととする。

〈ごみの分別ナビゲート〉

ごみを捨てて来た来場者の分別のサポートをした。RSRの会場はとても広く、ゴミステーションが各地に配置されていた。計5つのゴミステーションがあった。ごみは13種類に分別される。この活動のおかげで、今ではRSRでのごみは8割以上リサイクルされている。集められた生ごみはたい肥化し、来年のRSRで配布するジャガイモを育てるために使われる。

来場者とコミュニケーションをとりながらの活動だったので、人見知りの私はなかなか積極的に声をかけることができなかった。しかし、グループの他のメンバーの来場者に対する温かな対応や笑顔を見て自分も頑張ろうと思い、活動を続けるにつれて慣れていき、積極的に活動できるようになった。私はごみの分別ナビゲートに多く関わった。少しでも分別の異なるごみが混ざると台無しになってしまうため、責任を感じた。

〈エコアクションキャンペーンブース〉

来場者に環境保護に対する意識が芽生えるように工夫して伝えた。私にとってこの活動はRSRでの最初の活動であった。配布しているゴミ袋が古いお米から作られていて環境に優しいことや、石狩湾に流れ着くごみについての説明などを来場者との会話を楽しみながら伝えた。説明するために展示を読んだりボランティアコーディネーター(以下VC)から聞いたことを来場者に伝えたりする中で、私自身も環境保護に対する意識が高まったと感じた。また、参加者にはノベルティとしてタオルを渡した。マニュアルもなく、前のグループからの引継ぎもなかった中で始まったため、焦り、VCにどのようにやれば良いか尋ねたりした。周りのメンバーは臨機応変に行動しているのを見て、自分も思い切って堂々と説明しようと心掛けた。

〈一斉清掃〉

来場者が帰るときに大量のごみを捨てに来るため、対応がとて忙しかった。また、来場者もボランティアもほとんど睡眠をとっていない中での活動であったため、自らの気力だけで乗り切った。立ちっぱなし動きっぱなしの作業であるため、VCが一人一人に声をかけ、水飲み休憩の回数が少ない人から休憩をした。この一斉清掃は、ボランティア全メンバーで行う唯一の活動であった。

〈会場清掃〉

来場者が全員帰った後、RSRの会場を歩き、ローリング作戦でゴミ拾いを行なった。約60万平方メートルの会場内をボランティアのメンバーで隅々まで歩いた。歩いてゴミを拾い続け、最後まで終わったときは大きな達成感があった。

〈NPO 法人 ezorock について〉

ezorock とは、2000 年に行われた野外音楽フェスティバル「RISING SUN FESTIVAL」における環境対策ボランティアに参加したメンバーにより、「50 年後も野外で気持ちよく音楽を聞いていたい」という思いから 2001 年 4 月に設立された NPO 法人である。「DO IT YOURSELF」と「RESPECT OTHERS」という“自立”と“共存”を前提とした野外ロックフェスティバルの基本的な姿勢が、これから生きる私たちに必要不可欠であるという考えからフェスティバルの空間を超えて北海道各地で活動を展開している。具体的には、地域づくりや環境保全をテーマに、若者のアイデアやパワーを活かした課題解決型のプロジェクトを実施しながら、若者自身が自らの生き方を変化させていくことで、自立と共存の人と社会づくりを目指している。年間 3300 人以上の若者が活動に参加している（詳しくは、NPO 法人 ezorock <http://www.ezorock.org/about> を参照のこと）。

3. ボランティア活動を体験しての感想

このボランティアはグループ活動で行ったため、他のメンバーに助けられながら活動をしたことが印象に残っている。初めは消極的であり、私は相当頼りないと思われていたと思うが、メンバーに支えられて成長できたと思う。また、ezorock の活動内容を知ることや自らの活動経験を通して、環境保護に関する知識が深まったことも良かった。

私の場合、ごみの分別ナビゲートの活動時間がとても長く、来場者が手に持っているごみを瞬時に判断し、そのごみは 13 分別のなかのどれなのか考え、立ち並ぶごみ箱の中の適したゴミ箱へと誘導したのは頭と体の両方をよく使うため、大変だった。夜間は音楽が鳴り響いているため、十分な仮眠はとれなかった。長期活動における体力の無さなどを実感したので、日ごろから身体を強くすることを心掛けたいと思った。

ボランティアは、あらかじめ定められた、全員が初対面同士のグループで活動したが、その中で自分がどう行動するべきか考える必要があることを学んだ。様々な世代のメンバーと話すことで音楽バンドについても知ることができたし、それぞれの物事に関する考え方を知ることができて視野が広がったと思う。とても良い経験となった。

4. ボランティア活動での新しい発見や学びなど

ボランティアの授業内でボランティアとアルバイトの違いはなにかについて考える機会があったが、RSR のボランティアを通して、活動への報酬がお金であるか否かが違いであると私は考えるようになった。また、ボランティアの高齢化が問題となっているが、私が参加したのは若者が中心であった。今回は音楽の野外フェスタであったため若者が集まったことや、参加のための年齢制限があったことに起因すると思うが、若い世代がもっとボランティアに興味を持てる世の中になったら良いと思う。

渡日時留学生サポーター活動報告書

総合文系1年 K.M

1. 活動先、活動日時

活動先：国際連携機構国際交流課

活動日時：2016年9月21, 23, 26日, 8:00~16:00

2. 活動内容

10月から北海道大学に入学してくる留学生の手続きをサポートする。

<1日の流れ>

- ・朝、留学生が住んでいる寮で待ち合わせ
- ・最寄りの区役所で、転入届と国民健康保険の加入の手続きをする。
- ・郵便局で転居届を出し、学生教育研究災害傷害保険の保険料を支払う。
- ・郵便局、銀行、または大学で銀行口座を作成する。
- ・大学で入学手続きを行う。

<その他>

- ・恵迪寮に住む学生は教養棟で入寮手続きを行う。
- ・荷物が届いていない人のために空港に連絡する。

3. ボランティア活動を体験しての感想

夏休み中の3日間、ボランティアをさせていただいた。初日はとても不安で、手続きリストを英語で作って持って行ったが、サポートしたドイツ人の方は英語が話せなくて返されてしまった。その時は少し悲しかったが、後に英語が話せないと知って納得した。また、英語が話せても日本語の練習をしたい人は積極的に日本語を使っていて、その人とは日本語でコミュニケーションをしていた。留学生はいろいろな国からやってくるので、日本語がある程度話せる人、英語が話せない人など、言語のレベルは人によってさまざまである。そのため、英語がペラペラに話せないと留学生とはコミュニケーションが取れないというわけではないと思った。

転入届を出しに行った区役所に、英語で話せる職員がいなかった。札幌市は年々外国人の人口が増えているので、英語を話せる日本人が職員になったり、また地域によって違うようだが、札幌市は外国籍の人でも地方公務員になれるので、外国人を職員として雇うことなども考えるべきではないかと思った。

また、1日にすることが多くて留学生が疲れていたようであった。留学生は日本に来たばかりで心身ともに疲れているようだったので、手続きを何日かに分けられればよいなと思った。

東区役所では提出した転入届の、記入の仕方がわからなかった箇所を職員さんが書いてくれたり、中央区の区役所では国民健康保険の保険料を振り込みから口座振替に変えるための、英語で書かれたマニュアルをくれたりなど、外国人に配慮した対応をしてくれた区役所があって助かった。

留学生と同行したサポーターの人も含めて、一緒に行動した全員が日本人ではなかったので、逆に私が外国に留学した気分になった。

4. ボランティア体験を通しての新しい発見や学び、役立ったこと

英語が話せない留学生がいるなど、全く予想していないことが起こり、とりあえずやってみるまでは分からないのだと思った。私は英語が満足に話せないし、留学生サポーターは無理かなと思っていたが、思い切ってやってよかった。

今回のことをきっかけとして留学生の方と連絡先を交換したり、後日改めて会ったりして仲良くなることができた。留学生と交流したかったため、とても楽しかったし、嬉しかった。以前は“留学生”というだけで委縮してしまっていたが、サポーターを体験して留学生と少し話しやすくなった。中央区や東区にある学生寮まで迎えに行ったりしたので、このサポーターをしなければ行くことはなかっただろうと思う場所に行けて、自分の行動範囲が広がった。

留学生が日本語を母国で6年間勉強していたなど、一生懸命勉強していた話を聞くと、私も英語をもっと勉強しなければならないなと背中を押された気分になった。新しくはないのだが、留学生と話しているとアニメや漫画の話が多く出てきて、やっぱり日本のアニメが好きな人が多いのだと改めて感じた。

区役所で気づいたのだが、留学生は住所を漢字で書いても、フリガナをカタカナで書くのが苦手であった。外来語があるので、外国人はひらがなや漢字よりカタカナのほうが得意なのではないかという思い込みがあったので意外であった。後日、多文化交流科目の授業で別の留学生に聞いてみたところ、外来語はスペイン語やポルトガル語が多いので、英語を話す人からすれば逆にわかりづらいのだという話をしてくれた。

来年の春に入学してくる留学生のために、また留学生サポーターを募集するのであれば、ぜひその時はまたサポーターをしたいと思う。

RISING SUN ROCK FESTIVAL での環境対策ボランティア

総合理系 1年 A.O

1. 活動先と活動日時

- ・豊水会館（事前説明会）
8/7 18時～20時
- ・RISING SUN ROCK FESTIVAL（環境対策ボランティア）
8/12 7時～
8/13 一日中
8/14 ～18時

2. 事前説明会

① 活動内容

事前説明会では主にRSR（RISING SUN ROCK FESTIVAL）での活動についての説明を受けたほか、ボランティアコーディネーター（以下、VC）の方々の紹介、ボランティアとVCでのアイスブレイクが行われた。また、ここでezo rockという団体がどのような目的でどのような活動をしているのかについての説明を受けた。

② RISING SUN ROCK FESTIVAL（RSR）

RSRというのは北海道石狩市で開催される野外音楽フェスティバルである。1999年に第1回が開催され、今年2016年には第18回目の開催となった。

③ NPO法人ezo rock

ezo rockという団体は第1回のRSRで生じたゴミ問題を受けて2000年のRSRで行われた環境対策ボランティアに参加したメンバーにより、「50年後も野外で気持ちよく音楽を聞いていたい」という思いから2001年4月に設立した。

「対等な目線で」という考え方で活動しており、代表とVC、ボランティアは年齢に関わらず敬語は使っていない。また、来場者のこともお客様としてみるのではなく、一緒に音楽を楽しむ仲間として対等に接しようという姿勢で活動している。

3. RISING SUN ROCK FESTIVAL

① 活動概要

- 1日目：薪割りブースの運営、ゴミの分別ナビゲート
- 2日目：ゴミの分別内ゲート、エコアクションキャンペーンブース
- 3日目：一斉清掃（ゴミの分別ナビゲート）

② 活動内容

2泊3日のボランティア活動で私が行ったのは、ゴミの分別ナビゲート、エコアクションキャンペーンブースの運営、薪割りブースの運営の3つである。活動はグループ単位で行い、それぞれのブースでVCがサポートしてくれた。

ゴミの分別ナビゲートではゴミ箱までゴミを持ってきてくれた来場者に向けてゴミの分別のガイドを行った。ezo rockでは13分別を行っており、私たちはゴミ箱の後ろに立ってガイドを行った。また、生ごみのコーナーでは不純物が混ざっていないかチェックを行い、不純物が見つかった場合は来場者に分別をお願いした。生ごみ中に混ざっていたゴミとして多かったのは、たばこの吸い殻やティッシュが多かった。ezo rockはこの生ごみを肥料としてRSRで配布しているジャガイモを育てている。

エコアクションキャンペーンブースでは割りばしの分別を来場者にも体験してもらおうという活動を行った。13分別では、割りばしはリサイクルできるため燃えるゴミとは分けて回収している。しかし、割りばしには木製のものや竹製のものがあり、このうちリサイクルに回せるのは木製のものだけである。そこで、来場者に割りばしの分別を手伝ってもらおうことで、リサイクルについても知ってもらおうという企画であった。参加者にはノベルティのタオルのプレゼントも行っていた。

薪割りブースでは来場者に薪割り体験をしてもらった。森の木を使うことによって、森を育てることを目的としている。私たちの活動としては、まず、飲酒をしていないかの確認、活動の目的の説明、薪割りのやり方の説明、道具の貸し出しがあった。できた薪は1年間かけて乾燥させ、来年のR S Rでキャンプファイヤーを行う際に使用される。今年のR S R では昨年作られた薪によるキャンプファイヤーが行われていた。

4. 感想

一緒に活動したグループのメンバー、V Cの方々、来場者の皆さん、3日間で出会った人たちはみな優しく、私もとても楽しく活動に参加でき、音楽が好きになった。また、こんなにもたくさんのごみを人が出すのかということを実感し、自分の分別への意識も変わった。活動に参加できて本当によかったと思う。

東札幌病院ボランティア

獣医学部1年 H.S

1. 活動先、活動日時

東札幌病院において、2016年9月12日、16日、18日、21日の計4回、合計17時間活動した。

2. 活動内容

初日はボランティアコーディネーターからまずボランティアを行う上で注意すべきことなどの指導を受け、その後、病院内に置く季節の飾りなどを製作するちぎり絵づくりに参加した。16日は緩和ケア病棟で行うティータイムのために食器の準備や患者さんへの宣伝を行った。18日はボランティアルームで行うサンデーカフェの会場設営、注文取り、片付けをした。21日はボランティアルームで行う「笑いヨガ」と呼ばれるイベントの会場設営と宣伝、フリーマーケットの会場設営と商品の販売に参加した。

3. ボランティア活動を体験しての感想

東札幌病院は病気の治癒ではなく、身体的・精神的苦痛を和らげ生活の質を向上させることに重きを置く、緩和医療の先駆的存在である。これは主に末期がん患者を対象としている。またこの病院ではボランティアの活動も、地域住民との交流が患者さんの生活の質の向上につながるという考えから治療の一環として取り入れられている。今回私は夏休み中の体験ボランティアとして活動に参加した。ほかのボランティアは50代から70代くらいの主婦の方が多く、若い人はあまりいなかった。みなさん私のことを歓迎してくれて優しく活動内容を教えてくれたが、その一方でともとも友人同士、和気あいあいと活動していた中に、新入りの私が入ることで全体の一体感に乱れが生じてしまうのではないかと時々不安に思うこともあった。

患者さんとの接し方はこのボランティアの活動期間中ずっと考えさせられたことである。患者さんはやはり年配の方が多く、耳の遠い人もいるから声の大きさや話すスピードはその人に合わせて変えなければいけない。逆に相手が何を言おうとしているのか理解することができず、うまくコミュニケーションをとることができなくて戸惑うこともあった。また活動の宣伝の前には必ず看護師に声掛けをしてもいい患者さんとうではない人を聞きに行くのだが、声掛けしてもいいと言われた人でも具合が悪そうだったり、「私はまだ飲食ができないから」と断る人もいたりした。このような場合に遭遇するたびに「今は声をかけるべきではなかったのではないか」など、どのように接することが患者さんにとって一番良いのか考えさせられた。

悩んだり、壁にぶつかったりすることの多かった活動だったが、実際に活動してみるとやはり、病院内で生活し、外に出る機会のない患者さんたちにとって、このボランティアを通して得る、お茶を飲みながら家族と歓談するひと時や、買い物など、健康な私たちが普段当たり前のように行っている行為がとても貴重な体験になっているということを感じた。病気で体調は決して良くないはずなのに笑顔で活動に参加している患者さんが多くて、このボランティアをする意義を感じられた。

4. 新たな発見・学び

はじめ私は大学のボランティア相談室でこの活動について知り、病院ボランティアについてはよく知らないままに活動を開始したが、活動に参加する中でほかの病院でも同様にボランテ

ィアを募集しているということを知った。しかし、多くの病院では外来患者さんの受付補助など、患者さんがより良い環境で治療が受けられるようなサポートを活動としているのに対し、東札幌病院では治療の一環として活動が取り入れられていてこの病院の特色を感じた。また、4回の体験だけではまだわからないことも多いと思い、これからは毎週日曜日に定期的に通うことに決めた。車いすの扱い方など、体験ボランティア中には学べなかったことをぜひしてみたいと思う。将来私は人の病院にかかわる仕事に就くことはないと思うが、今回の活動を通して入院患者さんの生活や病院で必要としていることについて学べた。

YOSAKOI ソーラン祭り・渡日時留学生サポーター活動報告書

工学部1年 S.T

1. 活動先、活動日時

私は、2016/6/11, 12に大通り公園で行われたYOSAKOI ソーラン祭りの市民ボランティアと、2016/9/21, 23, 28に北海道大学国際連携機構が運営する渡日時留学生サポーターに参加しました。

2. 活動内容

まず、YOSAKOI ソーラン祭りの市民ボランティアの活動内容は、棧敷席の入場のためのチケットもぎりや、観客誘導、輪踊り会場での来場者の呼び込みなどでした。次に、渡日時留学生サポーターのボランティアの活動内容は、区役所での手続き、郵便局・銀行での手続き、生活情報提供、大学での手続きおよび学内案内、ゆうちょ銀行の口座開設などでした。

3. ボランティア活動を体験しての感想

まず、YOSAKOI ソーラン祭りのボランティア活動を体験して、YOSAKOI ソーラン祭りのボランティアには、参加団体から呼びかけられて集まったボランティアや、学生ボランティア、自ら参加申し込みをして参加した市民ボランティアなどの数種類のボランティアの方がいました。市民ボランティアの方の中には、何度もボランティアに参加している方もいてYOSAKOI ソーラン祭りが市民の方に愛されていると感じました。また、ボランティアを運営する実行委員会の方がボランティアをする人のことをよく考えてくださっていて、きちんと休憩時間をとってくださったり、何か困ったことがあればすぐに相談したりできるような環境が整っていて、とてもボランティアをしやすい環境だと感じました。私がボランティアをする際に実際に時間の管理や、仕事の配分をしてくださったのはイベント運営会社の方でした。そういった普段の大学の生活の中では関わることができないような職業の方と関わったり、間近で仕事を見たりすることができたのもいい経験ができたと思いました。

次に、渡日時留学生サポーターのボランティアの活動をして、様々な国から日本へ来た留学生と関わることができました。中には、初めて日本に来てほとんど日本語が話せない人から、今までに何回も日本に来ていて日本語がとても上手な人まで様々な人がいました。寮で顔合わせをし、寮のロビーで区役所などへ提出する書類に必要な事項を書き込むときも、英語での説明が必要な人から、日本語での説明で大丈夫な人までいて、それぞれの人に合わせて説明を行うのは少し大変でした。1日目は北区役所まで徒歩で向かったのも、区役所まで移動する間、どの国から来たのか、どの学部なのか、どうして日本に来たのかなどを話したのはとても楽しかったです。また、地下鉄に乗るのが初めてという人も結構いて、興味津々で切符を買ったり、自動改札を通ったりする留学生を見て、私も楽しくなりました。区役所での手続きなどで多少難しい英語を使わなければいけない場面もありましたが、周りの頼りになるサポーターの方のおかげでなんとか乗り切ることができました。

4. ボランティアを通しての発見、学び

YOSAKOI ソーラン祭りのボランティアを通して、しっかりとボランティアをするための環境が整えられている活動先を選ぶことはとても重要だと思いました。自らボランティアに参加したいと集まった人たちとはいえ、しっかりと仕事配分がされていて休憩時間も取ってくれる環境がないとちゃんとした仕事もできないし、やりがいも感じられないと思いました。また、渡日時留学生サポーターのボランティアを通して、毎年たくさんの留学生が訪れる北海道大学の周りの区役

所や、郵便局の英語の対応のシステムがまだ整っていないということがわかりました。留学生たちを連れて、区役所へ転居届を提出しに行った際、国民保険の保険料の支払い方法について区役所の方は英語で説明ができる体制が整っておらず、サポーターが説明しなければいけませんでした。まだまだ英語が得意ではない私にとってはその説明は少し難しかったので、何か英語での説明の紙や、マニュアルなどがあつたらいいと思いました。また、留学生のほとんどが早く携帯が使えるようになることを望んでいたのも、留学生サポーターを行う前に、どうやったら携帯が使えるようになるかについての知識を身につけておいた方が良かったと思いました。

私は、二つのボランティアでの経験を通して、ボランティアをするときはその活動先の環境や、事前の打ち合わせがとても重要であるということ学びました。

一日体験実習のふりかえり

一日体験実習週間について

スケジュール

月日	参加先	活動内容（体験報告票に基づいてまとめたもの）
7月9日(土) 午前	北大キャンパスウォークツアー	北海道大学のキャンパスツアーに参加し、ボランティアの方々のガイドの様子を観察した。また、「総合博物館」「クラーク会館」「ポプラ並木」についてホームページなどで調べ、日本語版と英語版のガイド文を考えた。
	札幌時計台ガイドボランティア	観光客に頼まれて写真を撮る。観光客に時計台の説明をする。時計台内でのガイドボランティアの方々による時計台の歴史、構造のガイド。具体的には、時計台の建築時期、時計動力に関する説明を観察した上で、実際に30分ほどのガイドボランティアを体験させていただいた。
7月9日(土) 午後	留学生とアフタヌーントーク 使用言語:日本語	札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク SKY 主催の「留学生とアフタヌーントーク」に参加した。留学生を囲んで日本語で質問をした。 目的: まずは日本語で、留学生と交流することに慣れること。
7月10日(日)	札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティア	芸術の森野外美術館でブロンズ像を磨いた。途中から、荒天のため、ポートランド市から贈られた女神像を磨くに留まった。
7月12日(火)	「七夕まつり」における留学生支援ボランティア（自主企画ボランティア） 使用言語:英語	国際連携機構において、留学生向け七夕まつりをロビーで開催した。 目的: 七夕まつりで留学生に七夕について英語で説明する。留学生に、日本の伝統的行事「七夕」について知ってもらう。直接的または間接的に留学生を支援する。 内容: 七夕の歴史・地域による違い、そして折り紙を用いた装飾品を作るコーナーを通して、七夕について留学生に知ってもらうよう努めた。

一日体験実習週間の意見・感想

2016年7月9日（土）午前と午後 北大キャンパスツアーガイド、アフタヌーントーク

名前	感想・意見
M	<p>本当によく調べてあり、その情報があっても読み上げるのではなく自分のものにしていて感じた。もう北大に通って3年になるが、まだまだ知らないこと、知らない場所があるのだと思った。現在、これだけ多くの観光客が北大を訪れていることを考えると北大生もそれなりのことを知っていなければならないのではないだろうか。また、とても深いところまで知ることができたのは大変良かったが、観光客の中には、それほど時間がない人もいると思うので、短いガイドがあってもいいかもしれない。</p>
A	<p>私は、グループごとに分かれた時に、中国とマダガスカルからの留学生にあまり有意義な質問ができなかったように感じる。やはり、それぞれの国に関するある程度の予備知識が必要だと感じた。また、マダガスカルからも留学生が来ているということや、留学生の日本語のレベルの高さに驚いた。そして、北大キャンパスウォークツアーでは、博物館の前でガイドをさせていただいた。もともと人前で話すのが苦手な私はとても緊張したし、自分がどのようにガイドをしたのかももう記憶していない。練習の段階で、指摘されたことを踏まえて本番では、落ち着いて話そうと努力したが、1回で上手くいくものではないと実感した。</p>
O	<p>キャンパスガイドでは、マニュアル通りの説明ではなく、参加者の興味を引く話題をその場その場で考えて提供しなければならないことが一番大切であり、難しいポイントだと思いました。アフタヌーントークでは、海外からの留学生と日本語で会話することができて、貴重な体験になったと思います。多少文がおかしくても言葉は伝わるものだし、勇気をだして話すことが大切なのだと思います。</p>
K	<p>キャンパスウォークツアーでは、自分が知らなかった道を通ったが、そこには緑が多く非常に気持ちよかった。札幌国際プラザでは、外国人の日本語スピーキング力に感心すると同時に、自分も使えるような外国語を学ぼうと刺激になった。</p>
N	<p>作成したガイド文を、7月6日に実際に読み、講義にお越しくくださったボランティアの方に確認していただいたが、直すべきところばかりであった。私のガイド文は、ただの情報の羅列であり、聞いても興味をいだけないような内容であったと反省している。総合博物館には行ったことが無かったため、ガイド文の内容に深みを持たせることができなかった。ガイドをする場所は、まず、自分が実際に行って楽しむことが大切であると実感した。</p>

名前	感想・意見
M	キャンパスツアーのボランティアの方々が、北大の歴史について豊富な知識をもっていることに驚いた。ガイドツアーにはガイドをする場所や詳細な知識が必要とされるのだと改めて思った。留学生から、海外の事情や日本で思ったことなどを聞くのが面白かった。
Y	一般の参加者が一人しかいなくて寂しかったが、その参加者に楽しんでいただけてよかった。ボランティアをしていただいた方もまだこのボランティアは3回目だと話していてとても緊張していたようだ。それでも、私たちの知らない知識をたくさん教えてくれてすごいなと思いました。

2016年7月9日（土）午前 札幌市時計台ガイドボランティア

名前	感想・意見
O	時計台は札幌だけではなく、日本を代表する一大観光スポットであるのに関わらず、そのガイドが自主的に始めた活動により支えられているという点には驚いた。また、ガイドした内容、対応した方がどういう人だったかを詳細に記録し、フィードバックしていること、そしてこうした活動がほぼ一日も欠けることなく続けられていることにしっかりとしたマネジメント能力を感じた。
F	時計台の中には、今までは入ったことがなかったので、興味深かったです。時計台が元北海道大学であることは知っていましたが、実際に写真や現物をみることで、より時計台を身近に感じることができました。

2016年7月10日（日） 札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティア

名前	意見・感想
M	触れることができるという特徴をもった野外美術館を維持するために欠かせない作業であると感じた。継続して行うことが必須であるが、ボランティアで継続することは大変難しいと思う。その中で会則等がきちんと定められており、また、多くの人が無理なく活動することが継続につながっているのではないだろうか。
O	屋外に芸術品を展示することは屋外の場合と比べ、生物、天候、湿気などによる損傷が激しく、それだけ保全に労力があることを実感した。しかし、屋外芸術品は、屋内のものとはまた違った価値観をもつことをボランティアの皆さんから教えてもらい、保全作業の大切さを理解することができたように思えた。

名前	意見・感想
A	雨が降ってきたせいで、ブロンズ磨きがほとんどできなかったことが残念だった。芸術の森に行くのは初めてだったので、多くの芸術作品をボランティアの方々のガイドとともに見ることでよかった。
O	野外展示のある美術館にはいったことがなかったので、とても楽しかったです。ブロンズ磨きをする中でも、作品の解説などを交えてくださって、とても楽しく、また普段見ることできない角度から作品を見ることができたのは、貴重な体験になりました。
K	山の中に芸術作品があるため、移動するだけでも運動になった。野外に芸術作品があると作品の保存や保護が大変だが、自然とともに芸術を楽しむことに価値があるため、この活動は必要なのだと思った。
N	ブロンズ像を一体磨くだけで相当な労力と時間を要することが身にしみてわかった。集中力が求められる肉体的にも大変な仕事であると思った。雨の中でも必死に対応して下さったボランティアの方々をみて、憧れを抱いた。
M	途中で雨がふってきてブロンズ像磨きは中止になってしまったが、少しだけでも体験してみて、とても疲れた。少し歩いただけでも疲労がたまるのに、美術館全部の像を磨くのを考えると、とても体力のいる作業で大変だ。外での作業は天候に左右されやすいため、ボランティアをする予定の期間が短いと結局は作業ができずに終わってしまう。よって、野外ボランティアの場合は、期間に余裕をもちたい。
Y	雨が降って少ししかできなかったが、貴重な体験だった。ブロンズ像は大きいものが多くて、高いところを拭くのが一苦労でした。でも、終わった時、きれいになった像をみるとやってよかったと思いました。ボランティアにはこの気持ちも大切なのかなと思いました。

2016年7月12日(水) 午前と午後 新渡戸カレッジ生企画「七夕まつり」ボランティア

名前	意見・感想
M	時間もなく、学部もばらばらな中で、準備して間に合わせるのはとても大変だった。いかに密に連絡をとれるかが重要だということを感じた。しかし、こうしたら留学生が楽しんでくれるのではないかとアイデアを出すのはとても楽しかった。ただコーナーを増やしすぎたかもしれないと当日思った。紙テープやわっかづくりコーナーが小さかったので、あまり人を呼び込めこめなかったのではないかと。また、七夕の歴史や地域差は、折り紙やハガキほどにはインパクトがないので、近くに来た人だけでなく多くの人に「渡す」ことができればよかった。時間的な意味で厳しかったとは思いますが、ただ印刷するだけでなく本のようにしたり、簡単な折り紙のようにするだけでも変わったかもしれない。また留学生の呼び込みは、ボランティアの方はとても上手だったが、私たちはどのように留学生に声をかければいいのか分からずに戸惑っていたので、そこも準備でケアできればよかった。

名前	意見・感想
H	<p>・小グループのリーダーとして事前準備に携わり、七夕まつりで活動した時間よりもはるかに多くの時間を準備に費やし、少ない日数の中で出来る限りのことはやりきったつもりでしたが、当日の活動では、何一つ自分の役割を果たすことができませんでした。そもそも七夕の由来や地方ごとに風習に興味を持ってくれる人が少なく、加えて私自身の力不足（解説は模造紙、プリント以上の知識がほとんどなかったの）や自信のなさから、足を留めてくれた留学生に対してどのように声をかけていいのかわからず、声を積極的にかけれなかったことが一番の原因だと思います。7月6日の事前学習で長岡フェローが「自分がキャンパスツアーガイドに参加する場合であったら、どんなことを知りたいか、相手をひきつけるにはどうしたら良いのかを常に考えて」とキャンパスツアーガイド参加時に心構えをお話しされていましたが、今回の活動を終えて、初めてそのアドバイスの真の意味が分かったと思います。私は人と対等な目線で接することがもともと苦手なので今回の活動では、相手の意向、ニーズをくみ取る努力をしたいと思います。</p> <p>・活動中に驚いたことは留学生がNo, thank you の意でやんわり断る際に「大丈夫です。」という言葉を多用していたことです。若者言葉なのか。</p>
O	<p>自主企画ということで運営に関して不安な面もあったが、リーダーのSさんを始め、各々が積極的に動いてくれていて、スムーズな進行ができたと思う。もっともよかったのは、早いうちに打ち合わせを行い、顔を向き合わせて役割を適切に分担させることができた点である。一方、参加する留学生が案外少ないような印象を受けた。積極的な呼びかけだけでなく、事前の情報発信も充実させていく必要性を感じた。</p>
T	<p>今回の企画は他の団体と共に開催するものであったが、お互いに何をやるのかをよくわかっておらず、連携を取れていない部分が多々あった。それでも、模造紙を見たり、折り紙の体験をしたり、留学生が興味をもってくれたのでよかった。時間割の都合上、お昼休み中しか行けず、その場の雰囲気把握してから実際に活動する時間がとても少なく、自分としては不完全燃焼だった部分もあるが、企画や準備段階は良かったと思った。もし来年も同じような行事を開催するなら、目前に共同開催する団体のことをもって調べたりできたら良いのかなと思いました。少し失礼だったかな、と今では感じています。</p>
A	<p>私は午前の部に参加したため、最初は留学生があまり来ず、ほぼ仕事はなかった。留学生を誘導しようと数人に声をかけたが、時間がないからと言って断られる時もあった。そんな時は少しショックを受けた。ただ、私自身、南京玉すだれをはじめたので、まだまだ知らない日本文化は多いと実感した。</p>

O	<p>グループ内での連絡を取り合うことの大切さを感じました。また、当日は呼び込みを主に行ったのですが、留学生のみなさんの日本語がうまくて驚きました。積極的に声をかけることが大切なのはわかっている、緊張してしまい、もうすこし勇気をだして自分から行動できるようになりたいと思いました。</p>
K	<p>はじめは知らない留学生に話しかけることに抵抗があったが、知っている留学生の友達には話しかけるうちにだんだんと知らない留学生でも話しかけられるようになっていった。折り紙が思っていたよりも人気だった。</p>
D	<p>ボランティアらしい活動はできなかったが、私自身が七夕祭りを楽しんだ。南京玉すだれを見たり、そうめんを食べたりした。そのときのコミュニケーションは英語で行い、とても楽しかった。しかし、自分の積極性やコミュニケーション力のなさに失望した。国際連携機構に初めて行ったこともいい経験となった。日本の文化の楽しさを改めて実感し、外国人に英語で日本語の文化を紹介できるようになりたい。</p>
M	<p>2・3限目に授業が入っていたので、昼休みの短い間しか参加できなかった。加えて、国際連携機構に着いたばかりの時は、何をしたらいいのかわからなくて、最初は何も手伝いができなかった。また、現場の担当者に言われて動くことが多かったので、自分で今は何の手伝いが必要とされているのかを自主的に探さなくてはいけないと思った。折り紙のブースにいったのだが、そこにいた留学生はもうすでにいろんな種類の折り紙を折っていて、自分でやれることがなかった。なので、プリントに書いてあった折り紙の折り方に加えて、自分でもいくつか調べて、折り紙のバリエーションを増やしておけばよかったと思う。</p>
F	<p>ボランティアの観察で一番印象に残ったことは、ボランティアの方々の積極性でした。頼まれれば写真のシャッターを押したり、説明をするそうですが、頼まれなくても、積極的に声掛けをしているそうです。それを見て、9日の午後や12日のボランティアで思ったことですが、ボランティア活動でもっとも大切なのは自発性であると感じました。勿論、ボランティアに参加している人のほとんどは、自分自身の意思で行っていると思います。私も漠然と「ボランティアがしたい」とは考えていました。しかし、ボランティアそのものに対する意思とはまた別の、ボランティアで何かしようとする意思も活動する上で非常に重要だと思いました。活動内容にもよりますが、少なくとも他者とのコミュニケーションを取る場合、自分から何かしようという気持ちで取り組まなければ何もできません。ここがアルバイトとボランティアの差なのだと思います。無報酬である為に、周りからあまり仕事を強制されません。よって自分でそれを見つけることの重要性を実感しました。どのボランティアも自分から積極的に動いていました。今後私もそのような姿勢を見習いたいです。</p>

一日体験実習週間 ボランティアのみなさんへ

名前	札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワーク（北大キャンパスウォークツアー、留学生とアフタヌーントーク）のボランティアのみなさんへ
S	<p>9日の午前中は北大ツアー、午後は留学生とトークイベントのボランティアを観察しました。私は北大ツアー中、実際にガイドをする機会をいただきました。しかし、いざ自分でしてみると、言おうと思っていたことのほんの一部しか言葉にできませんでした。また、様々な問題に対して即座に応えられる姿を見て、ガイドボランティアの方が普段いかに北大について学んでいるのかがよくわかりました。</p> <p>午後の留学生のトークイベントについてはその後の振り返りディスカッションでボランティアの方とお話し、市民への広報や参加留学生の応募など、様々な面に気を配ってイベントを運営されていることを知り、ボランティアでされているとしても主軸となる方の責任は重いと感じました。今回観察させていただいた二つのイベントのボランティアの方には大変お世話になりました。自分がボランティアに参加するときの手本として参考にさせていただきたいです。</p>
Y	暑い中、一緒にまわってくれてありがとうございました。ガイドに参加しなければ絶対知らなかったような知識まで教えていただき、ありがとうございました。
K	ボランティアの皆さんが楽しそうに活動されているところを見て、ボランティアはボランティアする側も受ける側も幸せになる活動だと思いました。私もこのことを大切にしたいと思っています。ありがとうございました。
A	キャンパスウォークツアーでガイドのお手伝いをさせていただきありがとうございました。ガイドボランティアの体験は私にとって初めてのことでしたが、ガイドをやった後には、やってよかったと思えました。また、ガイドの方々のただ情報を伝えるだけではなく、ガイドを聞きに来た方々に楽しい時間を過ごしてもらおうという姿勢が勉強になりました。
O	解説を聞きながら学内を歩くのはとても楽しかったし、歩きながらガイドをする上でのポイントなども話していただけて、とても良い経験になりました。アフタヌーントークでは、色々な国から来た人の発表を聞いたり、話してみたりできて良かったです。ありがとうございました。
N	ボランティアの方々のガイドはとても内容が深く、聞いているととても面白かったです。私は人前で話すことがとても苦手であるため、ガイドのみなさんのように笑顔で堂々とガイドができるようになりたいと考えようになりました。ガイドのみなさんのように様々な物事に興味を持ち、知識を蓄積していきたいです。

M	国際プラザのみなさん、この度はボランティア活動の見学をさせていただき、ありがとうございました。今まで知らなかった北海道の歴史を知ることができ、とても勉強になりました。
Y	楽しい機会に参加させていただき、ありがとうございました。お菓子もありがとうございました。留学生と話す機会自体が楽しかった。地元のことを聞けるためになったし、その土地に行ってみたいと思うようになった。話がうまかった。話がとぎれることはなかったし、みんなに話を振っていてすごいなと思った。

名前	札幌時計台ガイドボランティアのみなさんへ
O	今回はお忙しい中、お会いしてくださってありがとうございました。時計台を始め、自分が通っている大学について予想外の発見がありました。観察する時は、一見簡単そうに見えたのですが、どうやって声をかけるのか、何を話せばよいのか、と考えるところが少なくなく、結構苦労したのが正直なところでした。また、お世話になることがありましたら、その時はよろしく願いいたします。
F	・先日は途中までしか参加できませんでしたが、ボランティア活動や時計台について詳しく教えていただきありがとうございました。今回初めて時計台の中に入りましたが、実際に重りを巻き上げる様子を見たり、時計台の歴史や当時の暮らしを知ることができて非常に興味深かったです。またボランティア活動はシフトや短冊作り等も目的や計画をもって行われており、単に自発的に集まっているわけではないと再認識するとともに、運営に関してもアルバイトや仕事との共通点、相違点を実感することができました。 札幌に来る以前では、時計台とは「町中にある時計塔」くらいの認識しかありませんでしたが、今回様々な魅力や活動を知り、この認識が大きく変わりました。道外に住んでいる友人にも是非紹介したいです。本当にありがとうございました。

名前	札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティアのみなさんへ
S	10日は芸術の森に配置されているブロンズ像磨きに参加させていただきました。雨だったこともあり清掃できたのは1作品でそれを参加者全員で磨いたのですぐ終わりましたが、すべての作品で作業するとしたらかなりの労力を必要とするのではないかと思います。また、雨天のため、急きょ予定を変更して作品解説をボランティアの方々にしていただき、普段あまり接することのない芸術を身近に感じることができました。ありがとうございました。

K	雨の中、ブロンズ像磨きの方法や芸術作品の解説をしてくださりありがとうございました。自然や芸術を楽しむことができ、非常に充実した時間でした。また、晴れている日に遊びに行きたいです。当日はお世話になりました。ありがとうございました。
D	ボランティアの皆さんのブロンズ像に対する熱心なガイドを聞き、私も自分が熱中できるボランティア活動を見つけないかと思うようになりました。ぜひ、今度は晴れの日芸術の森に行き、さらにもっとみなさんのガイドを聞きたいです。
O	芸術の森には楽器の練習で何度か行ったことがあります。美術館に行ったのは今回が初めてでした。作業を通じて、美術品に対するみなさんの熱い気持ちが伝わってきて、お話しに引き込まれてしまいました。これをきっかけに、今まで行く機会が少なかった美術の展示会等に積極的に足を運んでみようかなと思いました。ありがとうございました。
M	以前、野外美術館を訪れたときにはガイドがなかったので、作品の背景など全く知らず面白い形だぐらいの感想しかもっていませんでしたが、今回、ガイドを聞いて作品を見ると印象が大きく変わり、ガイドの必要性を切に感じました。改めて天気の良い日にまた行きたいと思います。そのときはガイドをぜひお願いします。
M	美術館のボランティアの皆さん、この度はブロンズ像磨きのボランティア体験をさせていただき、ありがとうございました。短い間しかお手伝いできませんでしたが、その後の作品解説など、驚く情報ばかりで楽しかったです。日ごろ、美術館には利用者としてしか来ないのですが、こうしてスタッフの立場を体験してから、スタッフの人が掃除を頑張っているからこそ、来館者はきれいな作品をみることができるのだと思いました。また、今度、芸術の森美術館に行ったらほかの作品も見てみたいと思います。
A	皆さまのガイドは大変わかりやすく、また、普段、芸術作品に触れない私のような人でも興味を持てるようなものでした。ガイドをされているときの笑顔も印象的でした。悪天候の中でも、この機会を設けてくださったことに感謝します。
O	体験に参加させていただく中で、皆さんが活動を楽しみながらやっていることが伝わってきて、自分も作品に愛着がわくような感じがしました。雨の中、ブロンズ磨きやガイドの体験をさせていただいて、ありがとうございました。
Y	雨の中、ガイドをしてくれてありがとうございました。ガイドは、すべて暗記でしかも常に笑顔での接客、また、質問にも答えてくれて、すごく練習されたんだと感じました。また、帰りに絵画展も見せていただきありがとうございました。

名前	国際連携機構主催「留学生のための日本紹介」担当者へのメッセージ
S	<p>この度はありがとうございました。私自身このような企画運営の立場ははじめてだったので不安でしたが、田村さん(担当者)のご助力のおかげでやり遂げることができました。イベントの準備については、概要について国際連携機構に伺った時、分かりやすく教えていただいたので、その後の運営委員会を円滑に進めることができました。イベント中も色々フォローいただき、田村さんがいてくださって本当に良かったと思っています。またイベントの後に報告書のサインを頂きにいった際も、労いの言葉をかけていただいたり、感想を頂いたりしたので、イベント後も気にかけてくださり嬉しく思いました。来年度もこのイベントを新渡戸カレッジボランティアの授業でやる際はぜひよろしく願いいたします。本当にお世話になりました。</p>
M	<p>準備をしたのに、当日あまり動けずにいたところを、背中を押していただきありがとうございました。今回は私たち日本人側が用意しましたが、留学生側からもこんなことをしたというのを聞いてみたいです。</p>
H	<p>体験報告票の記載内容や活動に対して良いと思うところを見つけほめてくださり、励まされました。あまり力になることができず申し訳なかったのですが、楽しませていただき感謝しています。</p>
T	<p>今回のような企画に携わっていただきありがとうございました！実は、以前弾ゼミでも田村さんにお世話になりました。その時も今回も、とても気さくに学生と接してくれているのでイベントに参加しやすくなるし、素敵なお方だと思っています。これからも何度か国際連携機構にお世話になることがあると思います。今後ともよろしく願いいたします。</p>
O	<p>この度は自主ボランティアという企画を与えてくださり、ありがとうございました。ポスターや配布プリントの作成等、クリエイティブな面が多く、余裕をもって楽しむことはできませんでした。留学生との交流はあまりしたことがなく、不安が多かったのですが、田村さんをはじめとする方々の支えで積極的になることができたかなと思います。</p>
A	<p>今回、私は、12時まで担当していたので、留学生と交流するよりは準備の手伝いという側面が多かったですが、また、参加してみたいと思えるようなボランティアでした。お世話になりました。</p>
K	<p>この活動を通して、いつも language corner に来る人以外とも交流ができて面白かった。</p>

S	<p>国際連携機構での七夕まつりは主に私の地元の七夕の風習について調べ、それについてのまとめを作成しました。夜遅くまでかかりましたが、それなりに完成度の高いものが作れたと思います。当日はボランティアが多く、なかなか自分が活動する機会はありませんでした。また国際連携機構でのボランティア活動が行われればその時はまた参加して今度こそ活躍したいです。田村さんにはこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。</p>
N	<p>想像していたよりも会場がにぎわっていて驚きました。次に参加する機会があれば、率先して行動できるように頑張ります。実践的に英語を使えるように日々学習をがんばりたいです。</p>
M	<p>この度は七夕まつりのお手伝いをさせていただき、ありがとうございました。留学生と一緒に折り紙を折ったり、南京玉すだれのパフォーマンスを見たりすることができて、楽しい時間を過ごすことができました。また、自分で七夕について調べたりして、新たに知ることも多く、勉強になりました。このような機会をくださったことに本当に感謝しています。</p>
O	<p>今回、七夕まつりに参加させていただいて、当日だけでなく準備の部分にも参加できたことがとても良い経験になったと思います。ありがとうございました。</p>

新渡戸カレッジ生自主企画「七夕まつり」の主な活動内容

スケジュール

月日	主な作業内容
6月中旬～	一日体験実習週間の参加先と日程がほぼ決まる。学生自主企画ボランティア実行委員会の発足。委員長と科目担当者の打合せ。委員会メンバーの決定。
6月28日～	国際連携機構「七夕」担当者と委員会の連絡調整、委員会による打合せ、グループの決定。
7月6日(水) ～12日(火)	事前研修、事前準備(企画運営委員会による企画プレゼンテーション、役割分担、グループごとの打合せ、模造紙作成)、実習計画書の提出。
7月12日(火)	国際連携機構1階にてブースを設置し、新渡戸カレッジ生自主企画「七夕まつり」を実施。
7月13日(水)	ふりかえり会、体験報告票の提出
7月20日(水)	活動報告書の提出

月日	活動内容(「体験報告票」を参考にまとめたもの)
7月6日(水) 事前準備 授業終了後	上級生をリーダーとして3つのグループに分かれて活動を行った。七夕の由来や風習についての説明文(英語)の考案と、説明文を模造紙に書き写す作業をした。
7月12日(火) 午前の部 11:30～12:00	出身地の「七夕」の風習を模造紙で展示した。パンフレットの印刷、留学生の勧誘、折り紙の作り方の説明。
7月12日(火) 昼の部 12:15～12:45	浴衣や甚平を着てモデルになり、留学生と写真撮影する、紙テープの星・短冊作り、紙チェーンの作成、南京玉すだれ実演、模造紙を用いて「七夕」について説明、留学生の誘導、パンフレット(七夕の歴史、由来と地域差について紹介)の配付など。
7月12日(火) 午後の部 13:00～14:00	七夕飾りの作成(折り紙、紙テープの星、紙のチェーン)、浴衣や甚平を着て写真撮影、留学生の誘導、紙テープの星や折り紙、短冊、チェーンの作り方を留学生に説明した。留学生とともにけん玉で一緒に遊ぶ。

「七夕まつり」企画の動機と目標

七夕まつり運営	実習の動機	実習目標
午前の部	ボランティアの講義を履修しているのですが、そこの体験実習として参加させていただけるという理由。	今までボランティアには一度も参加したことがありませんが、まずは一歩踏み出したいと思います。今回の活動では七夕祭りの文化を改めて理解するとともに他国の人々と日本文化を通じて交流したいと思います。
昼の部	大学側から提案された一日体験実習の案ですが、新渡戸カレッジに所属していてもなかなか留学生と交流する機会がないので、今回の実習で多くの留学生と交流できたらと考えています。	他のメンバーと協力してボランティア活動を楽しみたいと思います。
午後の部	留学生に日本文化を紹介することで、日本により親しみをもってもらおうと考えたから。留学生に日本のことを学ぶのを手伝おうと考えたから。留学生がどのくらい日本に関心があるか知りたいから。外国人と交流する機会を得たかったから。ボランティアの授業の一環として。	留学生に日本文化を紹介することで、自分たちも自身の文化を改めて考える。英語を用いたコミュニケーションによって、少しでも英語の実践訓練の場とする。留学生の立場から見た日本の印象や見方などを知る。あわよくば外国に似たような文化があればそれも学ぶ。

「七夕まつり」企画から学んだこと、気がついたこと

七夕まつり	学んで気がついたこと（「体験報告票」より抜粋）
運営委員会	<p>予定を合わせることに、連絡を取り合うことが一番大変だったので、連絡を取り合う必要があった際は、直ぐに日程調整の連絡をしなければいけないと思った。また、その際にメールを常にチェックしておくよう伝えるのが大切だと思った。運営委員会で話し合う時にはうまくまとまったが、具体的なイメージが出来ていなかったと思う。もっとイメージを膨らませておけばよかったと思う。参加していた他のボランティアグループでは折り紙を用意していないと聞いていて勘違いしており、確認すべきだった。また折り紙について、そのグループと作るものがバラバラでうまく統制が取れていなかったもので、事前にもっと細かく他のボランティアグループと連絡をしておいてもよかったかもしれない。次回このような機会があれば、もっと連絡を取るよう呼びかけたり、イベントについての具体的なイメージをもっとしっかりもってからやりたいと思う。</p>
午前の部	<p>今回のボランティア活動に参加するにあたって、七夕の文化について調べたり、他の人と情報を交換する中で、自分も知らなかった日本文化を認識できた。活動自体は予定通りではなかったけれど、臨機応変に対応したり、積極的に動くことが大切なのだと思う。</p>
昼〈前半〉の部	<p>主体的に留学生に対し声をかけなければならないということがわかった。予想とは異なり、願い事がない外国人が多いことを知った。自分たちでボランティア活動内容を企画することは初めてだったので、その場にただ参加しに行くというよりも自分で考えなければいけないことが多いと知った。少し時間があったが、留学生に七夕の文化を伝えることができて良かった。私が誘導していた暑中見舞のブースでは留学生が一生懸命に日本語にチャレンジして楽しんでもらっている様子だったので、微力ながら少しは役に立てたかなと思う。</p>
昼〈後半〉の部	<p>今回、国際連携機構主催の七夕まつりにボランティアとして参加させていただいて気がついたことは、我々ボランティアよりも他のボランティアグループや国際連携機構の方々が率先して動いていらっしやったこと、その割に留学生が少なく、人手が余ってしまったということだ。担当する予定だった仕事はあまりできず、その場で言われることをやるという感じだったので、積極的かつ臨機応変に動くことの重要性を感じた。しかし、普段留学生と交流する機会がない分、我々自身も楽しむことができ、良い機会だった。</p>

<p>午後の部</p>	<p>近くにやってくる留学生などは割と何人もいたが、単に友人を待っているだけであったり、参加したいのかよくわからず、声がかげられないことがよくあった。割とボランティアの人が余っていて、仕事を見つけられずうろうろしてしまう場面が多かった。人数が必要なところは声をかけてもいいのかもしれないと思った。単に七夕について知るとか会話するというよりは手を動かして楽しむ方が人気だった。声のかけ方が予想外に分からなかった。何て言ったらいいのか分らず会話がうまくいかなかった。留学生に紹介する気持ちで七夕を調べたことで、自分も七夕の知識を深めることができた。共同作業の訓練になった。</p>
-------------	--

教員への要望

<p>大学や教員への要望</p>
<p>ボランティア活動の機会を作っていただいております。今回は平日の昼ということもあり、留学生があまり来ず、来ても一か所に集中してしまっていてボランティアの人が仕事を見つけられないことが多いように見受けられました。今回人気だった、手を動かすブースの要素を強めにして、そこに人員を割く形にしてもいいように感じました。</p>
<p>他のボランティアの方とも連絡を取っても良かったのではないかと思います。</p>

ボランティア活動を企画運営して

文学部4年 A.S

1. 企画運営内容

(1)運営委員会として

まず、国際連携機構の担当者に七夕祭りの概要について伺った。イベントが行われる場所、他のボランティア団体と共同で行われること、新渡戸カレッジのボランティアとしてはどのような催しを行うのがよいのかを教えていただいた。次に、各グループリーダーで集まって、話し合いを行い、具体的にどのような催しを企画するかということと、グループごとに何を準備するかを決定した。Hグループが七夕の地域差について、Mグループが七夕の概要について、Yグループが折り紙について、自分のグループが短冊・紙テープの星・チェーンについて取り組むこととなった。また、催し物の一部に七夕について模造紙を展示したいので、その作成を有志で7月6日に行うことも決定した。副委員長のMさんとは7月6日のプレゼンテーションについて話し合った。

(2)グループとして

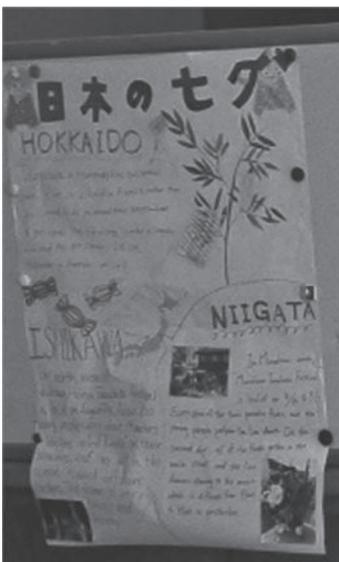
自分の午後のグループは一度集まって話し合い、運営委員会で割り振られた役割について、具体的に誰が何をするのかを割り振った。話し合いの際には、まずイベントの概要から説明し、イメージを持ってもらえうえで役割分担を行った。役割はそれぞれ私が紙テープ、Oがプリント作成、Fが短冊と紙テープのチェーン、Kが報告書と計画書の作成の担当となった。午後のグループについて、連絡したところ機能していなかったため、リーダーの代理として連絡をとり、OさんとTさんに計画書・報告書を依頼した。本来の仕事であった折り紙については、Yさんに依頼して作成してもらった。

2. 感想・意見

全体的にうまくいったかどうかは疑問です。自分の経験がないこと、時間がないことや、全員で集まる時間がなく連絡が遅れたということ抜きにしても、もっとこちらの方で具体的にイメージすればもっとよくなったのではないかと思います。ですが、自分自身、企画運営は初めてなので、いい経験になったと思いますし、リーダーシップについてもいい第一歩になりました。とにかく、イベント企画の際は時間を入念に取ったうえで、全員にイベントに参加しているという意識をもたせ、具体的な状況を共有してイメージするということが必要だと思いました。次回はもっと時間をとっていいと思います（初回にこういうことをやるから、と周知するくらいでもいいかもしれません）。報告票にも書きましたが、次回行う場合は、他のボランティアグループとも連絡を取った方が良くと思います。例えば、今回でしたら、そのグループとこちらで作成する折り紙の内容が全く違ったので、こちらも留学生にうまく教えられることがありません。他の受講者の皆さんにとってもこのイベントで何か得られるものがあったり、何かに向かって踏み出す第一歩になっていたら嬉しいです。



手作りの七夕飾りの前にて民族衣装で記念撮影(左) 留学生と一緒にピース(右)



北海道、新潟、石川県の七夕の風習について英語で説明した模造紙(左)、手作りの紙の雛(右)

資料

1. 体験報告会の模様

第1回体験報告会（臨時開催）

実施日：2016年8月3日（水）18：15～19：45 情報教育館4階共用多目的教室（1）

報告者	所属・学年	参加先	報告タイトル（エントリー順）
K. M	文学部3年生	社会福祉法人溪仁会 新琴似溪仁会デイサービス	ボランティアを通して学んだコミュニケーション
A. S	文学部4年生	札幌フラワーカーペット実行委員会、青春いきいきデイサービス他	ボランティア体験報告



第2回体験報告会

実施日：2016年10月5日（水）18：15～19：45 北図書館2階セミナールーム

報告者	所属・学年	参加先	報告タイトル（エントリー順）
M. Y	工学部2年生	北海道開拓の村ほか	ボランティアの意義
A. O N. N	総合理系1年生	RISING SUN ROCK FESTIVAL	RSRでのボランティア活動
K. M	文学部1年生	国際連携機構渡日時留学生サポーター	英語に自信がなくてもできる！留学生サポーター
H. S	獣医学部1年生	東札幌病院	病院ボランティア





第2回体験報告会

実施日：2016年11月9日（水）18：15～19：45 北図書館2階セミナールーム

報告者	所属・学年	参加先	報告タイトル（エントリー順）
M. O	農学部2年生	Dong Thap university	国際ワークキャンプ@Sa Dec, Vietnam
S. T	工学部1年生	国際連携機構	渡日時留学生サポーターを通して



第3回体験報告会

実施日：2017年1月18日（水）18：15～19：45 北図書館2階セミナールーム

報告者	所属・学年	参加先	報告タイトル（エントリー順）
C. K	教育学部2年生	北海道教育委員会	大学生学習サポーター事業
Y. A	総合理系1年生	札幌円山動物園	円山動物園での活動を通して
K. K	農学部2年生	北大マルシェ/札幌円山動物園/ツキネ コカフェ	ボランティアの役割と責任 ー 円山動物園ボランティアに参加してー
M. H	歯学部4年生	さっぽろ・まなトピア	教えるつもりだったのに… 2
N. F	農学部2年生	ワイズカフェ	カフェボランティアで学んだこと



第4回体験報告会

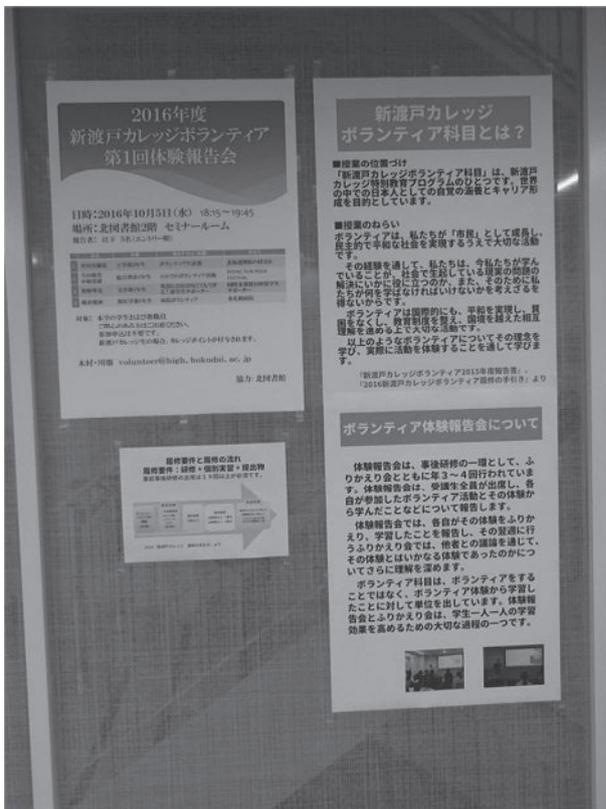
実施日：2017年2月1日（木）18：15～18：30 情報教育館4階共用多目的教室（1）

報告者	所属・学年	参加先	報告タイトル（エントリー順）
M. A	文学部1年生	NPO 法人ツキネコ北海道ツキネコ北海道	ボランティア体験報告～in ツキネコカフェ～



2. 新渡戸カレッジボランティア紹介の展示コーナー

北海道大学北図書館2階アクティブラーニングフロアにて展示が行われました。



3. オリエンテーションの様様

4月13日（水）オリエンテーション（1回目）

4月13日の1回目のオリエンテーションでは、昨年度（2015年度）のボランティア履修生2人、葛西仁太さん（理学部2年 写真右）、但申さん（農学部4年 写真左）が、今年度の受講生に向けて自身のボランティア体験談を語り、熱いエールを送りました。

その後、北海道大学学生ボランティア活動相談室スタッフの一人である杉浦昌治さん（法学部3年）に学生ボランティア活動相談室（通称「ボラ室」）の紹介をしていただきました。懇切丁寧にご紹介くださり誠にありがとうございました。ボラ室のみなさんには大変お世話になりました。自分でボランティア参加先を探したい受講生にとって強い味方となりました。ボランティアをしてみたいという方は、是非、一度、ボラ室にお立ち寄りください。開閉日時と時間帯、活動内容、紹介しているボランティア活動、問い合わせ先は、次頁の配付資料をご参照ください。

講演者	先輩からのメッセージ
葛西仁太さん（理学部2年生）	円山動物園ガイドボランティア活動紹介
但申さん（農学部4年生）	Volunteer as a F i r s t Step
杉浦昌治さん（法学部3年）	学生ボランティア活動相談室



葛西仁太さん（理学部2年）



但申さん（農学部4年）

学生ボランティア活動相談室



北海道大学法学部3年 杉浦昌治

学生ボランティア活動相談室(通称:ボラ室)とは？

- ボラ室に来室者の皆様が「ほっと一息つける」ような空間
- 相談員さんと学生補助員が、ボランティアに関する相談に応じております
- ボランティア以外のお話(部活・サークル・日常生活)でも歓迎です！
- お茶とお菓子を食べながら、和気あいあいと、お話しませんか？
- 開室時間 月曜・水曜・金曜(祝日・休日を除く) 15:30～18:30

ボランティア相談室での活動

- ボランティア活動先の紹介
- 活動先との連絡・調整
- 初めてボランティア活動をする方に基礎知識をレクチャー
- ボランティア活動をして生じた悩みの相談
- ボランティア情報の収集、対応
- 学生同士の情報交流の促進
- 福祉機器(車イスなど)の疑似体験など



紹介しているボランティア活動

- 福祉活動（話し相手、子供と一緒に遊ぶ、学習支援）
※活動先：福祉施設、個人のお宅、病院 など
- 国際協力活動海外協力（留学生との交流など）



お問い合わせ

学生ボランティア活動相談室(高等教育推進機構1階 N109)

電話:011-706-2119 / FAX:011-727-5146

メールアドレス:hokubora@jimu.hokudai.ac.jp

(開室時間以外の問合せ)

学生支援課学生支援企画担当(高等教育推進機構2番窓口)

電話:011-706-7453

4月20日（水）オリエンテーション

4月20日（水）の2回目のオリエンテーションでは、昨年度（2015年度）の受講生である、藤谷和廣さん（法学部3年 写真左）と早川美奈子さん（歯学部4年 写真左）が、今年度の受講生に向けて自身のボランティア体験談を語り、応援メッセージを送りました。その後、田村早紀さん（北海道大学国際連携機構学術専門職員）による国際連携機構におけるボランティア活動の紹介およびボランティアのニーズについてご講演いただきました。国際連携機構におけるボランティア企画にご関心のある方は、次頁の配付資料をご参照ください。

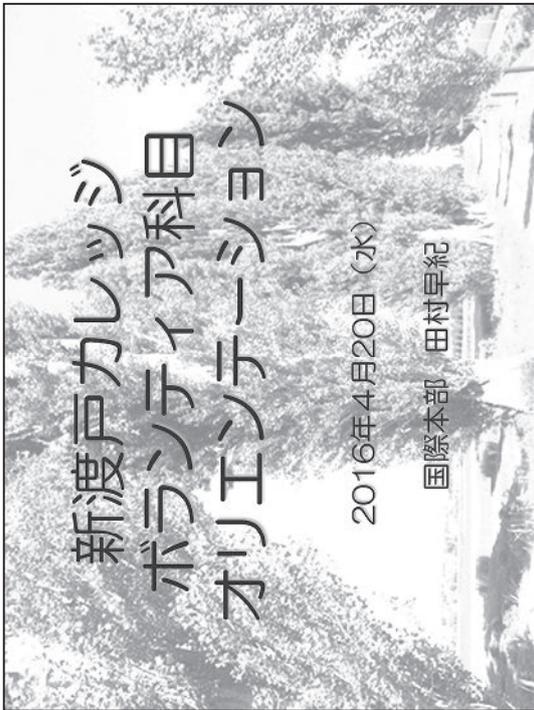


早川美奈子さん（歯学部4年 写真左）

藤谷和廣さん（法学部3年 写真左）



田村早紀さん（国際連携機構）（左から3番目）



茶話会

- ★留学生サポート・デスクのメンバーが、季節によるテーマや、留学生として興味のあるテーマなどを決めて、企画。月ごとのテーマの例：花見 サブカルチャー カキ氷 雪だるま など
- ★広報・準備・情報収集
- ★当日の運営

ボランティアとして？

- ・アイデアの提供
- ・準備の手伝い
- ・広報資料の日本語チェック
- ・当日の後方支援、通訳補助

1. 国際交流イベントの企画・運営

<p>茶話会</p> <p>各月に定例の茶話会を開催し、留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>Language Corner</p> <p>毎月1回、留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>ZEN ゼン</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>日本語イベント</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>
<p>外国人の文化と社会がわかるイベント</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>インターナショナル・トーク</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>日本文化の体験</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>	<p>ボランティアイベント</p> <p>留学生と日本人学生が交流する機会を設けています。また、留学生の生活や文化について話し合ったり、情報交換をしたりしています。</p> <p>CS 国際本部 国際交流課</p>

2

Language Corner

★毎週金曜日 14:00-15:30
国際本部1階の学生活動室でおこなうコミュニケーションイベント

★留学生サポート・デスクのスタッフが進行役

ボランティアとして？

- ・広報の手伝い
- ・当日の進行手伝い
- ・学生ならではの言葉遣いが相手に書かれる
- ・進行方法の相談にのる
- ・日本語の練習相手

4

ZENゼミ

★5月と11月、1泊2日の合宿形式で、グループワークや日本文化体験などの様々なプログラムを通して、文化の多様性や自分自身について学ぶイベント。

ボランティアとして？

- ・グループワークのアイデア提供 ・広報 ・しおり作り
- ・当日の運営補助 ・グループワークのファシリテイト
- ・グループワークについていけない参加者のフォロー

または？ 参加者の一人として参加（宿泊費2500円）

インターナショナル・トーク

★母国の文化や風習などについて、留学生が話し、他の留学生や日本人学生、教職員、一般市民の方達が国際理解を深めることのできる場を提供する。

- ★スピーカーを公募や推薦により集める
- ★会場設定や広報などの準備
- ★当日の司会進行

ボランティアとして？

- ・話す内容の整理や、文章作成の手伝い、日本語チェック
- ・練習への協力やアドバイス ・当日の進行補助

危機管理訓練

- ★避難訓練
- ★防災センターツアー
- ★救命講習会

新入生が10月に入学し、落ち着いた頃（11月頃）におこないます。

ボランティアとして？

- ・通訳の補助 ・引率の補助
- ・他の関係者と協働しての運営

2. 留学生のサポート

続き

留学生サポーター制度とは？

◎募集：9月に大規模な渡日があるため、8月頃に国際本部でサポーター募集をおこないます。
→留学生センターのHPなどで募集情報を公開
→締め切りまでに必要書類を揃えて応募
→サポーター説明会に参加
留学生の渡日スケジュールと、自分の都合をみて誰のサポートをおこなうかを決定

ボランティアとして？

- ・空港から留学生寮までの交通についてや、その他必要情報の情報収集
- ・サポーター説明会の手伝い
- ・他のサポーターのサポート

2. 渡日留学生オリエンテーションとは？

★10月2日に新規渡日した留学生を対象に、日本での生活方法や、学校の使い方、法律などのルール、関係機関の紹介などをおこない、日本で快適に生活できるように支援します。

ボランティアとして？

- ・準備の手伝い
- ・受付の補助
- ・情報提供
- ・進行補助
- ・キャンパスツアーの実施

3. 留学生サポート・デスクとは？

- ★国際本部1階で9時～18時までの開設
- ★留学生同士だからこそこそできる支援を提供
- ★通訳・翻訳、イベントの企画や運営、情報発信、生活相談への対応 等

ボランティアとして？

- ・日本人の常識提供
- ・日本語のアドバイス
- ・英語のアドバイス
- ・情報提供

日本文化紹介イベント
Japanese Cultural Event

TANABATA ★
七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。毎年7月7日と8月7日の七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。毎年7月7日と8月7日の七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。

七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。毎年7月7日と8月7日の七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。

七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。毎年7月7日と8月7日の七夕の夜、織姫と彦星の伝説が語り継がれる。

- ### ボランティアとして？
- ・七夕の伝説を説明
 - ・折り紙を教えるが手際！
- 例え話・・・
・自分の地域の七夕の紹介
・歌を教える
- 秋祭りの夜曜日（26日）に端午の節句を兼ねたイベントが盛りだくさんです。時間のある方は是非ご参加ください。

- ### ←昨年の振り返り
- 今年7月12日（水）
- 「私語講座」に出席しているボランティアの皆さんが中心に企画。
- 昨年、留学生に
- ・座席を記入してもらった
 - ・七夕にちなみ折り紙作りを教える
 - ・秋祭りの歌を教えた
 - ・秋祭りの衣装を着てもらった
 - ・秋祭りの衣装を着てもらった
 - ・秋祭りの衣装を着てもらった
- という取り組みを行いました。
- 今年も是非参加してください。

ご清聴ありがとうございました。

北海道大学

国際本部 2階 「国際交流課」内
田村 早紀 (011-706-8065)
event@oia.hokudai.ac.jp

2016年6月1日（水）ワークショップの様様

講義4では、「グローバル人材とボランティア」をテーマにワークショップを行い、ボランティア体験という視点からみた「グローバル人材」とは何かについてグループ討論を行いました。



4. 講義5 海外ボランティアと安全対策

本科目は講義が全6回あります。2016年7月20日（水）は、海外でボランティアを希望する学生のために、北海道大学国際連携課国際協力マネージャーの榎本宏さんをお招きし、海外の大学のボランティア事情や海外の大学生活の安全性などをテーマに、ご講演いただきました。詳しい講義の内容については、以下の配付資料をご参照ください。

海外ボランティアと安全対策

2016年7月20日

国際本部連携課
国際協力マネージャー
榎本 宏

enomoto@oia.hokudai.ac.jp

新渡戸カレッジボランティア科目

1

海外安全対策

- ・ 事故(自動車、飛行機、鉄道等)
- ・ 病気(特病、途上国の感染症(マラリア・デング熱、エボラ出血熱(カカ熱))
- ・ 犯罪被害、すり、強盗、車両盗難、誘拐等
- ・ 自然災害(台風、津波、地震)
- ・ テロ、クーデター、内戦
- ・ 加害者・犯罪者になる可能性
- ・ 海外安全の情報は、外務省海外安全ホームページ、各地の日本大使館のホームページを参照することが重要。
- ・ レベル2「不要不急の渡航中止」以上の危険度の国・地域は渡航不可。
- ・ 外務省のたびレジに登録する。<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>
- ・ 在外公館から緊急情報の提供が受けられる。
- ・ 海外では、日本にいる時と異なる緊張感が必要。
- ・ 国によっては、警察も危険。わいる等を要求する。偽の警察もいる。

新渡戸カレッジボランティア科目

3

北大の海外危機管理マニュアル

- ・ 北大国際本部は、3種の海外危機管理マニュアルを作成。
- ・ 海外危機管理マニュアル(教職員向け)
- ・ 引率教職員向け海外安全対策マニュアル
- ・ セーフティ・ガイド海外留学での安全(学生向け)

新渡戸カレッジボランティア科目

2

海外安全対策

- ・ 事故・災害・犯罪被害にあつたら関係者(現地のボランティア責任者、友人、現地の学校、北大関係者、日本大使館に連絡)。
- ・ ハングラデシユのような大規模なテロがあつた際は、被害がなくても無事である旨、関係者に連絡。
- ・ 日本の関係者(親兄弟、友人、北大等)に正確な滞在日程・連絡場所(ホテル)を事前に知らせる。定期的に報告。
- ・ 必ず海外旅行者保険に加入する。病気になる時、サポートが受けられる。(クレジットカードには保険付きもあるが、サービスは足りない。海外は治療費が高い、金がないと治療を受けられない場合がある。)

新渡戸カレッジボランティア科目

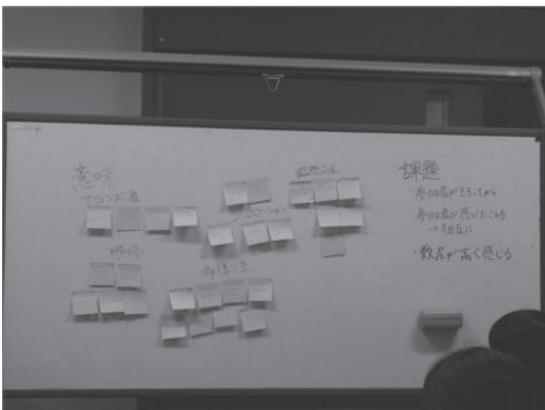
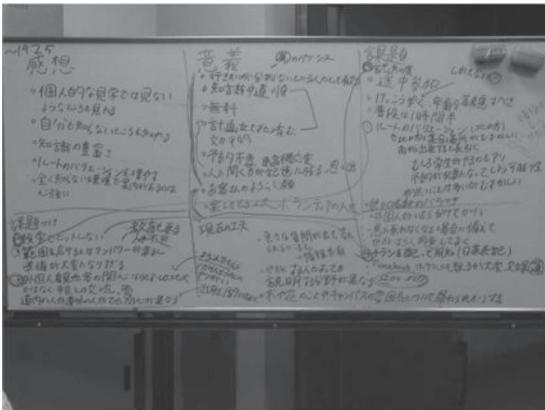
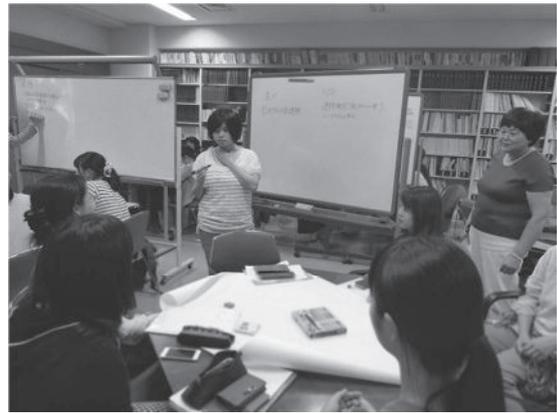
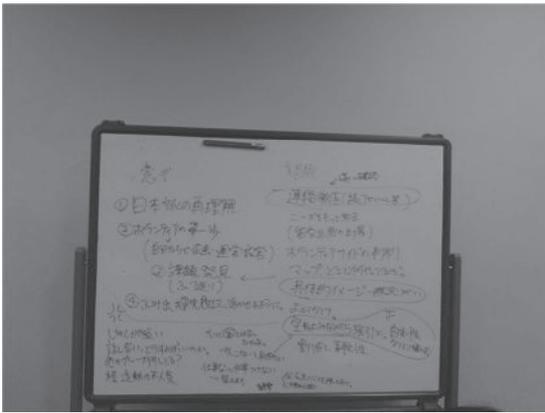
4

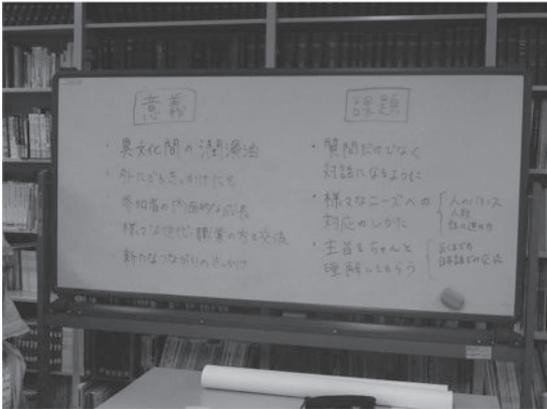
<p style="text-align: center;">海外安全対策（犯罪）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は、犯罪数が少ない。10万人当たりの発生率*では、(殺人、日本:0.8、フランス:3.1、米国:4.5) (窃盗犯罪、日本:771、フランス:2783、米国:2731) (主要な犯罪、日本:1033、フランス:5468、米国:3099) 日本は紛争・テロが少ない。平和指数(Global Peace Index)**も高い。1位 アイスランド、2位 デンマーク、8位 日本、161位 イラク、162位 シリア 国、地域、同じ国や同じ市内の中でも大きく事情は異なる。 日本で話を聞いても、わからない、イメージが湧かないことが多い。経験しないと分からない。現地の人間からの情報が大切。 野生のインタガン、感覚をときます。インターネット情報では分からないものがある。他方、一ネット情報を押さえるのも重要。 知らない内に加害者・犯罪者となる。(麻薬・密輸にかかわる。) <p style="text-align: right;">5</p> <p style="text-align: right;"><small>出典：平成27年版 犯罪白書 法務省 Institute for Economics and Peace, 2015, Global Peace Index, 2015 新渡戸カレッジポランティア科目</small></p>	<p style="text-align: center;">海外安全対策（盗難等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険な場所は、現地に住んでいいる人に確認する。 昼間、安全な場所でも、夜間は危険な場所がある。 夜間は、一人で出歩かない。公園、暗い通りは危険。例えば、夜間の北大構内のような場所を歩くのは自殺行為。 よたら話かけられる人は、要注意。危険人物が多い、無視が一番。 SNS等で受けを狙うために危険行為をしない。 詐欺のトリックは、日本大使館のホームページで確認。わざとぶつかり、スマホ、ワイン等を落とす、恐喝。服を汚し気をそらして盗む。 旅行中に、荷物を日本へ運んでと頼まれても拒否する。中に、麻薬、偽ブランド品等)がある可能性がある。 <p style="text-align: right;">7</p> <p style="text-align: right;"><small>新渡戸カレッジポランティア科目</small></p>
<p style="text-align: center;">海外安全対策（盗難等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ファーストフード店等で、座席確保のために荷物を置き注文するのは、大変危険。座席の回りに荷物を置くのも危険。 バス、列車内では、教人でブロックされ身動きができないようにして財布を取る。チームプレーで財布はパスされていく。飛行場から市内中心部のバス等で外国人がターゲットとなっている事が多く、混んでいる場合は、要注意 タクシーも慣れるまでは、ホテルから乗る等の注意が必要。途上国等では、タクシー運転手が強盗になったり法外な料金をふっかけられる。 クレジットカード、スマホを取られたら、ただちにカード会社、スマホ会社に連絡、キャンセル。連絡先はメモで持っている。 危険分散、お金は分散して保管、持つ。大事な連絡先はスマホ以外にもメモ等(個人的な連絡先)で持つ。大金は持ち歩かない。(現地の方は100ドル札、100ユーロ札をほとんど使わない。)強盗に差し出す少額の現金(20ドル、20ユーロ程度)を持つ。 <p style="text-align: right;">6</p> <p style="text-align: right;"><small>新渡戸カレッジポランティア科目</small></p>	<p style="text-align: center;">海外安全対策（テロ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中東等での速い国の話、他人事ではなくなった。テロのターゲット、対象国は拡大・拡散。警察・軍隊が対象ではなく、実行しやすく、効果(殺傷数)の高い一般人が対象となっている。発生場所(空港、地下鉄、ホテル*)、レストラン*、ショッピングモール*)。*途上国では外人が多い高級な場所。 近くでテロがあった場合から、すぐに逃げる。発生場所に近づかない。爆弾テロでは、救助に向かった人を対象とした2次攻撃がよくある。テロリストと治安部隊と銃撃戦となる可能性がある。自動小銃の弾は、最大1km-2kmは届く(クラーク会館から獣医学部を超えて24条位)。 滞在先の国、都市でテロがあった場合、無事な場合でも関係者(大学、近親者、友人)に無事を必ず連絡する。 テロ(イスラム国)の可能性は拡大している(イラク、クルド等の反撃により領土が減っているため対外テロに走っている、また、衝動的に賛同してテロに走る人物がいる)。イスラム国は、国による敵味方を判別しない。米国人でも支持者は味方、支持しないものは同胞(イスラム、イラク人等)でも敵となる。イスラム国に参加している日本人以外は、すべて敵(殺してもよい)となる。 <p style="text-align: right;">8</p> <p style="text-align: right;"><small>新渡戸カレッジポランティア科目</small></p>

5. ふりかえり会の模様

第1回 ふりかえり会

1回目(7/13)は、一日体験実習週間(7/6~7/12)のふりかえりを行いました。札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークの長岡宗男さん、近江谷和彦さん、宇佐美礼子さん、札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティアの川村廣子さん、大滝友子さんが出席し、一緒に議論に参加してくれました。最後まで参加していただきありがとうございました。





第2回 ふりかえり会

2回目のふりかえり会(10/12)では、グループになって、各々のボランティア体験について、進捗状況を報告した後、ボランティアに参加するようになった経緯とそのために準備したこと、学習目標と動機、困ったこと悩んだこと、気づいたことについて課題を共有し、その困難をどう克服したかについて意見交換をしました。その後、「ボランティアを始めるための心構え」をテーマにグループ討論を行い、発表を行いました。



第3回 ふりかえり会

3回目のふりかえり会(11/30)では、11/9の第2回体験報告会の報告者を囲んで、グループごとにふりかえりシートを用いて議論しました。ふりかえりシートでは、各自体験したボランティア活動について、以下の5つの項目について、それぞれ「その時、どのように対応したか、どのような協力を得たか」について質問しました。5つの質問項目の内容は、以下のとおり。

1.最も予想外だったこと、2.最も困ったこと（それをどのように解決したか）、3.この活動に取り組んで学ぶことができたこと、4.今後の自分の勉強についてどんな影響があったか（こんなことを勉強しておけばよかった。これからはこんなことを勉強したい等）、5.海外留学や国際的に活躍する上で役に立ったこと。回答は、「自分自身」、「受け入れ先」、「仲間のボランティア」という3つの水準で回答してもらいました。以下は、上記5の質問項目に対する「自分自身」の水準での回答です。

ふりかえりシート（「5.海外留学や国際的に活躍する上で役にたったこと」のみ抜粋）

あなたが体験したボランティア活動	その時、どのように対応したか、どのような協力を得たか （「自分自身」のみ抜粋）
ワークキャンプ（ベトナム）	・英語が通じない人とのコミュニケーション ・英語が正しくなくてもいいとわかった。
RSR	知らない人ばかりだったので、そのような環境が大切なことがわかった。
さっぽろまなトピア	全く考えが違うか、もしくは意見の合わない人に出会ったら一度呼吸をして話をとりあえず聞くという態度が各場面で役立っていると思う。
北大マルシェ	日本（特に北海道）の農業についてよく知るきっかけになるので、海外にも発信できるかもしれない。
北海道開拓の村	日本の歴史について学べたことが日本についての知識が増えることへとつながったので、役立つと思う。
RSR 環境対策ボランティア	人とのコミュニケーション力は上がったと思う。
Y's カフェ	実際の体験談を聞くことができた。
渡日時留学生サポーター	チャレンジ精神が大事。
渡日留学生サポーター	手続きにすごく時間がかかるし、疲れている中でしなければならぬことを覚悟しなければならぬと思った。
円山動物園ガイドボランティア	初対面の人と上手くコミュニケーションを図る。

2016年度は、履修完了者15人のうち、海外でボランティア活動に参加した学生は1人のみでした。国内でボランティアに参加した14人のうち上記10人の回答を見る限り、ボランティア活動をした場所が海外か国内かに関わらず、学生たちは、ボランティア体験を通じて、それぞれの視点から、国際社会で通用する力が何であるのかについてしっかりと見出していました。

第4回 ふりかえり会

4回目のふりかえり会(1/25)には、札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークの長岡宗男さん(北海道大学新渡戸カレッジフェロー)、札幌芸術の森野外美術館作品解説ボランティアの川村廣子さんと大滝友子さんが参加してくれました。1/18の第3回体験報告会で報告者を囲んで2つのグループに分かれ、「ボランティアとアルバイト—何が違うのか」「同じ目的をもつ人々間の価値観の違い—どうしたらいいのか」というテーマで討論を行いました。前者は、同じ作業内容でも、両者は異なる。単に有償か無償かの違いによるものではないのか。この違いはどこからくるのかという議論が展開されました。後者は、ボランティアは皆で一つの目的に向かって歩いているはずなのに、考え方や価値観が違う人と一緒に仕事をするとどうもうまく行かない。こんなときどうしたらいいのか、どうすべきだったのかについて議論が展開されました。



6. まとめの講義

2017年2月1日（水）、今年度の学期最終日に、木村純先生がまとめの講義をしました。



2016年度「ボランティア」授業最終回について（2017年2月1日）

木村 純

ボランティア授業のまとめと学生による話し合いを2月1日に行った。本報告書の「はじめに」で述べたように、この授業では、ボランティア活動の自発性、主体性ということが大切なことを確認すると同時に、ボランティア活動を通じて私たちが成長することができるのは、ボランティア活動が以下のようなジレンマを抱えていて、そのことで悩み、その解決の方策について誠実に向き合うことによるのだと言うことを確認した。

そのジレンマのひとつは、活動から生じるジレンマや悩みを積極的に引き受けざるを得ないことから生じるものである。ボランティア活動は本来的に二面性・矛盾をもっていることを自覚することが重要である。「関わりが長くなり役割と責任を自覚するのに伴って、ボランティアの困難は大きくなる」（中田豊一『ボランティア未来論』コモンズ、2000年）。例えば、自発性にもとづく自由な活動である一方で、相手の状況に規定される活動であることから、困難が生じ、解決を迫られる。

第2に、「マイクロレベルのミスマッチ」（田中弥生『「NPO」幻想と現実』同友館、1999年）ということである。受け入れ側のニーズのみを強調すれば、ボランティア側に義務感ばかりが強くなり、活動が続かない。

第3に、「自発性のパラドックス（逆説）」（金子郁容『ボランティア』岩波新書、1992年）と言われることである。「自ら進んで行動を取った人は、その後もいつその自発性を発揮することを期待され、しかも、傍観しているだけの人の分までの負担を負わされ『割を食う』」。

第4に、「ボランティア活動の辛さ」（筒井のり子「21世紀の市民社会を創るキーとなる職業、ボランティアコーディネーター」前掲『一歩前へ！ボランティアコーディネーター』）である。相手の要望に応えられないことで自分を責め、ボランティア活動がどんどん辛くなる。同様のことを早坂昇は「不信と疲労の悪循環」（早瀬昇「ボランティア団体の組織と運営」内海成治・入江幸男・水野義之編『ボランティア学を学ぶ人のために』世界思想社、1999年）と表現する。自発的な活動には

「ここまですればよい」という基準がないため、相手を見て見ぬふりができない人ほど無理をしてしまい、疲労して休むと周りからは不信と不満をぶつけられ、また無理をするという悪循環が起りやすい。つまり、誠実な人ほど深く悩み落ち込みやすいというものである。

このようなボランティア活動を経験することで初めて体験するボランティア活動を通じて、ボランティア活動に取り組んだものは、双方向性の自覚に達する。このことについて、金子郁容は、「ボランティアという・・・『困っている人を助けてあげること』だと思っている人が多いのではないだろうか。ところが、実際にボランティアに楽しさを見出した人は、ほとんど『助けられているのはむしろ私の方だ』という感想を持つ。・・・私の限られた経験からもそう感じている」「ボランティアは『助ける』ことと『助けられる』ことが融合し、誰が与え誰が受け取っているのか区別することが重要でないと思えるような、不思議な魅力にあふれる関係発見のプロセスである」（金子郁容『ボランティア・もう一つの情報社会』岩波新書、1992年）。ボランティア活動は「する」「してあげる」といった一方的な関係ではなく「する」こと自身に生きがいや喜びを発見する双方向性の行為である（金子郁容『ボランティア』岩波新書）。ボランティア自身が利用者から学ぶ姿勢が重要であり、魅力的なボランティアは援助する人に学びながら自ら積極的に変わることができる人である。授業とその後の討論でも、以上の点についてそれぞれの活動の経験を踏まえて確認しあうことに努めた。

さらに、授業の最後に確認したことは、今日におけるボランティア活動の社会的意味である。仁平典宏は「ボランティアをそれだけで終わらせない何かをつなげるためには、いまの社会にどのような構造があるのかをちゃんと認識し、議論することも必要だ」（「ボランティアは何と向き合うべきか」（『POSSE』vol.12、2011年8月）と述べ、『心からの善意だから、なんでもすればいい』というわけではなく、その時々々の分脈や社会状況を考えて、今はこういう支援が必要だとか、逆にこういう支援をやらない方がいいだろうということが重要』であると指摘している。

ボランティア活動に対して、仁平は、一般的なふたつの対応があるとして、一つは、行政が怠慢になってしまうから、ボランティアなんてやらない方がいい。もう一つは、実際に困っている人がいるのに、そんなことばかりも言っていられない、ということを経験する。ボランティアをめぐる議論は、この二つの意見になりがちだが、「目の前の活動だけに閉じてもいつまでも制度や社会は改善されないから、目の前に活動をやりながら、同時に制度や行政にも働きかけるという第3の選択肢を選ぶ人たちもいます」（仁平はこれが「個人的にはこれが重要な気がしています」と述べている）。

第3の考え方についての「戦後の市民セクター」の二つの考え方には、一つは、市民セクターは国家から独立しなければいけないという考えがある。それは、私たちの活動に国は口をだすなというものである。もう一つは、国家による社会権の保障について、私たちが何でもかんでも下請けすればいいというものではない。生存権保障や公教育は国が国の責任でやって、私たちは私たちの領域をやる。国から自律・独立して活動しているつもりでも、国がやるべき仕事の肩代わりになっていたら逆効果であるとする考えである。仁平は「この二つの考え方が緊張を孕みながら、重要な関係をなしていた」（43頁）と述べているが、このようなことについても考えることがボランティア活動においては大切であり、ボランティア活動の体験を、これからの大学の勉学に活かすことが重要であることについて話しあった。

謝辞 「ボランティア」授業に対する市民の応援について

木村 純

この授業をすすめるにあたって、学生のボランティア活動体験を受け入れていただいた組織や施設だけでなく、そこで活動するボランティアの方々について協力していただいたことも特記しておかなければなりません。それは、第1に、すでに述べたように、受け入れ先のボランティアの方たち、とくにシニアの方たちが、学生を快く迎えて下さり、先輩として指導・助言して下さいました。第2に、体験報告会に参加していただき、学生たちの報告に対して、積極的に意見・感想を言っていただいたことです。第3に、これらのボランティアの方たちが自分たちの研究会に学生の体験報告の機会を設けていただいたことや、おりおりのイベント（お花見会や忘年会）に招待していただいたことです。

とくにシニアの方たちは、ボランティアの高齢化や担い手確保に苦勞しており、学生が活動体験をするということを喜んでくださり、丁寧なアドバイスをしていただきました。積極的に彼らの話を聴く機会を作っていただいたということがありました。とくに、高等教育推進機構の生涯学習計画研究部門がさっぽろ市民カレッジや道民カレッジなどを札幌市や北海道との連携によってその発足に参画し、その継続と発展に関わり、講座などの企画・実施を行うなかで、派生的に生まれた二つの研究会（さっぽろボランティアコーディネーター研究会、生涯学習と博物館研究会）のお世話になりました。例えば、5月19日のさっぽろボランティアコーディネーター研究会の例会では、昨年度この授業を受け、ネパールでボランティア活動をした学生が「ネパールの震災復興のボランティア」について、スライドを用いながら報告をし、たくさんの質問をしていただきました。今年度の学生も6人参加して、報告を聴き、その後のお花見会にも参加しごちそうをしていただくということがありました。

これらは、おとなの多様な生き方を知る機会としても(自分自身が今後、どのように生きるかについて多様なモデルを提供していただく)学生たちにとって貴重な機会となりました。

編集後記

新渡戸カレッジボランティアは、今年度で開講3年目を迎えました。2014年は22人が、2015年は9人が、そして2016年度は15人が履修を完了し、総数46人の学生がボランティアの授業を受講しました。このうちこの春8人の学生が卒業しました。ボランティア履修者（履修完了者）13人中8人の学生が新渡戸カレッジカリキュラム授業科目を修了しました。うち5人は交換留学などで留年となり卒業には至りませんでした。学生たちは、ボランティア体験学習を通じて、一步踏み出す勇気を持ち、それぞれの目標に向かって歩き出しています。最後のまとめの講義後、卒業後の進路について報告しに来てくれた4年生もいました。嬉しい知らせがあり、本当に喜んでいます。

今年度は、新渡戸カレッジフェローの長岡宗男様をはじめ、多くのボランティアの協力を得て、一日体験実習週間を設け、学生たちのボランティアへの参加意欲をはぐくむための新しい取り組みを導入しました。また、ふりかえり会では、「グローバル人材とボランティア」というテーマでワークショップを行い、ボランティア体験を通じて「リーダーシップ」とは何かについて議論しました。木村先生のボランティア講義から学生も私も多くのことを学びました。ボランティアをする目的やボランティアの内容は多様ですが、ボランティアは、特定の個人または組織にとって都合の良い労働者でも、受け身の手伝いでもなく、自ら主体的に考え、自律的に提案し行動することで社会に貢献することに価値を見出す人々であるということでした。私は、未来を切り開くこれからのリーダーは、このような崇高なボランティア精神をもってほしいと思いました。

木村先生にこの講義をお願いしたことを私は誇りに思います。そして木村先生と3年間、二人三脚でお仕事ができ、大変光栄に思います。3年間、新渡戸カレッジのためにご尽力くださいまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。（川）

お疲れ様でした！



新渡戸カレッジボランティア 2016 年度報告書

発行日	2017 年 4 月 初版 (冊子体)
発行者	北海道大学新渡戸カレッジ
	科目責任者 木村純・川畑智子

